

年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合について 【概要版】

国民健康保険・協会けんぽ、後期高齢者医療分析結果

1. 目的

国では、使用促進の新目標として、ジェネリック医薬品使用割合を令和5年度末までに全ての都道府県で80%以上にすることを目標に掲げている。

山梨県全体(国保、協会けんぽ、後期、各組合)の使用割合は、令和3年9月時点で81.8%となっており、国の目標値は達成しているが、全国31位と依然として全国的に低迷している状況である。

ジェネリック医薬品使用割合(年代別等)に関する状況を把握し、今後の事業の検討材料にするため、国民健康保険と協会けんぽのデータを統合した分析及び後期高齢者医療のデータ分析資料を作成した。

2. 集計対象

・国民健康保険と協会けんぽ及び後期高齢者の内科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計(電子レセプトに限る、再審査分を除く)

・令和3年9月診療分(10月審査分)レセプトを使用

3. 算出方法

・[後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量])で算出

・項目の「対象薬剤数」とは[後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]

・「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう

4. 統計分析

(1) 薬効分類別の使用割合(0歳~74歳)

①使用割合の状況(総数)

※資料No.1-4より

	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
使用割合(総数)	77.1%	78.6%	1.5%

・0歳から74歳までの使用割合の総数は、78.6%であり、昨年度より1.5%伸びているが、国で掲げた目標値80%には、まだ届いていない状況である。

②使用割合の状況(薬効分類別)

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】 ※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤+対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤+対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,703+1,765)	96.5%	放射性医薬品 (334+2,548)	13.1%
滋養強壮薬 (116,320+134,884)	86.2%	その他の治療を主目的としない医薬品 (210+639)	32.9%
消化器官用薬 (3,119,028+3,621,185)	86.1%	人工透析用薬 (535+1,262)	42.4%

・使用割合が高い薬剤は、歯科口腔用薬、滋養強壮薬、消化器官用薬という状況である。

・使用割合が低い薬剤は、放射性医薬品、その他の治療を主目的としない医薬品、人工透析用薬という状況である。

③昨年度との比較【薬効分類別使用割合】

※資料No.1-4より

薬効分類別	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
34 人工透析用薬	23.2%	42.4%	19.2%
82 非アルカロイド系麻薬	41.6%	54.4%	12.8%
72 診断用薬(対外診断用医薬品を除く)	68.4%	78.9%	10.5%

・昨年度から最も伸びたのは、人工透析用薬であり、19.2%伸びている。

(2) 年齢階級別の使用割合(0歳~74歳)

①使用割合の状況

※資料No.2-1、2-2より

年齢階級	0歳~4歳	5歳~9歳	10歳~14歳	15歳~19歳	20歳~24歳	25歳~29歳	30歳~34歳	35歳~39歳
使用割合	76.3%	67.0%	68.7%	71.2%	76.6%	76.1%	78.5%	77.3%
年齢階級	40歳~44歳	45歳~49歳	50歳~54歳	55歳~59歳	60歳~64歳	65歳~69歳	70歳~74歳	
使用割合	77.3%	77.8%	80.1%	79.1%	80.0%	80.0%	78.6%	

・5歳から19歳までの若年層の使用割合が低く、その中で最も低い年齢階級は5歳から9歳で67.0%である。

・50歳以上において使用割合が高く、その中で最も高い年齢階級は50歳から54歳で80.1%である。

(2) 年齢階級別の使用割合(0歳~74歳)

②使用割合の低い要因

・5歳から19歳の使用割合が低い状況は、保護者がジェネリック医薬品の有効性や安全性に不安を抱いていた、県内で多くの市町村において義務教育終了まで窓口無料化が実施されていることなどから、ジェネリック医薬品へ変更しようとする動機が働かず、使いたれた薬を希望することが要因の1つと考えられる。

③昨年度との比較【年齢階級別使用割合(%)】

※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差	年齢階級	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
0歳から4歳	70.4	76.3	5.9	40歳から44歳	75.7	77.3	1.6
5歳から9歳	64.3	67.0	2.7	45歳から49歳	76.6	77.8	1.2
10歳から14歳	64.6	68.7	4.1	50歳から54歳	77.9	80.1	2.2
15歳から19歳	69.8	71.2	1.4	55歳から59歳	77.8	79.1	1.3
20歳から24歳	78.0	76.6	△1.4	60歳から64歳	79.2	80.0	0.8
25歳から29歳	76.6	76.1	△0.5	65歳から69歳	78.4	80.0	1.6
30歳から34歳	74.5	78.5	4.0	70歳から74歳	77.3	78.6	1.3
35歳から39歳	76.6	77.3	0.7				

・昨年度と比較すると、20歳から24歳、25歳から29歳以外の年齢階級において使用割合は伸びている。

・0歳から19歳までの若年層の使用割合は伸びが高く、特に0歳から4歳の年齢階級は昨年度から5.9%と伸びており、全階級で最も高い伸びとなっている。

・昨年度と比較し、20歳から24歳において、8つの薬効分類が低くなっており、そのうち最も低かったのは、その他の代謝性医薬品で△13.9%である。

④昨年度との比較【0歳から4歳までの薬効分類別の使用割合】

※資料No.3-2より

薬効分類別	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
21 循環器官用薬	54.9%	82.8%	27.9%
39 その他の代謝性医薬品	58.3%	72.6%	14.3%
11 中枢神経系用薬	78.2%	91.8%	13.6%

・最も高い伸びとなっている、0歳から4歳までの薬効分類別の使用割合において、特に循環器官用薬やその他の代謝性医薬品の伸びが高くなっている。

(3) 後期高齢者医療における年齢階級別の使用割合(75歳以上)

①使用割合の状況

※資料No.4-3より

年齢階級	75歳~79歳	80歳~84歳	85歳~89歳	90歳~94歳	95歳~99歳	100歳以上	総数
令和2年9月	75.1%	74.9%	75.5%	77.0%	78.9%	84.2%	75.6%
令和3年9月	76.6%	76.5%	77.4%	78.4%	80.1%	83.4%	77.2%
差	1.5%	1.6%	1.9%	1.4%	1.2%	△0.8%	1.6%

・75歳以上の使用割合の総数は、77.2%であり、昨年度より1.6%伸びているが、国で掲げた目標値80%にはまだ届いていない状況である。

・年齢階級別に見ると100歳以上において使用割合が最も高く、83.4%である。

・昨年度と比較すると、85歳から89歳の年齢階級は昨年度から1.9%と伸びており、75歳以上で最も高い伸びとなっている。

5. まとめ

・今回の統計結果から、本県では昨年度と同様に若年層(5歳から19歳)の使用割合が低いことが分かった。0歳から74歳までの使用割合は78.6%(昨年度より1.5%の伸び)、75歳以上の使用割合は77.2%(昨年度より1.6%の伸び)であり、着実に伸びており、国で掲げた目標値の80%に近付いていることが分かった。このことより、保険者協議会は、県、医師会、歯科医師会、薬剤師会などの関係機関と連携し、保護者の方々にジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを引き続き周知していく必要があると考える。

年齢階級別、薬効分類別ジェネリック 医薬品使用割合について

～国民健康保険・協会けんぽ、後期高齢者医療分析結果～

(令和3年度)

山梨県保険者協議会

目 次

1.	目的	1
2.	集計対象	2
3.	算出方法	2
4.	統計分析	
	（1）薬効分類別の使用割合	3
	（2）年齢階級別の使用割合	8
	（3）若年層における薬効分類別の使用割合	31
	（4）後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合	41
5.	まとめ	53

■年齢階級別、薬効分類別ジェネリック医薬品使用割合
～データ分析(数量ベース)～

1. 目的

国では、医療費の抑制や患者の負担軽減につながるため、令和3年6月に閣議決定した骨太の方針2021で、使用促進の新目標として、ジェネリック医薬品使用割合を令和5年度末までに全ての都道府県で80%以上にすることを目標に掲げている。

山梨県の使用割合については、年々上昇傾向で、令和3年9月時点で81.8%となっており、国の目標は達成しているが、全国的にみると31位であり、まだまだ低迷している状況である。

このようなことから、本協議会では昨年度と同様に、ジェネリック医薬品使用割合(年代別等)について、国保と協会けんぽのデータを統合した分析を行うとともに、新たに後期高齢者医療のデータを追加し、幅広い年齢層の状況を把握する資料を作成した。

—都道府県別ジェネリック医薬品使用割合(順位別)—

単位(%)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年		令和3年		令和3年		令和3年					
	県名	4月～3月	県名	4月～3月	県名	4月～3月	県名	4月～3月	県名	4月	県名	5月	県名	6月	県名	7月	県名	8月	県名	9月
	全国	70.2	全国	75.9	全国	79.1	全国	81.4	全国	82.4	全国	82.4	全国	82.4	全国	81.7	全国	81.7	全国	81.6
1	沖縄	80.8	沖縄	85.5	沖縄	87.8	沖縄	89.0	沖縄	89.9	沖縄	89.7	沖縄	89.9	沖縄	89.1	沖縄	89.2	沖縄	89.0
2	鹿児島	77.9	鹿児島	82.6	鹿児島	84.9	鹿児島	86.6	鹿児島	87.6	鹿児島	87.6	鹿児島	87.4	鹿児島	86.7	鹿児島	86.8	鹿児島	86.6
3	岩手	76.3	岩手	81.9	岩手	84.4	岩手	86.1	岩手	87.0	岩手	87.0	岩手	87.1	岩手	86.0	岩手	86.0	岩手	86.1
4	宮崎	75.3	宮崎	80.5	島根	83.2	山形	85.0	宮崎	86.0	宮崎	86.0	宮崎	85.9	宮崎	85.2	宮崎	85.3	宮崎	85.3
5	島根	74.8	島根	80.3	宮崎	83.1	宮崎	85.0	山形	85.9	山形	85.9	山形	85.7	島根	85.2	島根	85.3	山形	85.1
31	秋田	70.4	愛知	76.3	大分	79.6	愛知	81.8	千葉	82.7	滋賀	82.7	滋賀	82.6	滋賀	82.0	石川	81.9	山梨	81.8
32	栃木	70.4	福島	76.2	愛知	79.5	滋賀	81.8	滋賀	82.7	三重	82.6	山梨	82.6	三重	82.0	滋賀	81.9	滋賀	81.8
33	福島	69.9	滋賀	76.1	滋賀	79.5	青森	81.6	青森	82.4	青森	82.5	三重	82.6	山梨	81.7	山梨	81.8	石川	81.8
34	茨城	69.7	茨城	75.2	茨城	78.6	茨城	81.0	茨城	82.1	山梨	82.1	青森	82.5	青森	81.7	青森	81.7	青森	81.7
35	兵庫	69.4	兵庫	75.0	兵庫	78.2	山梨	80.8	山梨	82.0	茨城	82.1	茨城	82.1	茨城	81.5	茨城	81.5	茨城	81.4
41	京都	67.4	和歌山	73.3	山梨	76.9	広島	79.2	香川	80.3	大阪	80.2	香川	80.3	香川	79.6	香川	79.6	香川	79.5
43	和歌山	67.1	大阪	73.1	広島	76.7	大阪	79.1	大阪	80.2	京都	80.1	京都	80.0	京都	79.4	京都	79.5	京都	79.3
44	東京	65.9	山梨	71.8	香川	76.6	奈良	78.8	奈良	79.6	奈良	79.5	高知	79.7	高知	79.0	高知	79.3	高知	79.1
45	高知	64.8	東京	71.6	高知	75.4	高知	78.4	高知	79.5	高知	79.5	奈良	79.5	奈良	79.0	奈良	78.9	奈良	78.8
46	山梨	64.0	高知	71.1	東京	75.3	東京	77.7	徳島	78.7	東京	78.9	東京	78.8	東京	78.3	徳島	78.3	東京	78.0
47	徳島	61.8	徳島	68.5	徳島	72.5	徳島	76.8	東京	78.7	徳島	78.7	徳島	78.8	徳島	78.1	東京	78.3	徳島	77.9

※厚生労働省「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」より

2. 集計対象

- 国保(一般分、退職分)・協会けんぽ(一般分)、後期高齢者医療の医科、DPC、歯科、調剤レセプトについて集計したものである。(ただし、電子レセプトに限る。)
- DPCレセプトについては、直接の診療報酬請求の対象としていないコーディングデータを集計対象としている。
- 再審査分を除くレセプトを集計対象としている。
- 令和3年9月診療分(10月審査分)レセプトを使用
- 今回の統計資料作成において、国保、協会けんぽともに処方がない薬剤については対象外としている。(後期高齢者医療のデータも同様)
 - 19. その他の神経系及び感覚器用医薬品、41. 細胞賦活用薬、
 - 49. その他の組織細胞機能用医薬品、51. 生薬、52. 漢方製剤、
 - 59. その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品、63. 生物学的製剤、
 - 64. 寄生動物用薬、69. その他の病原生物に対する医薬品、71. 調剤用薬、
 - 73. 公衆衛生用薬、74. 体外診断用医薬品

3. 算出方法

- $$\frac{\text{[後発医薬品の数量]}}{\text{([後発医薬品のある先発医薬品の数量]+[後発医薬品の数量])}}$$
で算出している。なお、項目の「対象薬剤数」とは
$$\text{[後発医薬品のある先発医薬品の数量]+[後発医薬品の数量]}$$
「切替薬剤数」とは
$$\text{[後発医薬品の数量]}$$
の事を示す。
- 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいう。
- 薬効分類は37薬剤に分類、「日本標準商品分類」の「中分類 87-医薬品及び関連製品」に準拠して設定している。
- 年齢階級は5歳刻み、年齢は実際の診療年月末日時点で判別している。

4. 統計分析 (1) 薬効分類別の使用割合 (資料No.1-1、1-2、1-3、1-4)

《使用割合の状況(総数)》

○0歳から74歳までの使用割合の総数は、78.6%であり、昨年度より1.5%伸びているが、国で掲げた目標値80%には、まだ届いていない状況である。

※資料No.1-4より

	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
使用割合(総数)	77.1%	78.6%	1.5%

《使用割合の状況(薬効分類別)》

○全年齢階級対象に薬効分類別で見ると、使用割合が高い薬剤は歯科口腔用薬96.5%、滋養強壮薬86.2%、消化器官用薬86.1%という状況である。

○また、使用割合が低い薬剤は放射性医薬品13.1%、その他の治療を主目的としない医薬品32.9%、人工透析用薬42.4%という状況である。

【0歳から74歳において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】 ※資料No.1-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (1,703÷1,765)	96.5%	放射性医薬品 (334÷2,548)	13.1%
滋養強壮薬 (116,320÷134,884)	86.2%	その他の治療を主目的としない 医薬品(210÷639)	32.9%
消化器官用薬 (3,119,028÷3,621,185)	86.1%	人工透析用薬 (535÷1,262)	42.4%

※歯科口腔用薬 (歯科用局所麻酔剤、歯科用抗生物質製剤等)

《被保険者からみた場合の使用割合に差異がある要因》

○被保険者が市販薬として、広く認知されているものについては使用割合が高い傾向にあるが、使用割合が低い薬剤については市販薬として目に触れることが少ないことから、後発医薬品に変更することに対して、抵抗があることや意識が低いことが考えられる。

《昨年度との比較》

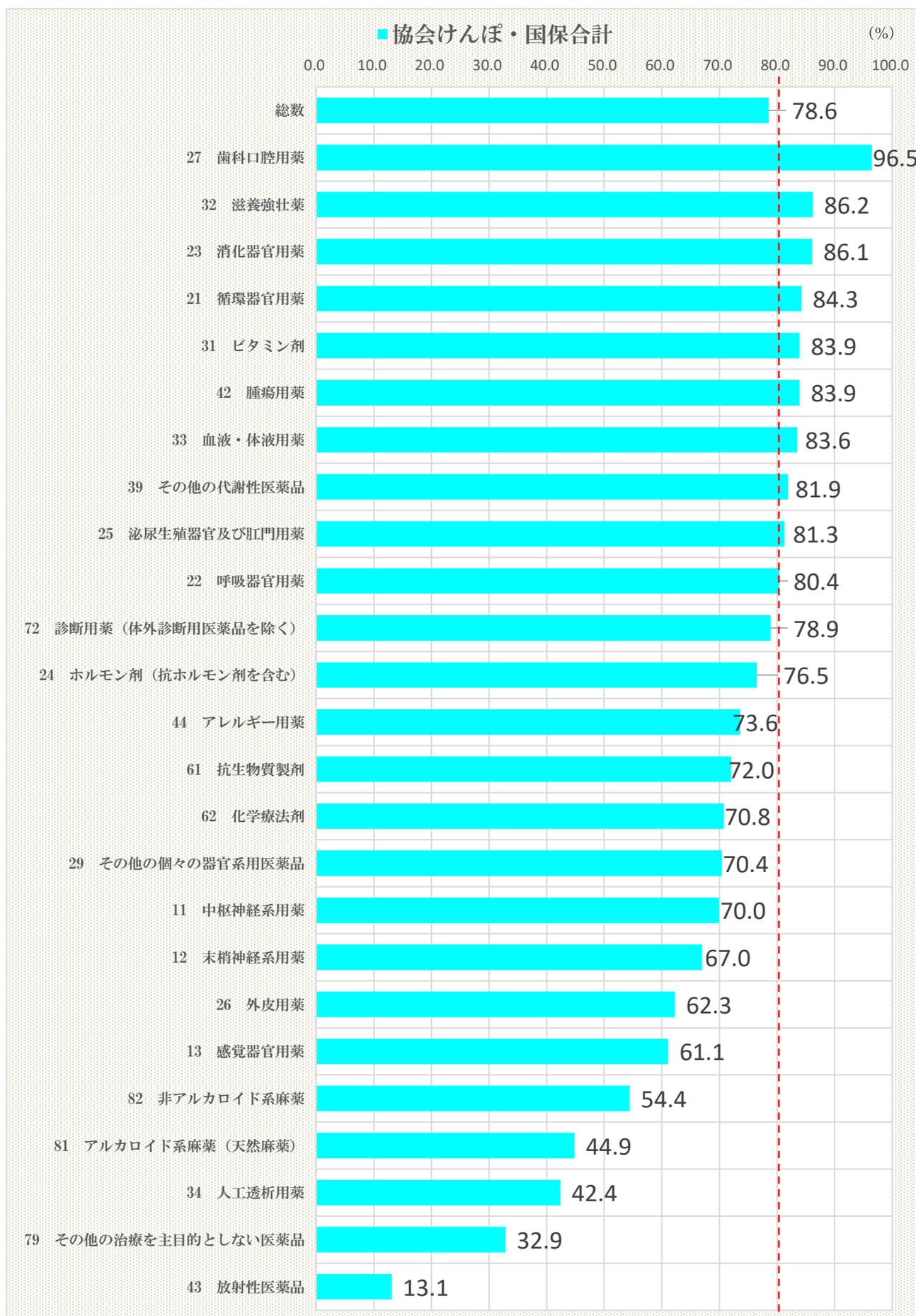
○昨年度から最も伸びたのは、人工透析用薬であり、19.2%伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】 ※資料No.1-4より

薬効分類別	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
34 人工透析用薬	23.2%	42.4%	19.2%
82 非アルカロイド系麻薬	41.6%	54.4%	12.8%
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	68.4%	78.9%	10.5%

薬効分類別の使用割合

資料No.1-1



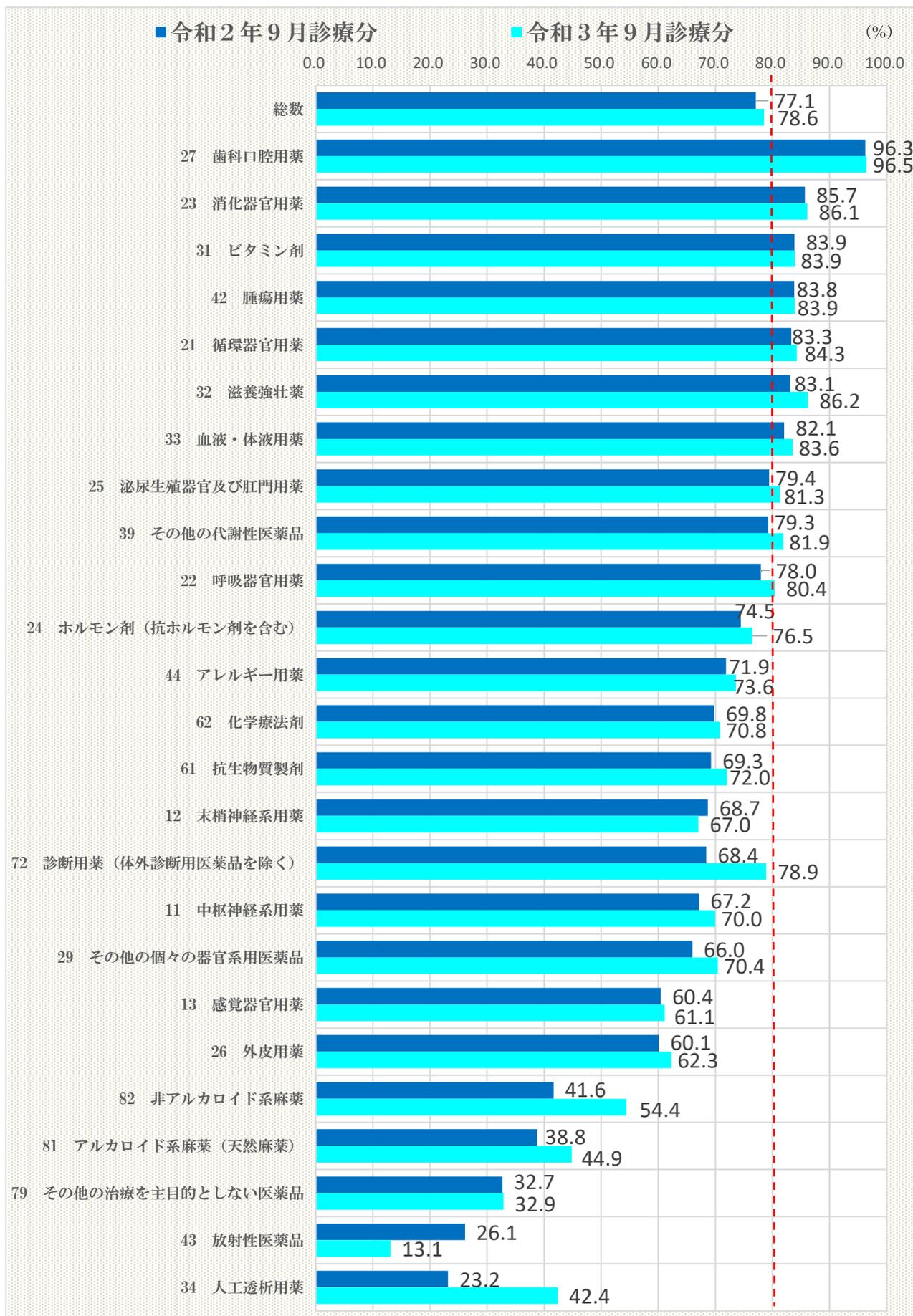
薬効分類別の使用割合

資料No.1-2

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	78.6	23,768,985	18,672,336
27 歯科口腔用薬	96.5	1,765	1,703
32 滋養強壯薬	86.2	134,884	116,320
23 消化器官用薬	86.1	3,621,185	3,119,028
21 循環器官用薬	84.3	6,209,383	5,233,417
31 ビタミン剤	83.9	802,662	673,812
42 腫瘍用薬	83.9	84,442	70,876
33 血液・体液用薬	83.6	1,633,620	1,365,144
39 その他の代謝性医薬品	81.9	1,726,084	1,413,515
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	81.3	323,618	263,144
22 呼吸器官用薬	80.4	804,043	646,487
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	78.9	4,496	3,548
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	76.5	179,141	137,033
44 アレルギー用薬	73.6	1,225,292	901,802
61 抗生物質製剤	72.0	215,506	155,211
62 化学療法剤	70.8	107,008	75,732
29 その他の個々の器官系用医薬品	70.4	4,530	3,191
11 中枢神経系用薬	70.0	4,138,298	2,895,334
12 末梢神経系用薬	67.0	286,591	192,102
26 外皮用薬	62.3	1,955,402	1,218,135
13 感覚器官用薬	61.1	292,648	178,857
82 非アルカロイド系麻薬	54.4	6,409	3,489
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	44.9	7,530	3,378
34 人工透析用薬	42.4	1,262	535
79 その他の治療を主目的としない医薬品	32.9	639	210
43 放射性医薬品	13.1	2,548	334

薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-3



薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.1-4

薬効分類別	令和2年9月診療分			令和3年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	77.1	22,577,187	17,402,122	78.6	23,768,985	18,672,336
27 歯科口腔用薬	96.3	1,722	1,658	96.5	1,765	1,703
23 消化器官用薬	85.7	3,522,971	3,019,025	86.1	3,621,185	3,119,028
31 ビタミン剤	83.9	804,479	674,838	83.9	802,662	673,812
42 腫瘍用薬	83.8	85,909	72,015	83.9	84,442	70,876
21 循環器官用薬	83.3	5,910,594	4,923,013	84.3	6,209,383	5,233,417
32 滋養強壯薬	83.1	123,034	102,256	86.2	134,884	116,320
33 血液・体液用薬	82.1	1,567,972	1,286,808	83.6	1,633,620	1,365,144
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	79.4	288,244	228,912	81.3	323,618	263,144
39 その他の代謝性医薬品	79.3	1,645,835	1,304,707	81.9	1,726,084	1,413,515
22 呼吸器官用薬	78.0	728,120	567,855	80.4	804,043	646,487
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	74.5	162,244	120,819	76.5	179,141	137,033
44 アレルギー用薬	71.9	1,151,787	827,843	73.6	1,225,292	901,802
62 化学療法剤	69.8	110,354	77,061	70.8	107,008	75,732
61 抗生物質製剤	69.3	211,848	146,709	72.0	215,506	155,211
12 末梢神経系用薬	68.7	292,873	201,201	67.0	286,591	192,102
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	68.4	3,812	2,608	78.9	4,496	3,548
11 中枢神経系用薬	67.2	3,695,051	2,481,900	70.0	4,138,298	2,895,334
29 その他の個々の器官系用医薬品	66.0	5,823	3,842	70.4	4,530	3,191
13 感覚器官用薬	60.4	258,582	156,299	61.1	292,648	178,857
26 外皮用薬	60.1	1,990,701	1,197,251	62.3	1,955,402	1,218,135
82 非アルカロイド系麻薬	41.6	4839.75	2015.75	54.4	6409.15	3489
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	38.8	6,197	2,404	44.9	7,530	3,378
79 その他の治療を主目的としない医薬品	32.7	569	186	32.9	639	210
43 放射性医薬品	26.1	1,917	501	13.1	2,548	334
34 人工透析用薬	23.2	1,709	396	42.4	1,262	535

4. 統計分析 (2)年齢階級別の使用割合 (資料No.2-1、2-2、2-3、2-4)

《若年層の使用割合の状況》

- 協会けんぽ、国保分の合計を年代別に見た場合、5歳から19歳までの若年層の使用割合が低い状況である。この年代においては、概ね70%を下回る状況である。
- 具体的には、5歳から9歳が67.0%、10歳から14歳が68.7%、15歳から19歳が71.2%という状況である。

《使用割合が高い年齢階級の状況》

- 年齢別に見ると50歳以上においては使用割合が高い状況にあり、その中でも最も高い年齢階級が50歳から54歳であり、使用割合は80.1%と高い状況にある。

《若年層の使用割合の低い要因》

- 5歳から19歳の使用割合が低い状況は、保護者がジェネリック医薬品の有効性や安全性に不安を抱いていたり、県内で多くの市町村において義務教育終了まで窓口無料化が実施されていることなどから、ジェネリック医薬品へ変更しようとする動機が働かず、使いたくない薬を希望することが要因の1つと考えられる。

《高齢者の使用割合の高い要因》

- 60歳以上75歳未満の使用割合が高い要因の一つとして、現役を退いた年金受給者、及び定年退職後に国保に加入する方は、現役時より収入が減ることから、自己負担額に対するコスト意識が高いことが考えられる。

《昨年度との比較》

- 昨年度と比較すると、20歳から24歳、25歳から29歳以外の年齢階級において使用割合は伸びている。
- 0歳から19歳までの若年層の使用割合は伸びが高く、特に0歳から4歳の年齢階級は昨年度から5.9%と伸びており、全階級で最も高い伸びとなっている。
- 昨年度と比較し、20歳から24歳において、8つの薬効分類が低くなっており、そのうち最も低かったのは、その他の代謝性医薬品で△13.9%である。

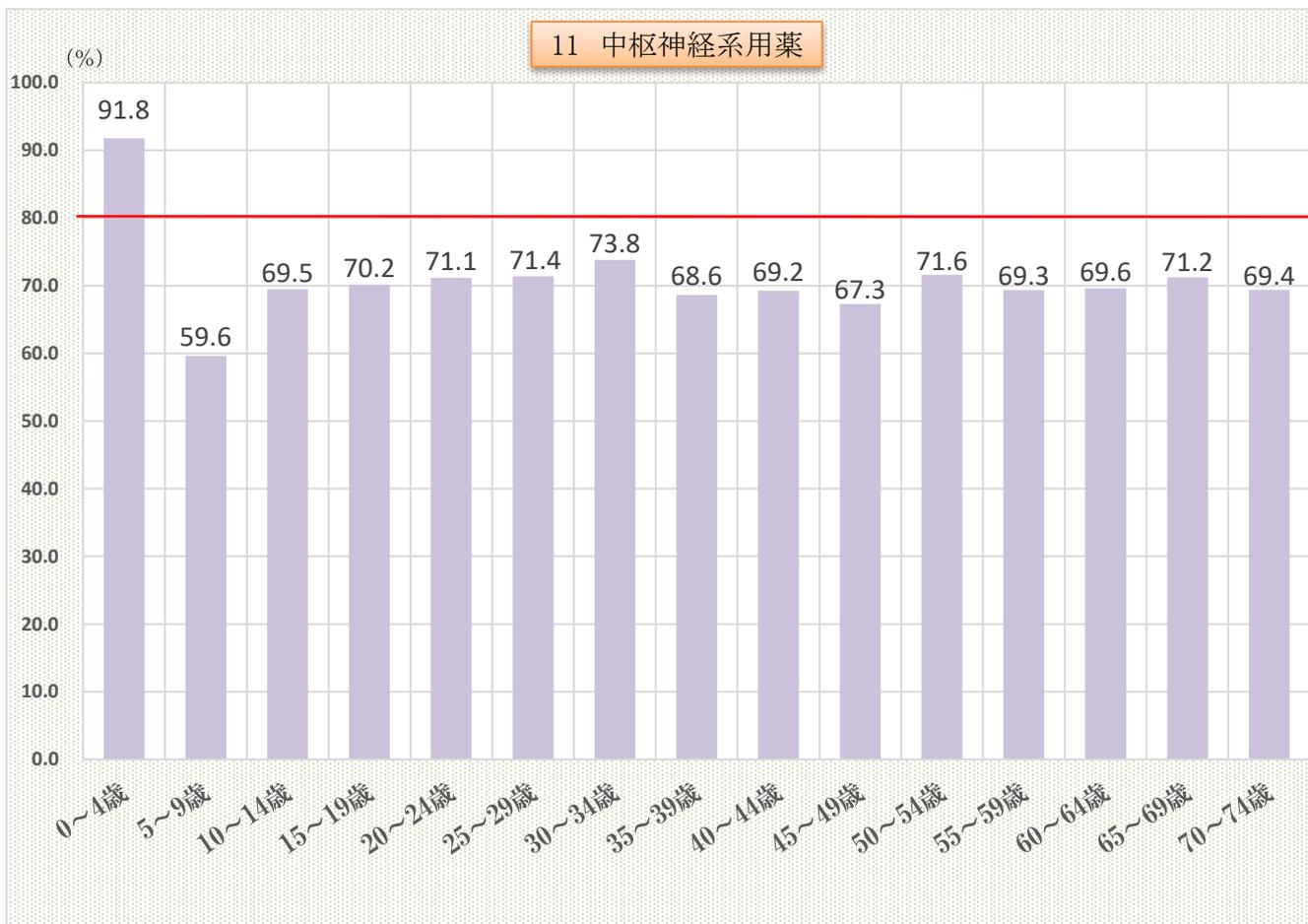
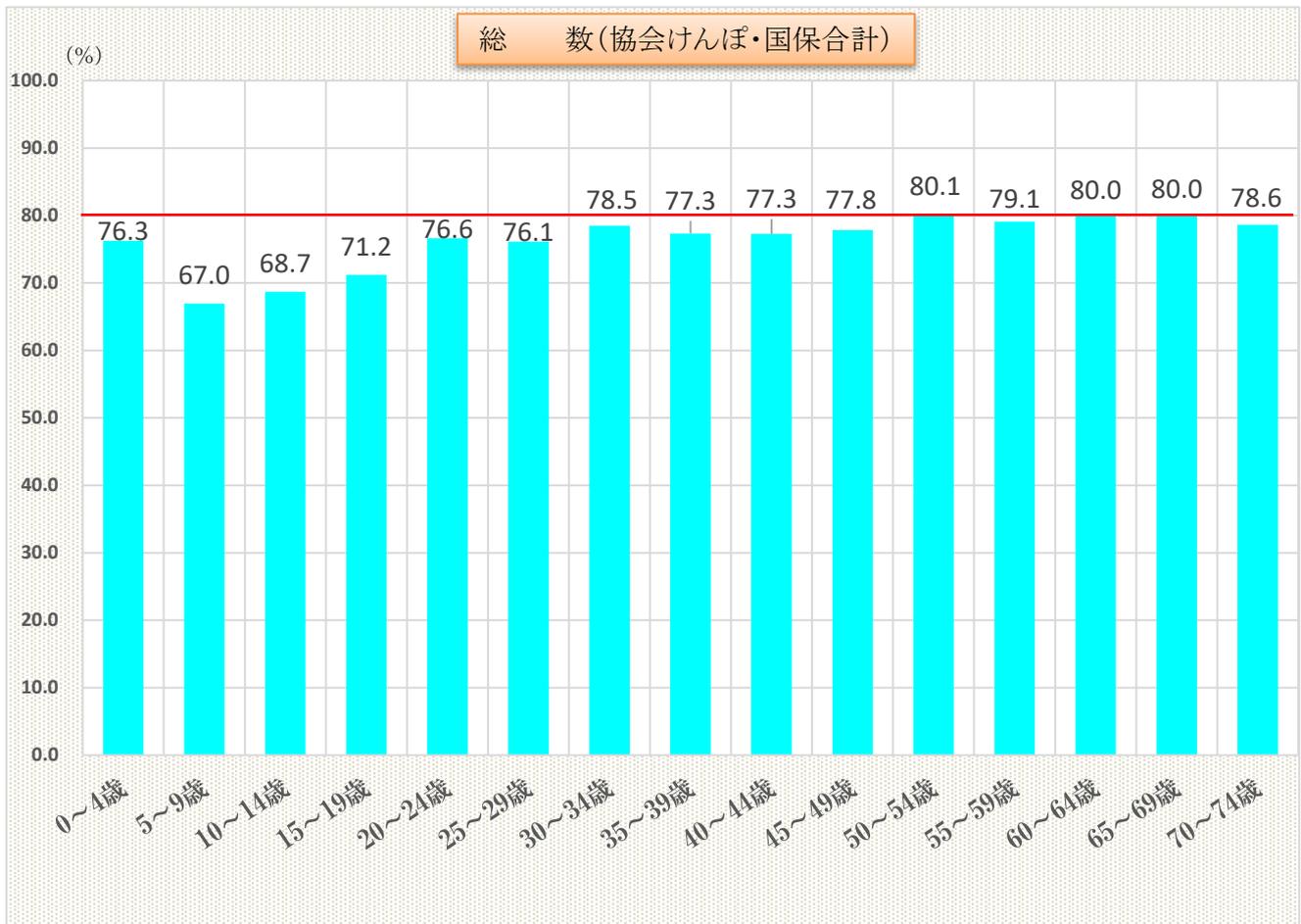
【年齢階級別使用割合(%)】

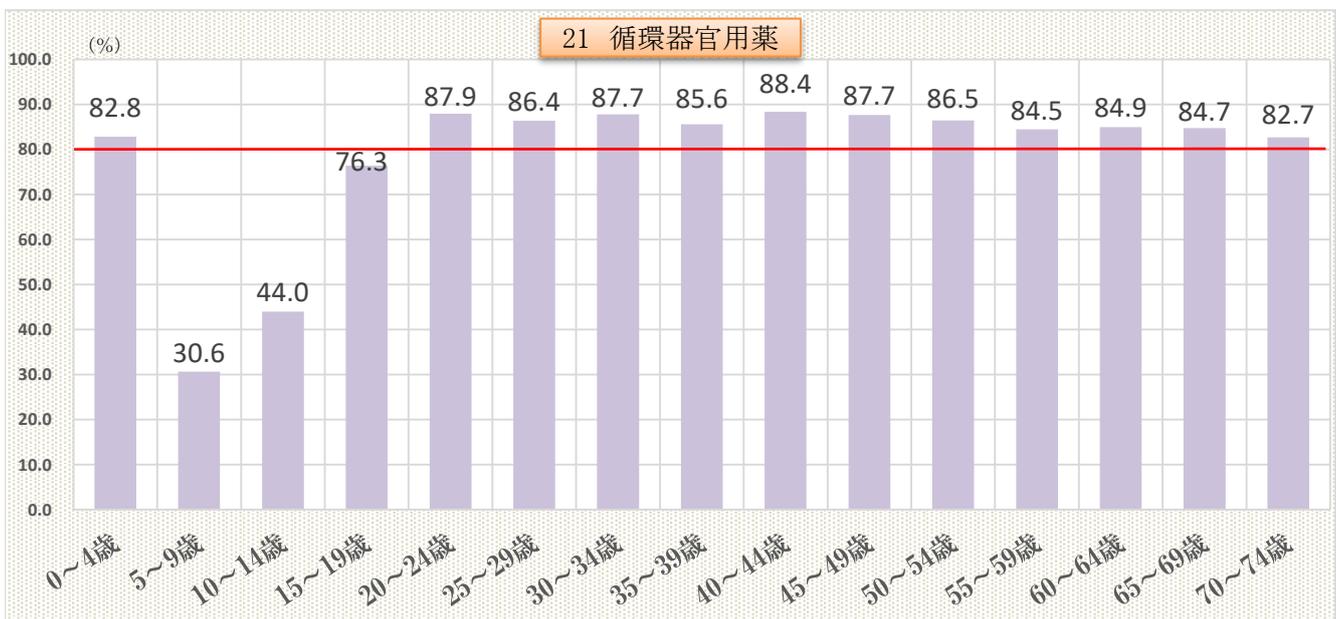
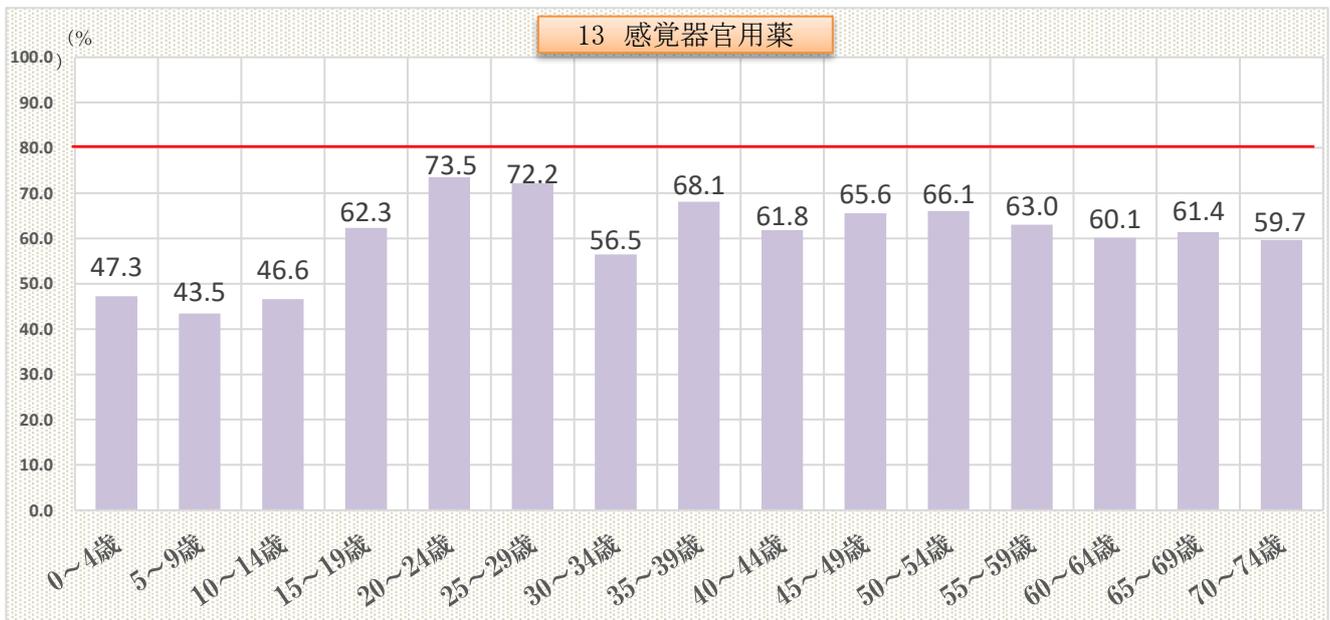
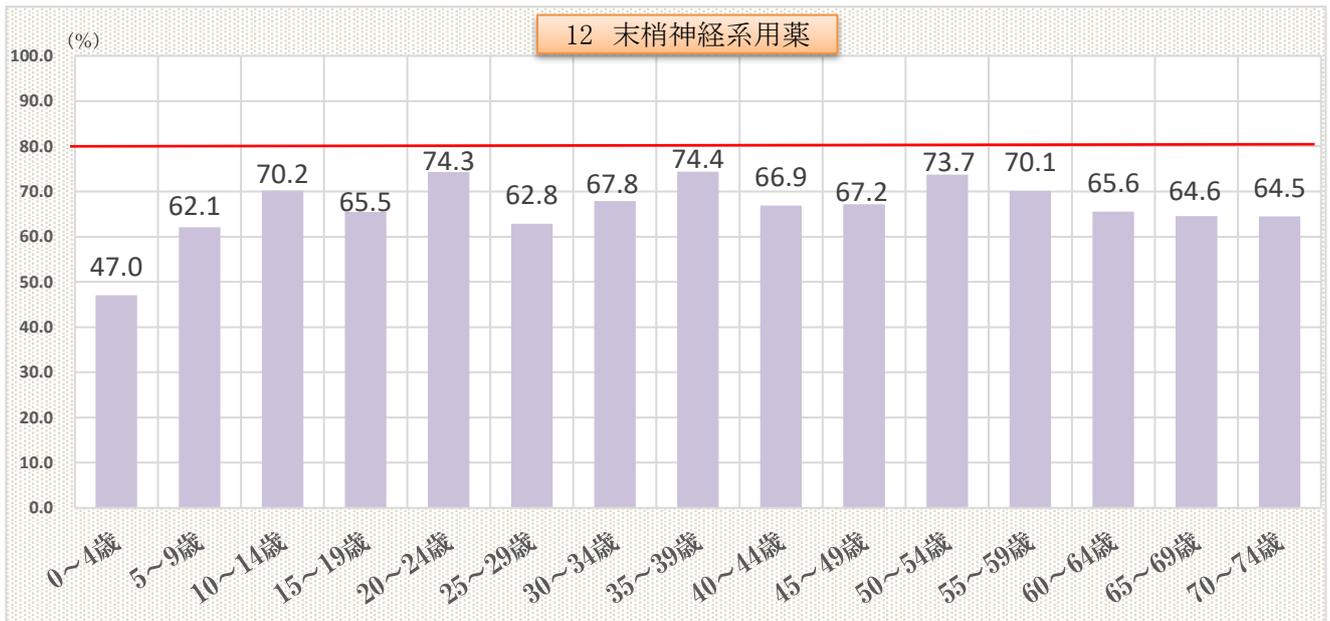
※資料No.2-3、2-4より

年齢階級	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
0歳から4歳	70.4	76.3	5.9
5歳から9歳	64.3	67.0	2.7
10歳から14歳	64.6	68.7	4.1
15歳から19歳	69.8	71.2	1.4
20歳から24歳	78.0	76.6	△1.4
25歳から29歳	76.6	76.1	△0.5
30歳から34歳	74.5	78.5	4.0
35歳から39歳	76.6	77.3	0.7
40歳から44歳	75.7	77.3	1.6
45歳から49歳	76.6	77.8	1.2
50歳から54歳	77.9	80.1	2.2
55歳から59歳	77.8	79.1	1.3
60歳から64歳	79.2	80.0	0.8
65歳から69歳	78.4	80.0	1.6
70歳から74歳	77.3	78.6	1.3

年齢階級別の使用割合

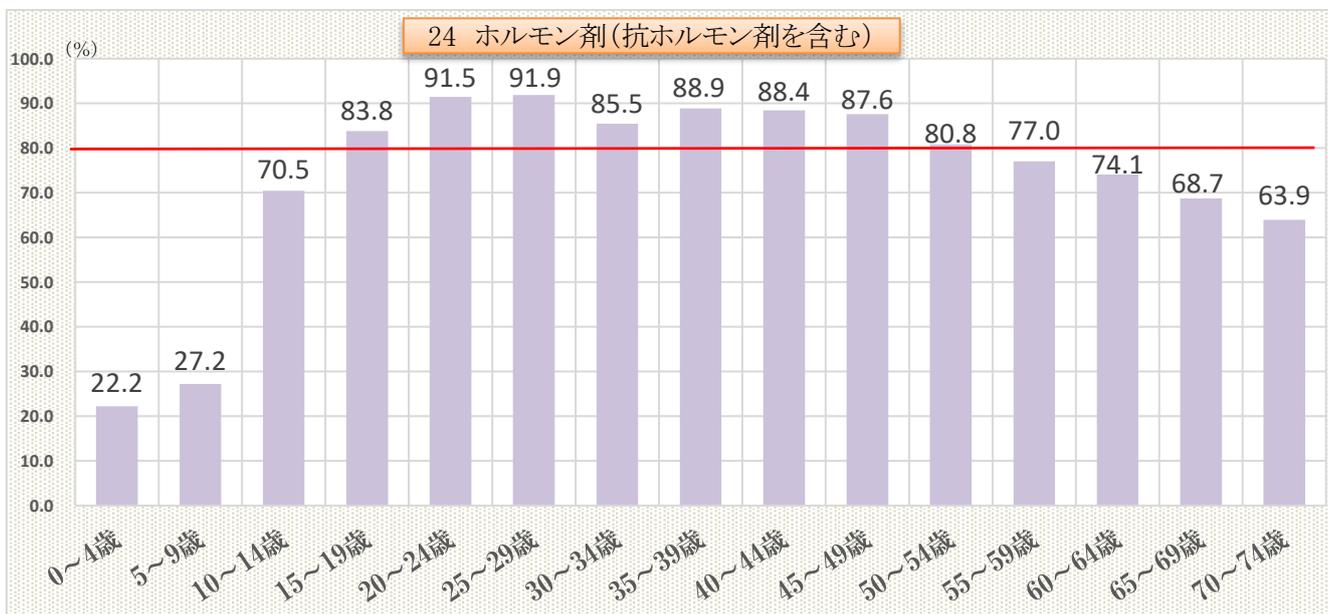
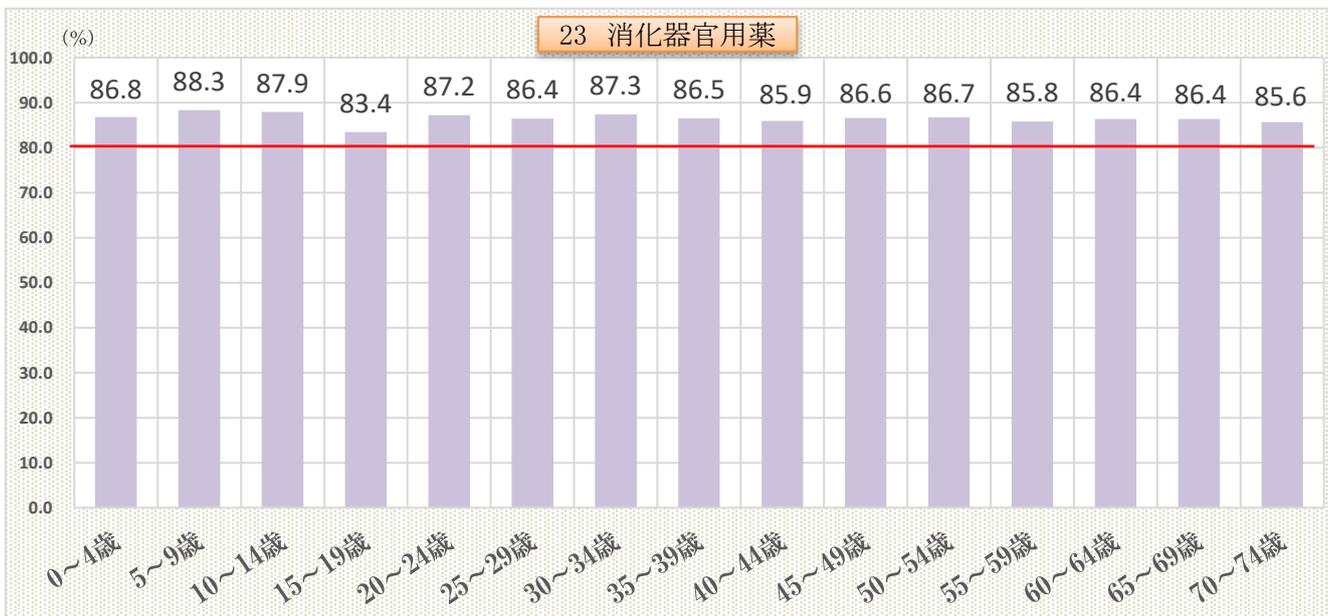
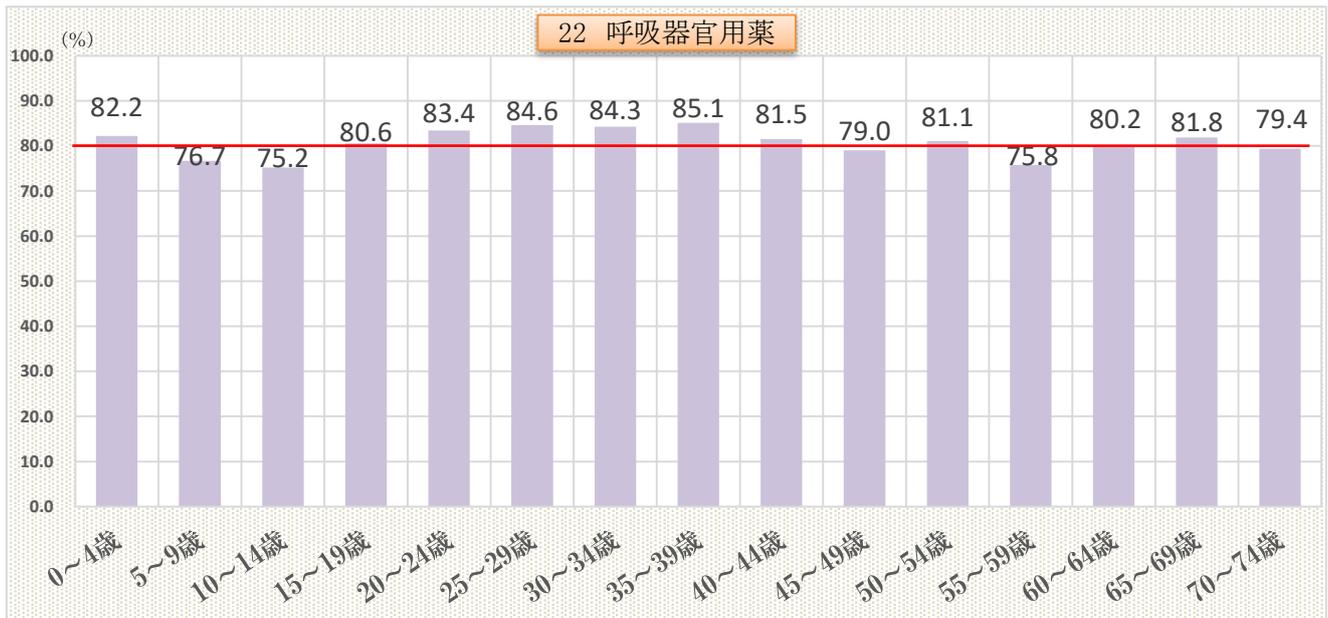
資料No.2-1





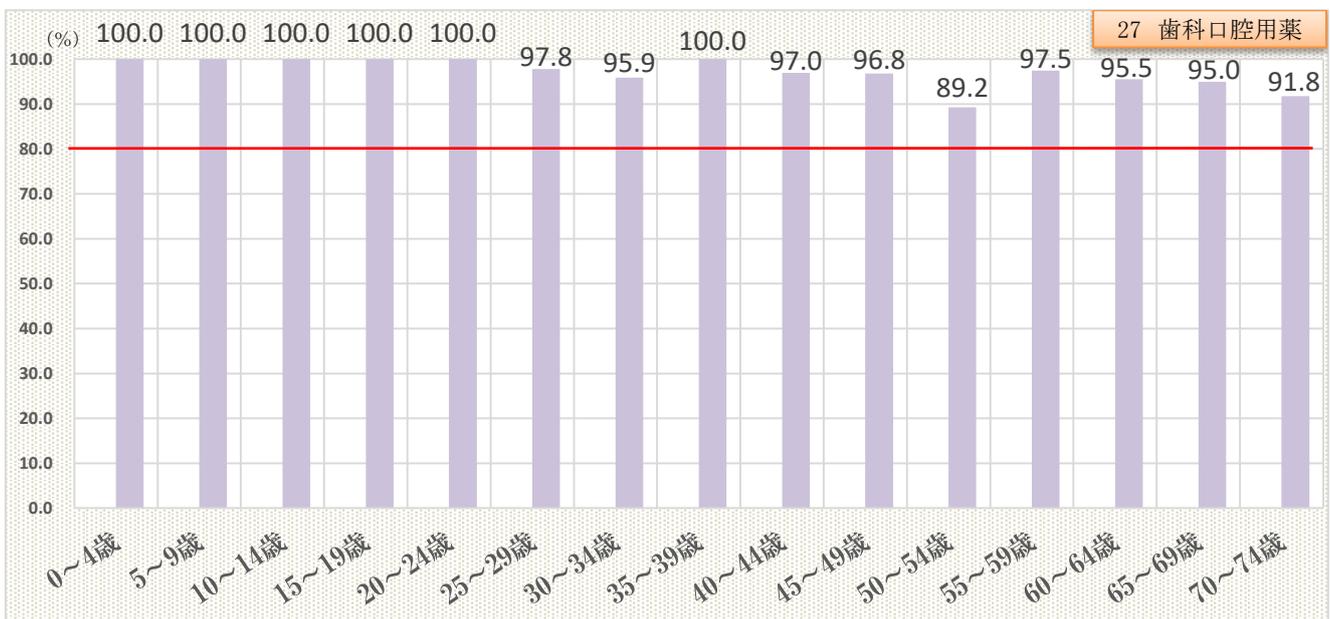
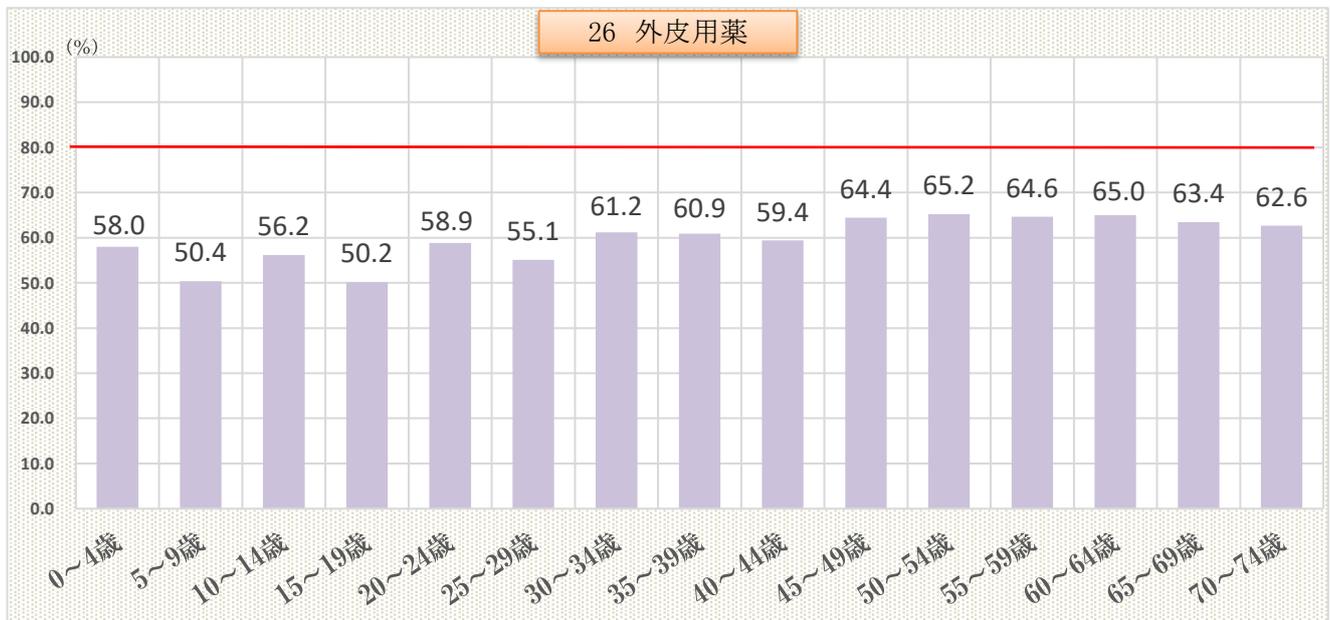
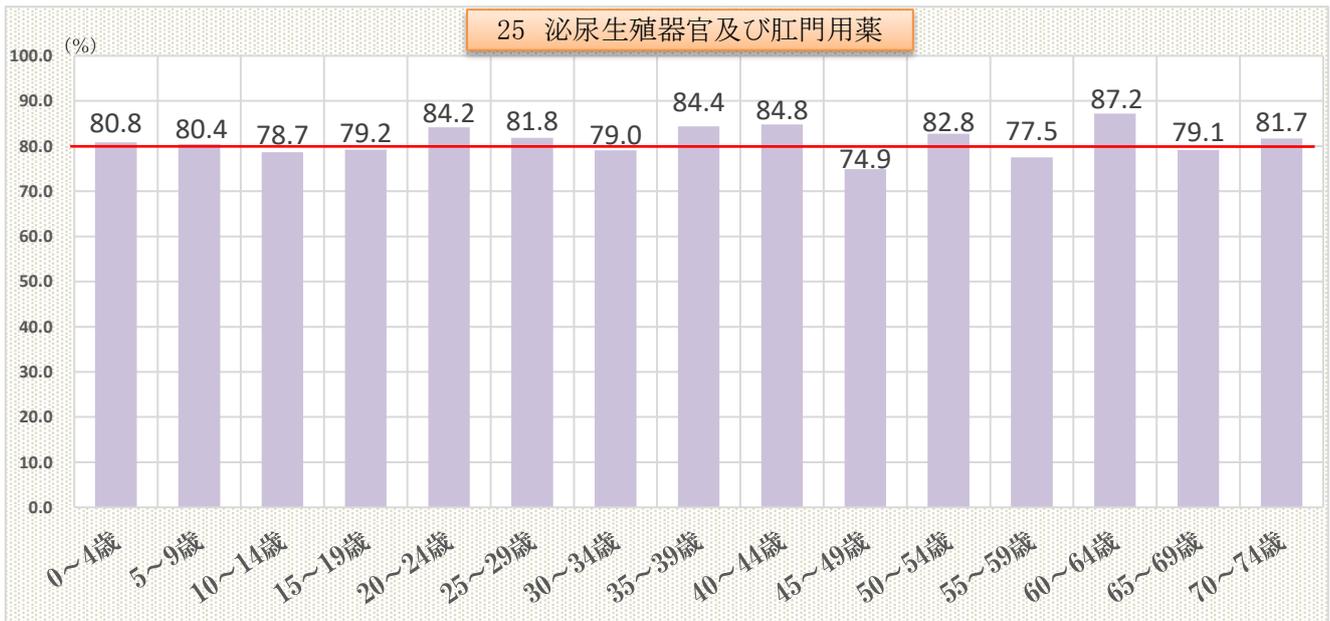
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



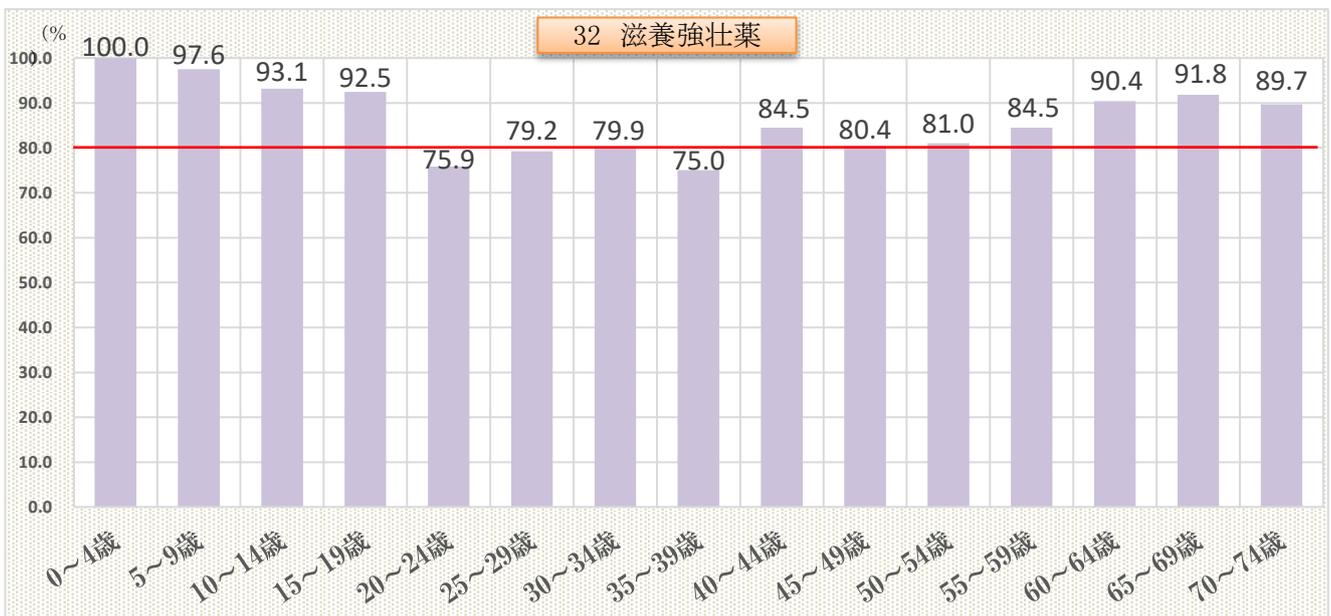
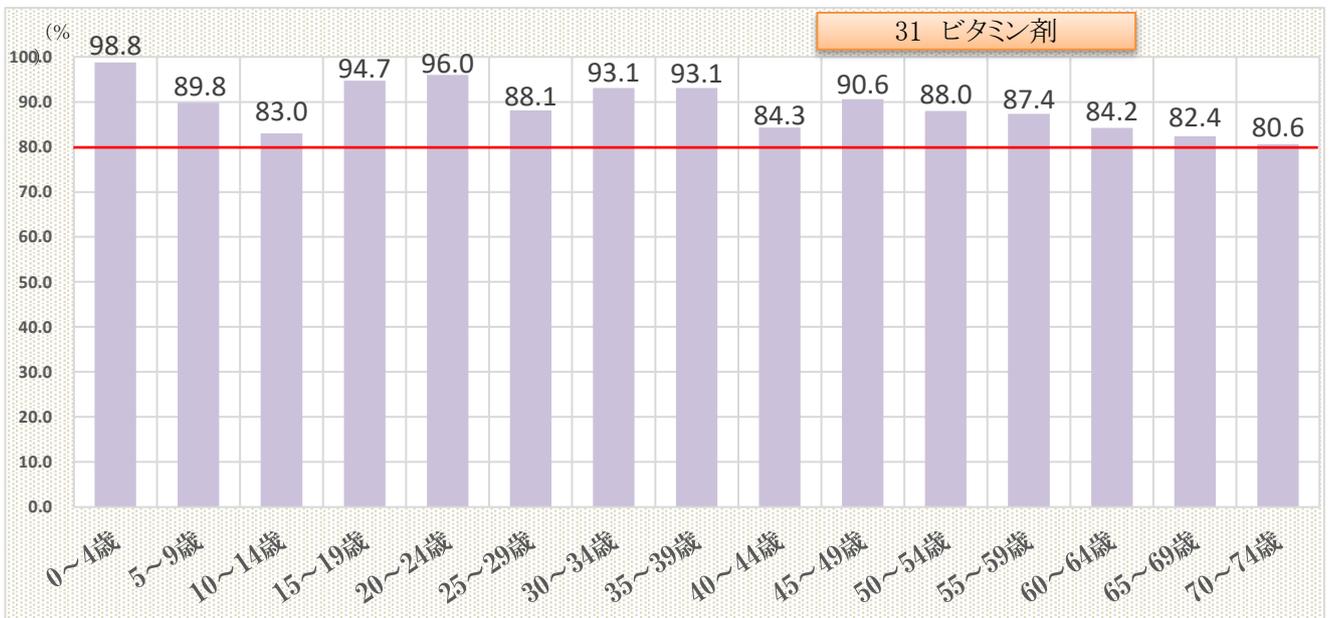
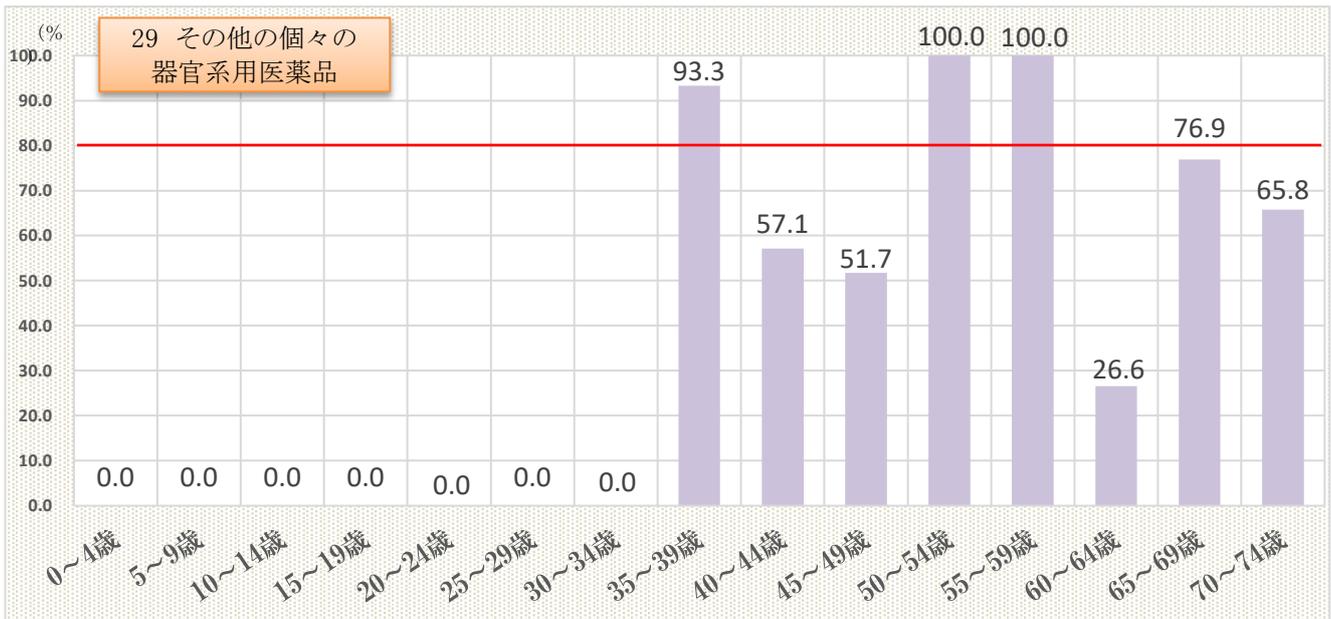
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



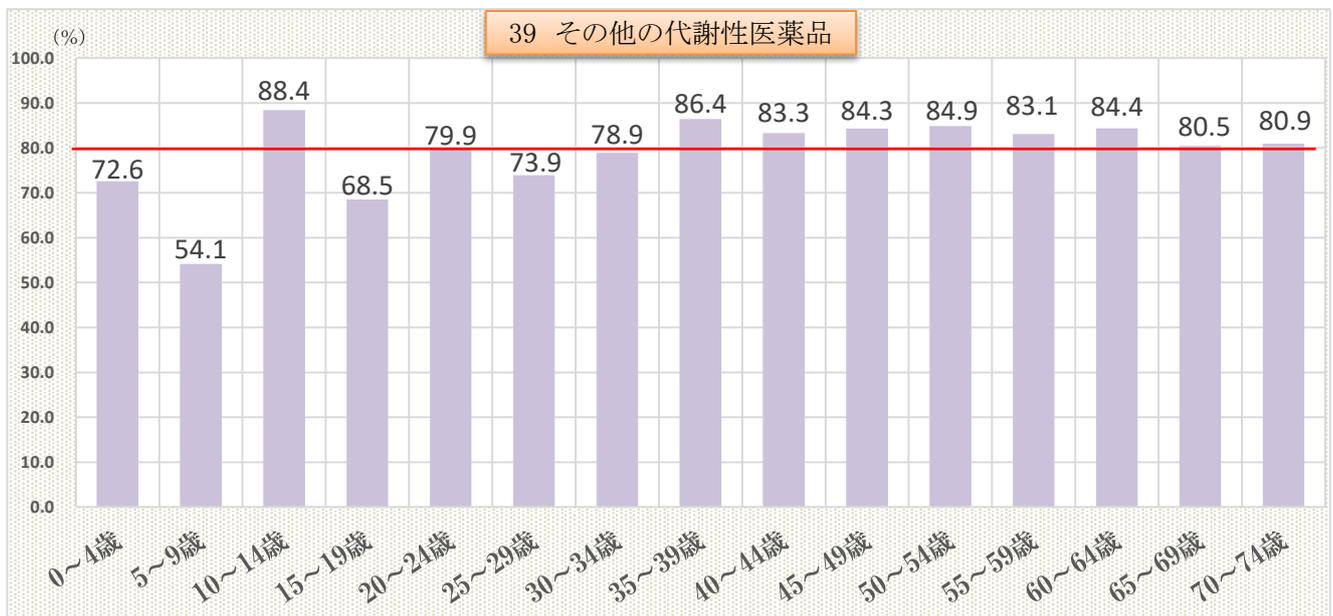
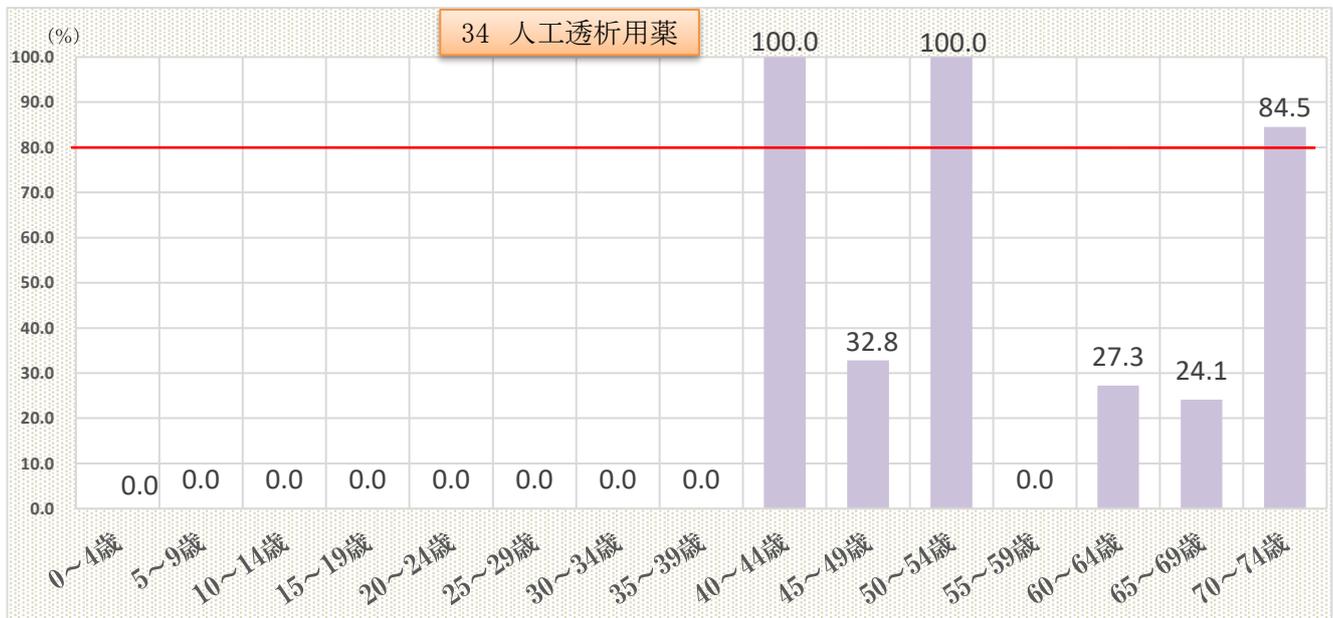
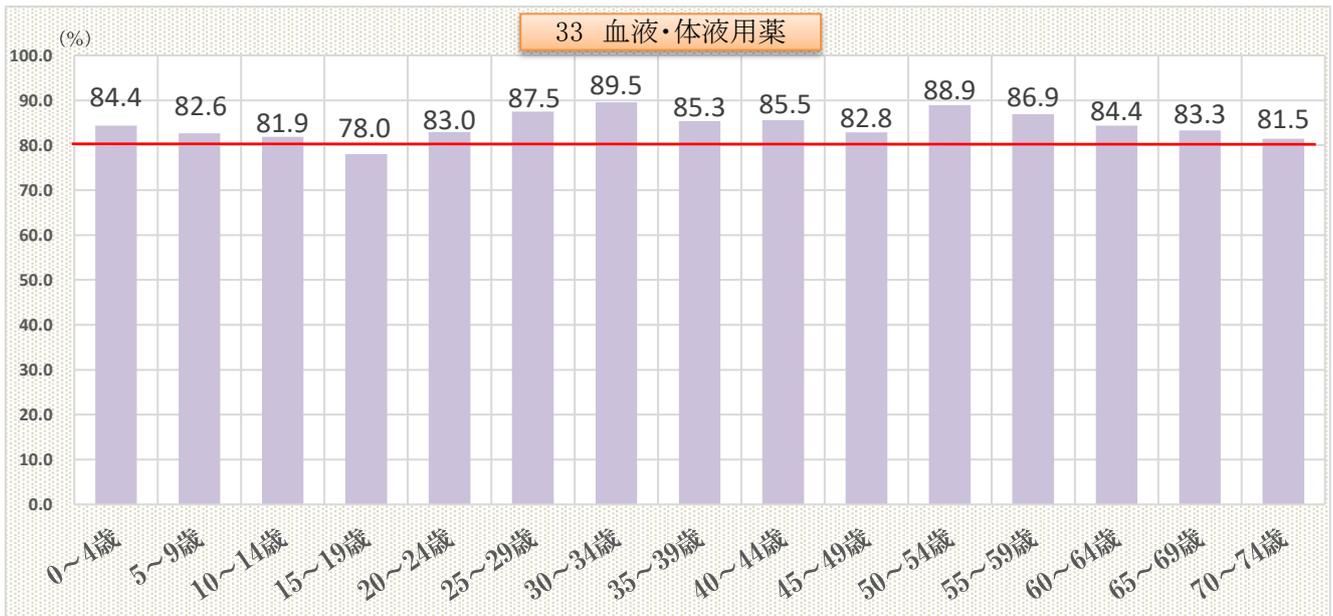
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



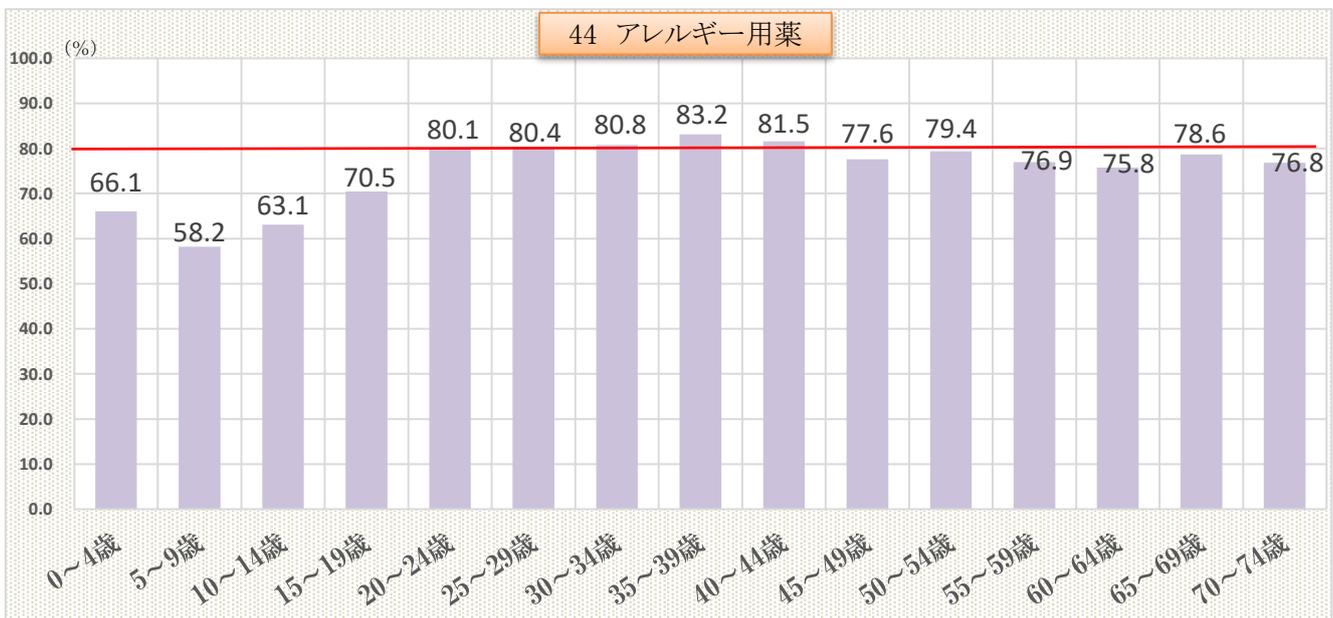
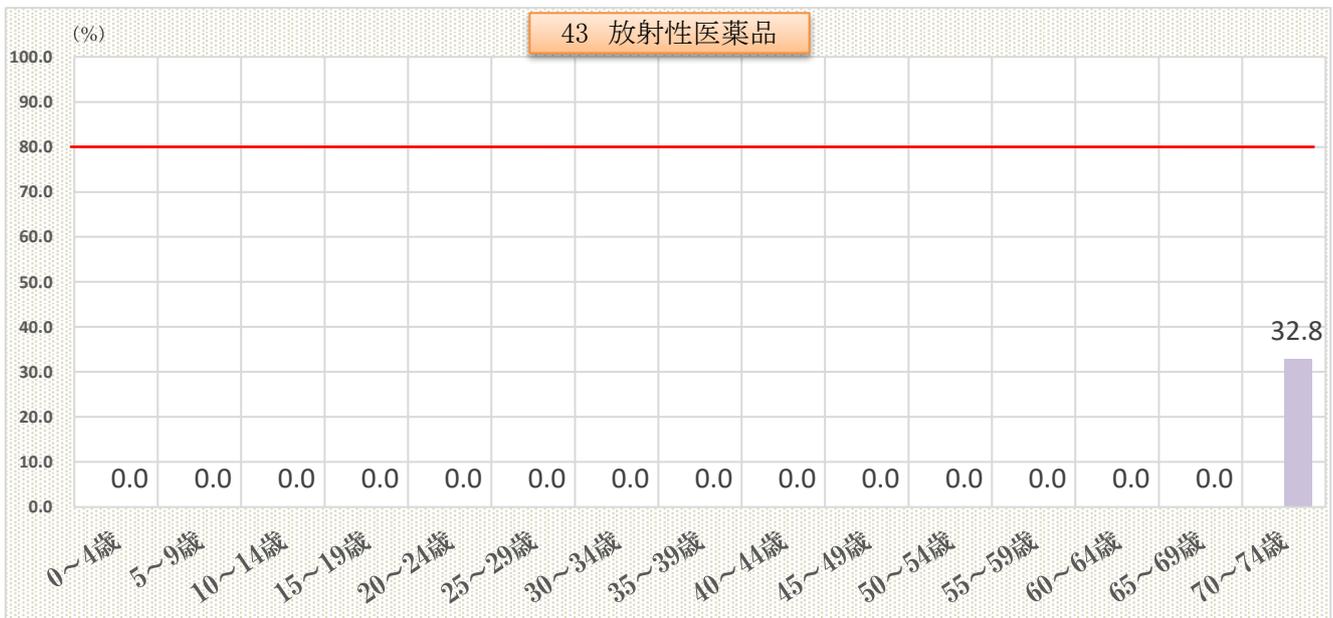
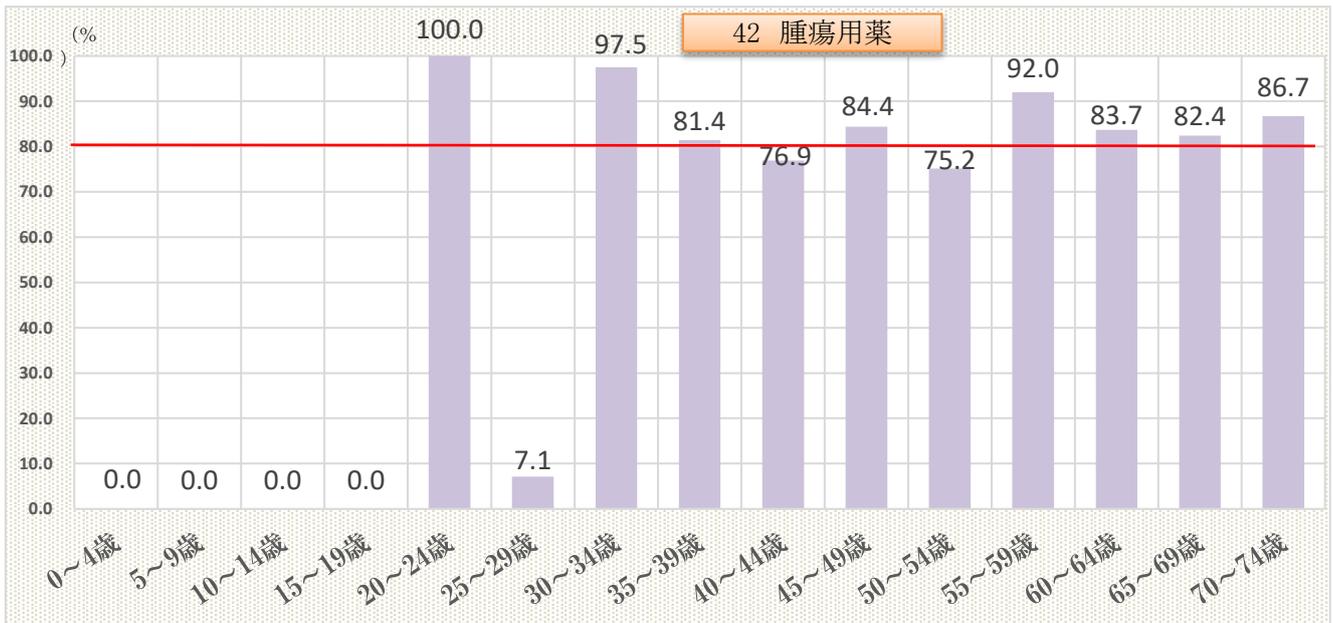
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



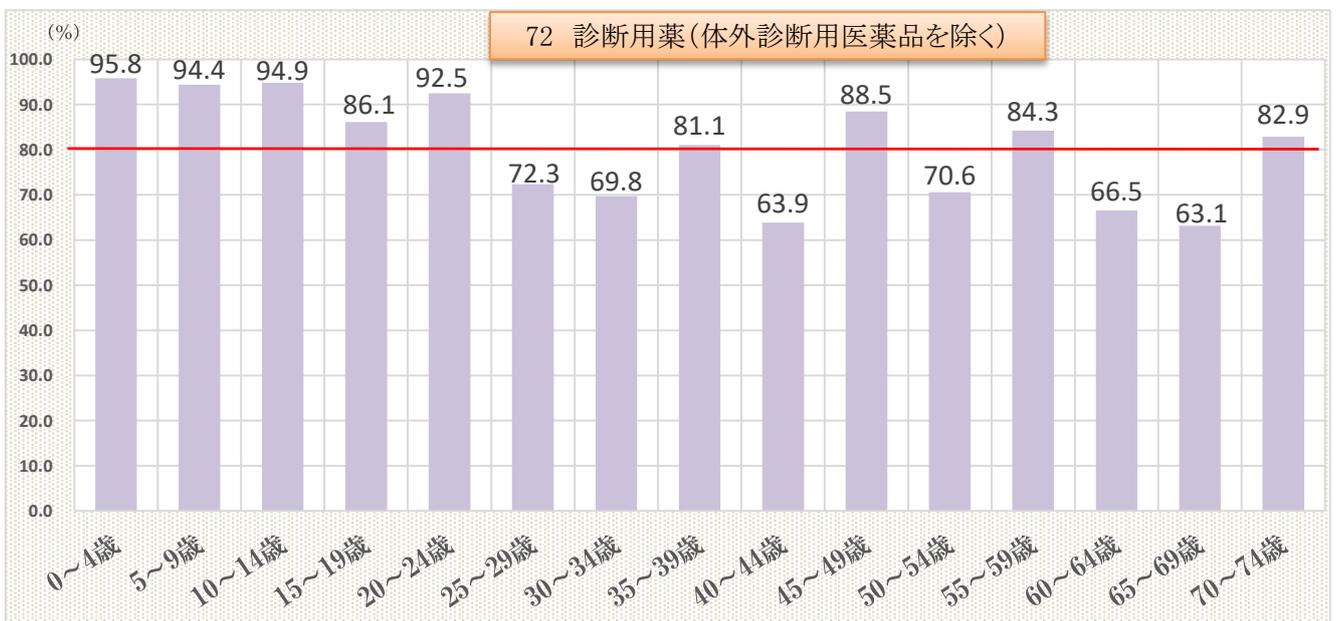
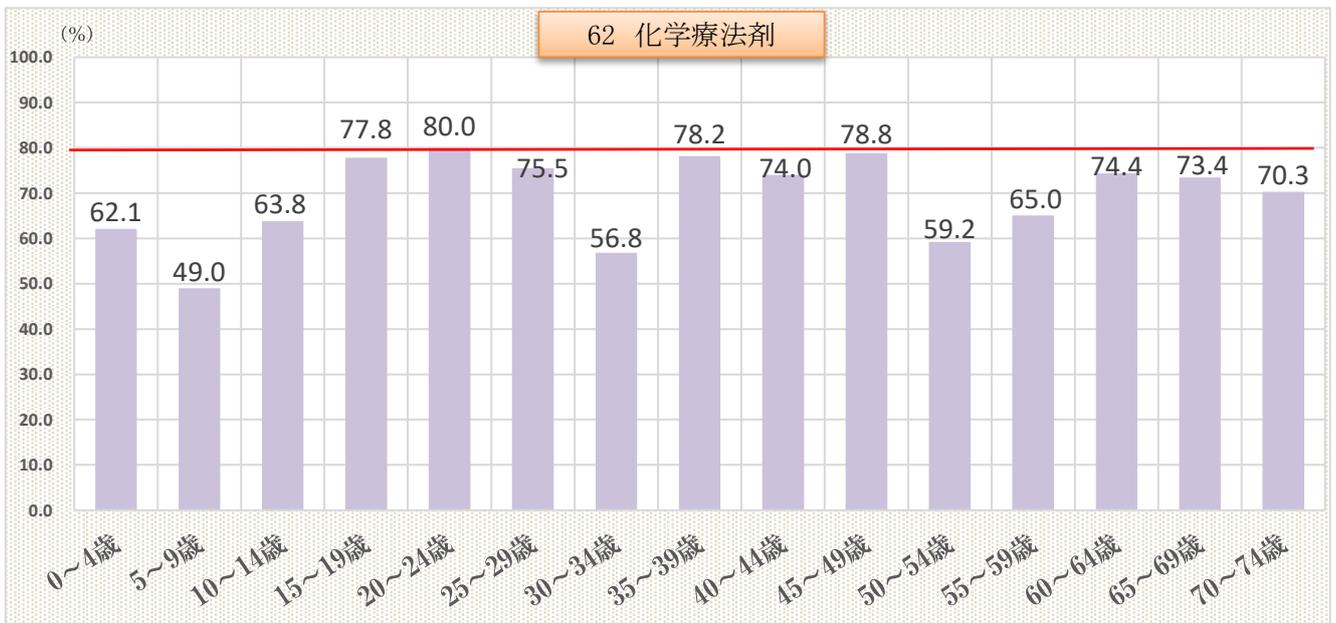
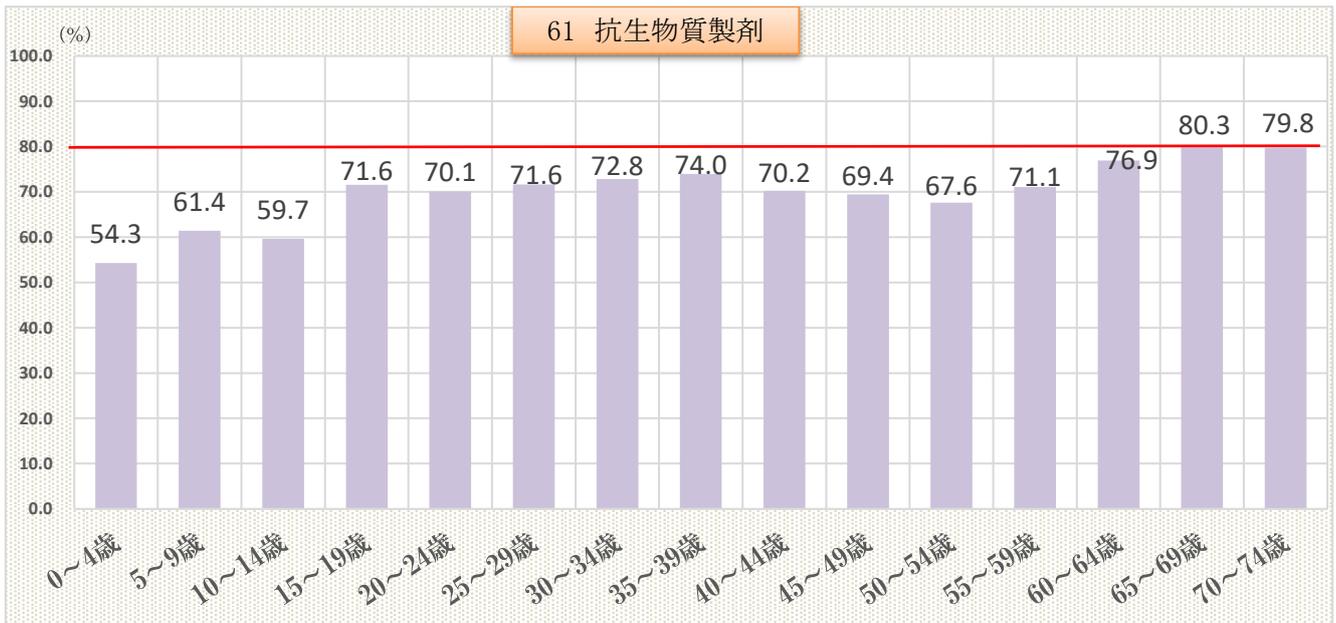
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



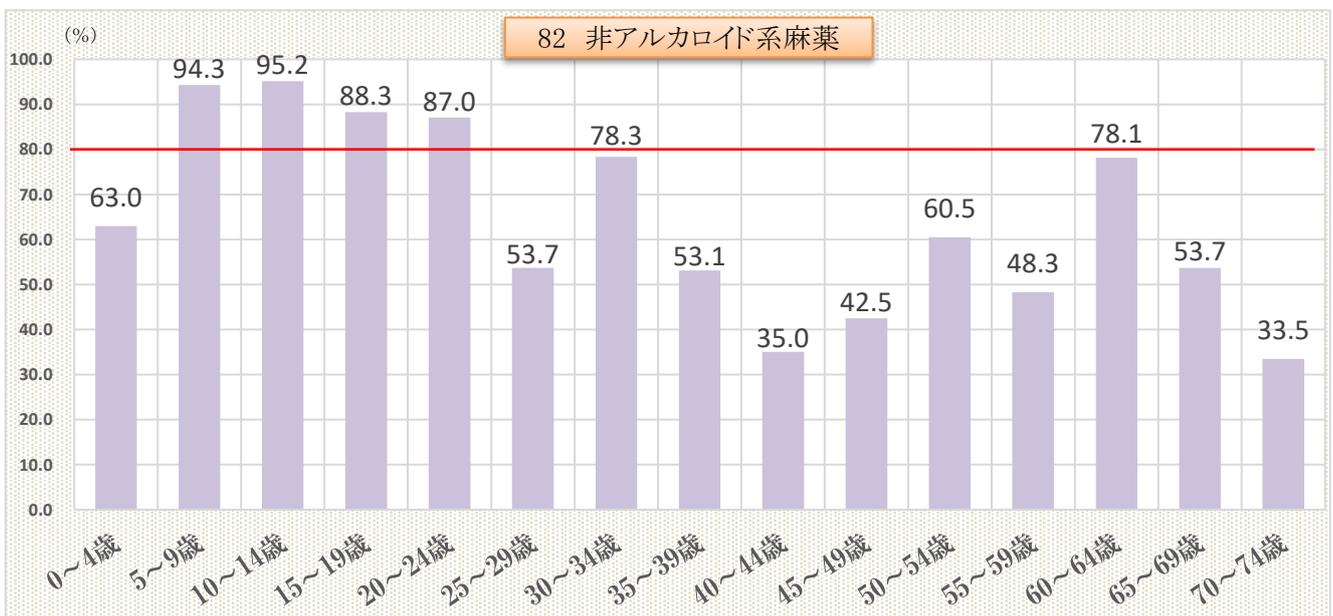
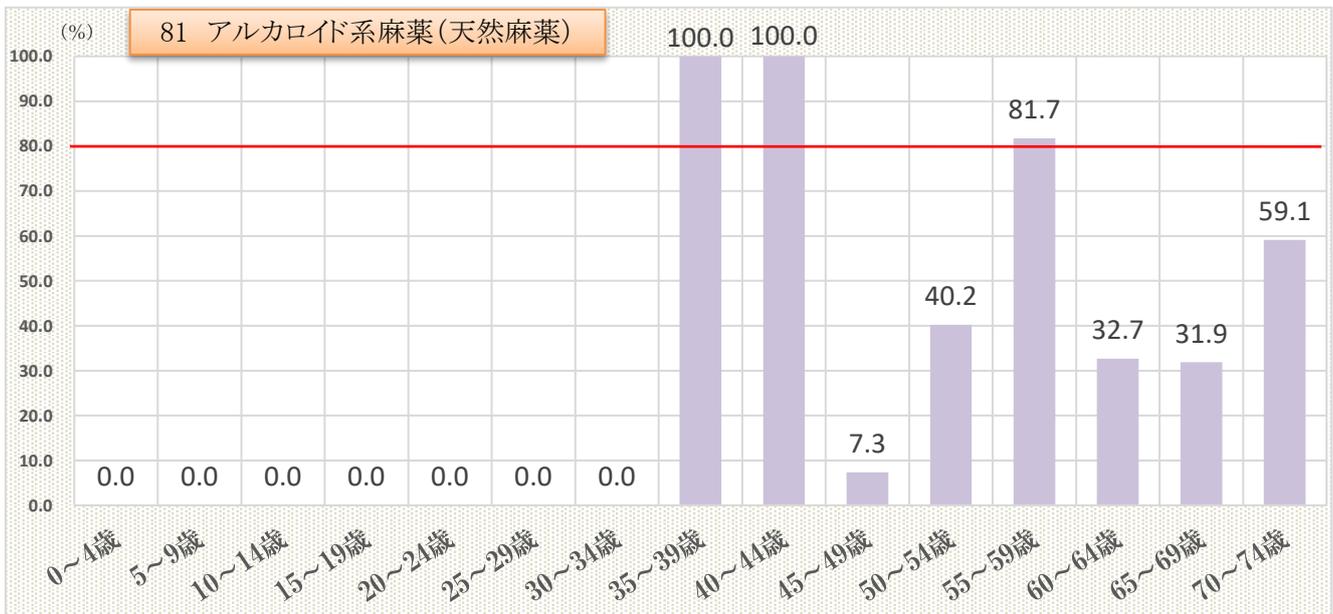
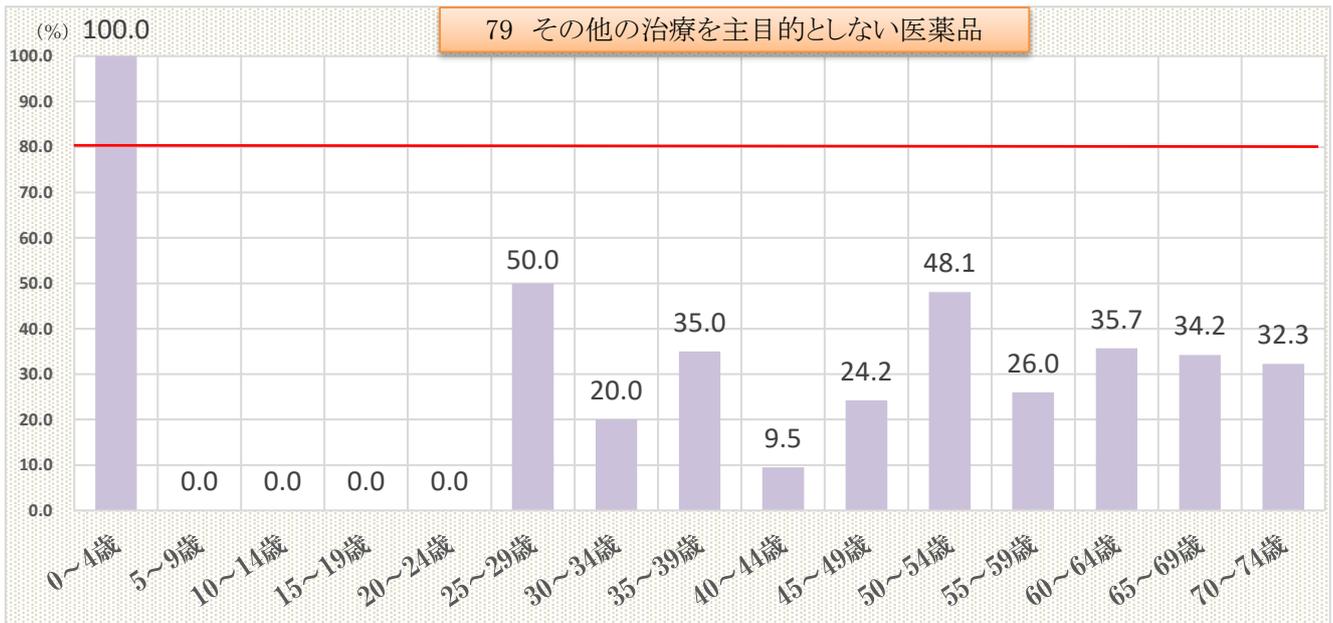
年齢階級別の使用割合

資料No.2-1



年齢階級別の使用割合

資料No.2-1

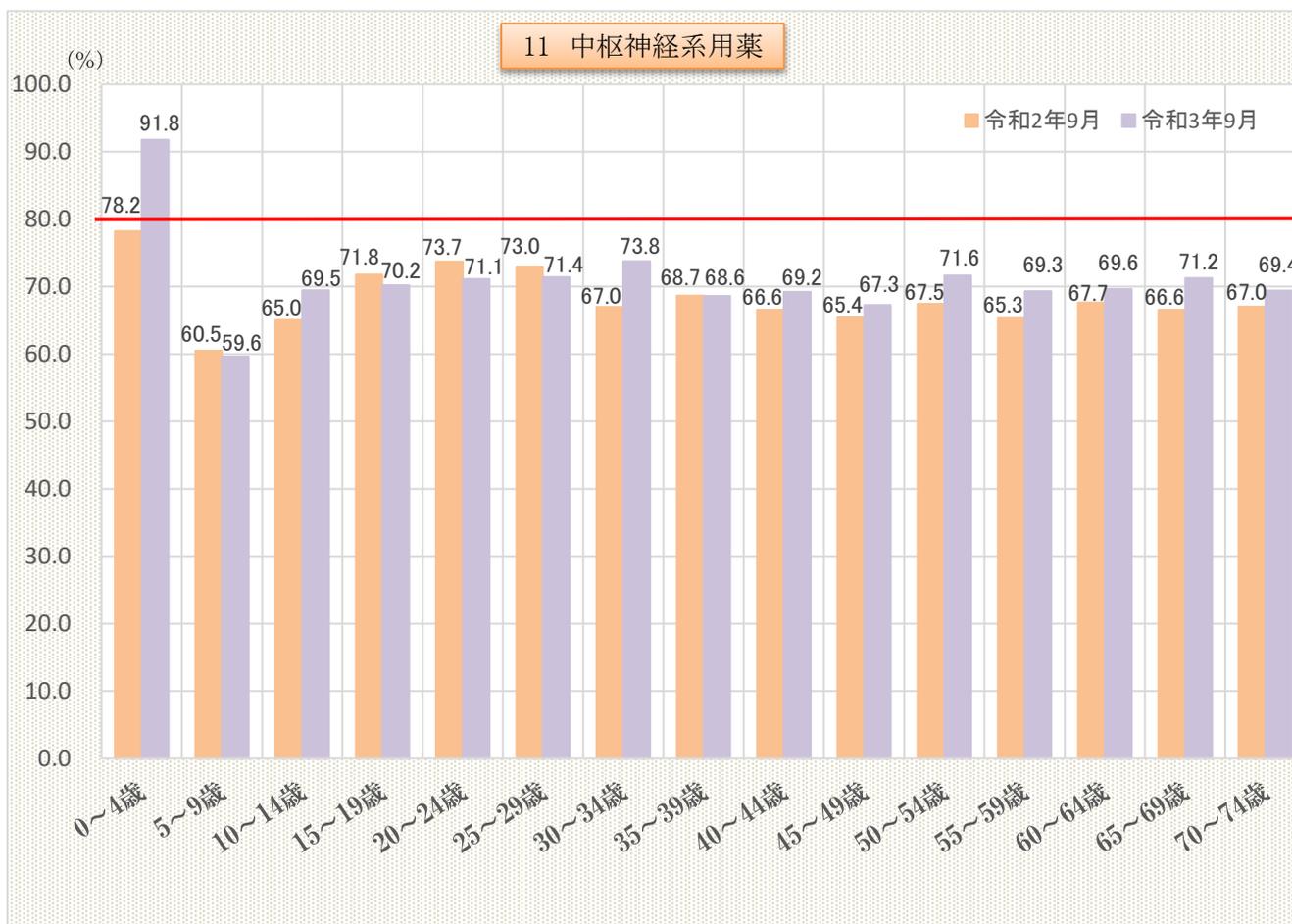
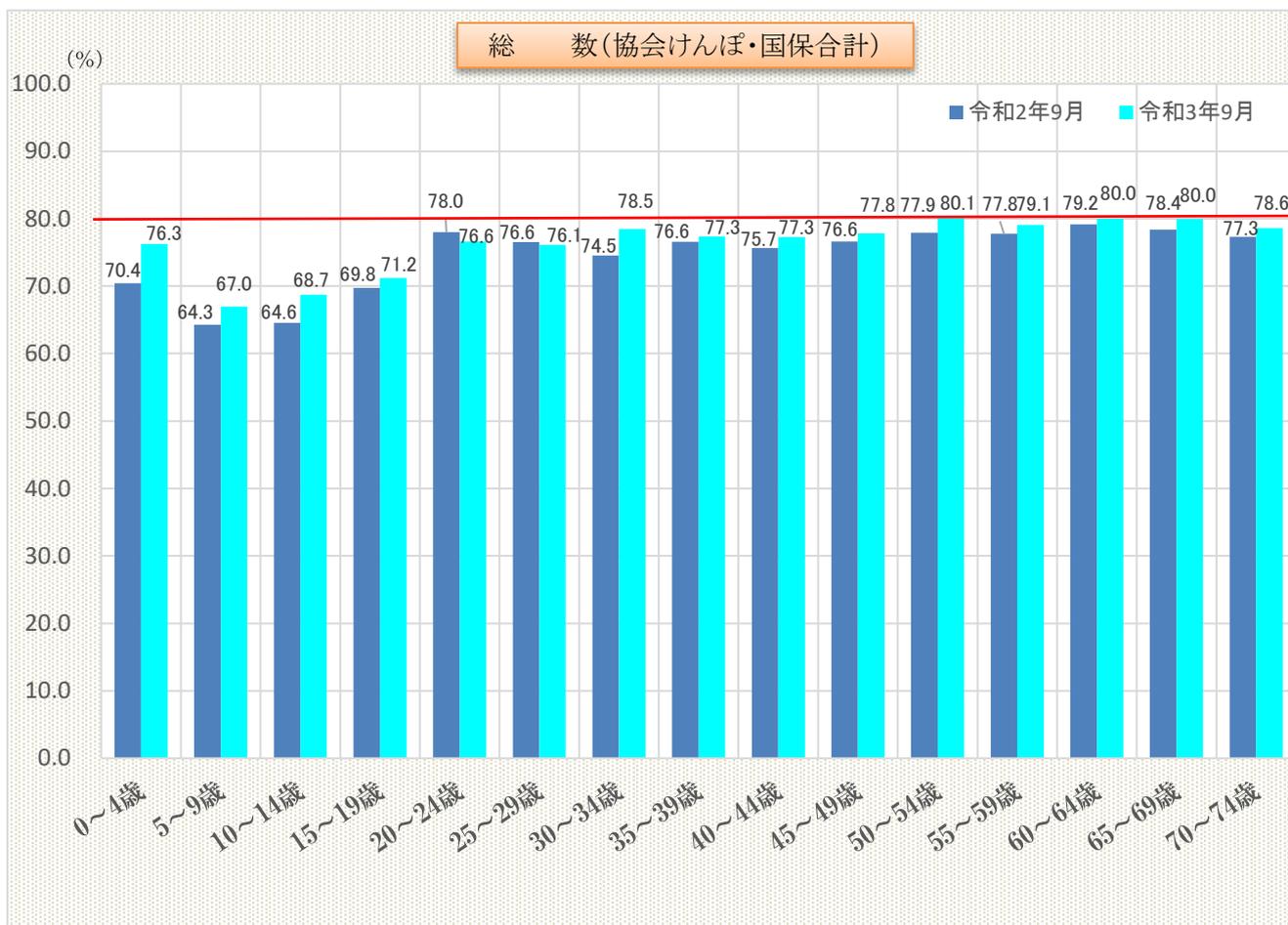


年齢階級別の使用割合

薬効分類別	0歳から4歳	5歳から9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から24歳	25歳から29歳	30歳から34歳	35歳から39歳	40歳から44歳	45歳から49歳	50歳から54歳	55歳から59歳	60歳から64歳	65歳から69歳	70歳から74歳
	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)	使用割合(%)
総数	76.3	67.0	68.7	71.2	76.6	76.1	78.5	77.3	77.3	77.8	80.1	79.1	80.0	80.0	78.6
11 中枢神経系用薬	91.8	59.6	69.5	70.2	71.1	71.4	73.8	68.6	69.2	67.3	71.6	69.3	69.6	71.2	69.4
12 末梢神経系用薬	47.0	62.1	70.2	65.5	74.3	62.8	67.8	74.4	66.9	67.2	73.7	70.1	65.6	64.6	64.5
13 感覚器用薬	47.3	43.5	46.6	62.3	73.5	72.2	56.5	68.1	61.8	65.6	66.1	63.0	60.1	61.4	59.7
19 その他の神経系及び感覚器用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	82.8	30.6	44.0	76.3	87.9	86.4	87.7	85.6	88.4	87.7	86.5	84.5	84.9	84.7	82.7
22 呼吸器用薬	82.2	76.7	75.2	80.6	83.4	84.6	84.3	85.1	81.5	79.0	81.1	75.8	80.2	81.8	79.4
23 消化器用薬	86.8	88.3	87.9	83.4	87.2	86.4	87.3	86.5	85.9	86.6	86.7	85.8	86.4	86.4	85.6
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	22.2	27.2	70.5	83.8	91.5	91.9	85.5	88.9	88.4	87.6	80.8	77.0	74.1	68.7	63.9
25 泌尿生殖器用及び肛門用薬	80.8	80.4	78.7	79.2	84.2	81.8	79.0	84.4	84.8	74.9	82.8	77.5	87.2	79.1	81.7
26 外皮用薬	58.0	50.4	56.2	50.2	58.9	55.1	61.2	60.9	59.4	64.4	65.2	64.6	65.0	63.4	62.6
27 歯科口腔用薬	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	97.8	95.9	100.0	97.0	96.8	89.2	97.5	95.5	95.0	91.8
29 その他の個々の器官系用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	93.3	57.1	51.7	100.0	100.0	26.6	76.9	65.8
31 ビタミン剤	98.8	89.8	83.0	94.7	96.0	88.1	93.1	93.1	84.3	90.6	88.0	87.4	84.2	82.4	80.6
32 滋養強壮薬	100.0	97.6	93.1	92.5	75.9	79.2	79.9	75.0	84.5	80.4	81.0	84.5	90.4	91.8	89.7
33 血液・体液用薬	84.4	82.6	81.9	78.0	83.0	87.5	89.5	85.3	85.5	82.8	88.9	86.9	84.4	83.3	81.5
34 人工透析用薬	0.0	—	—	—	—	—	—	—	100.0	32.8	100.0	0.0	27.3	24.1	84.5
39 その他の代謝性医薬品	72.6	54.1	88.4	68.5	79.9	73.9	78.9	86.4	83.3	84.3	84.9	83.1	84.4	80.5	80.9
41 細胞賦活用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	—	—	—	—	100.0	7.1	97.5	81.4	76.9	84.4	75.2	92.0	83.7	82.4	86.7
43 放射性医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.8
44 アレルギーマネジメント用薬	66.1	58.2	63.1	70.5	80.1	80.4	80.8	83.2	81.5	77.6	79.4	76.9	75.8	78.6	76.8
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	54.3	61.4	59.7	71.6	70.1	71.6	72.8	74.0	70.2	69.4	67.6	71.1	76.9	80.3	79.8
62 化学療法剤	62.1	49.0	63.8	77.8	80.0	75.5	56.8	78.2	74.0	78.8	59.2	65.0	74.4	73.4	70.3
63 生物学的製剤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	95.8	94.4	94.9	86.1	92.5	72.3	69.8	81.1	63.9	88.5	70.6	84.3	66.5	63.1	82.9
73 公衆衛生用薬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	100.0	—	—	—	—	50.0	20.0	35.0	9.5	24.2	48.1	26.0	35.7	34.2	32.3
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	—	—	—	—	—	—	—	100.0	100.0	7.3	40.2	81.7	32.7	31.9	59.1
82 非アルカロイド系麻薬	63.0	94.3	95.2	88.3	87.0	53.7	78.3	53.1	35.0	42.5	60.5	48.3	78.1	59.7	33.5

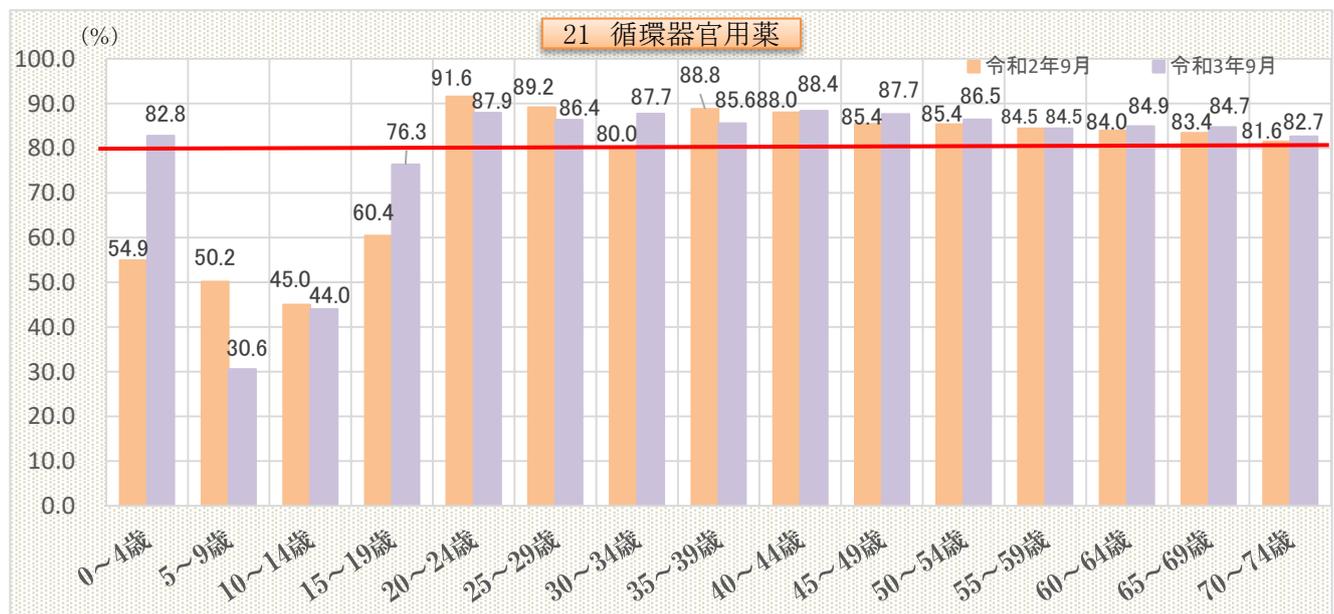
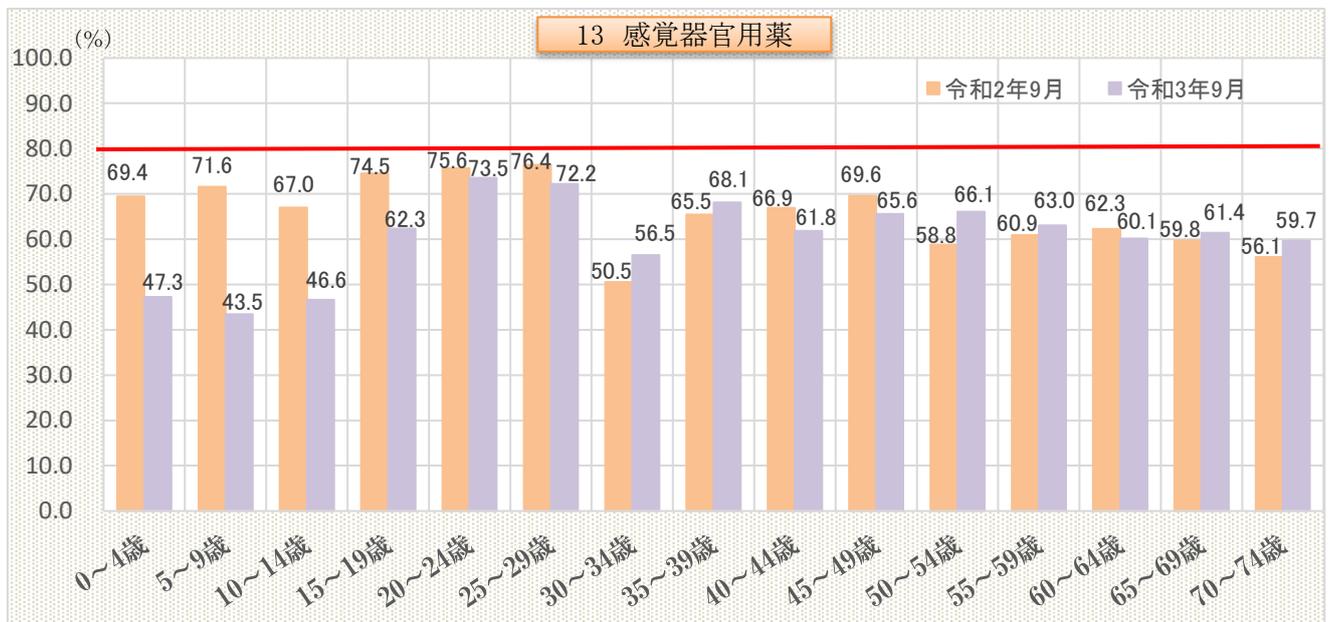
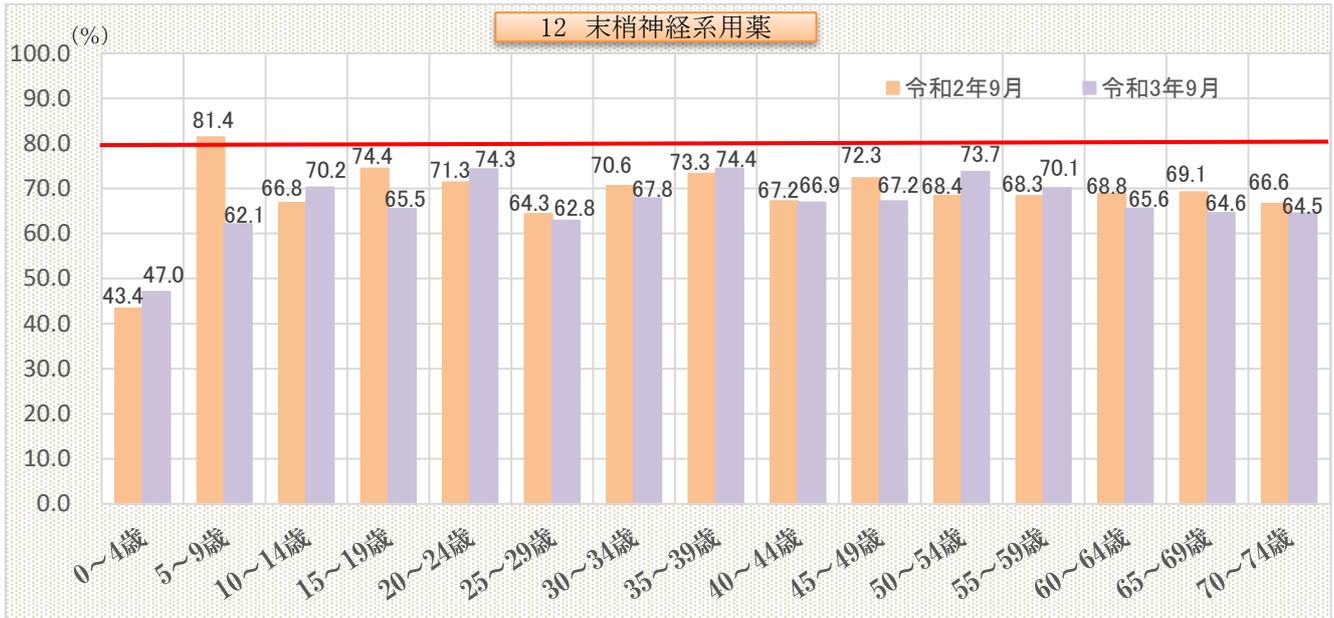
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



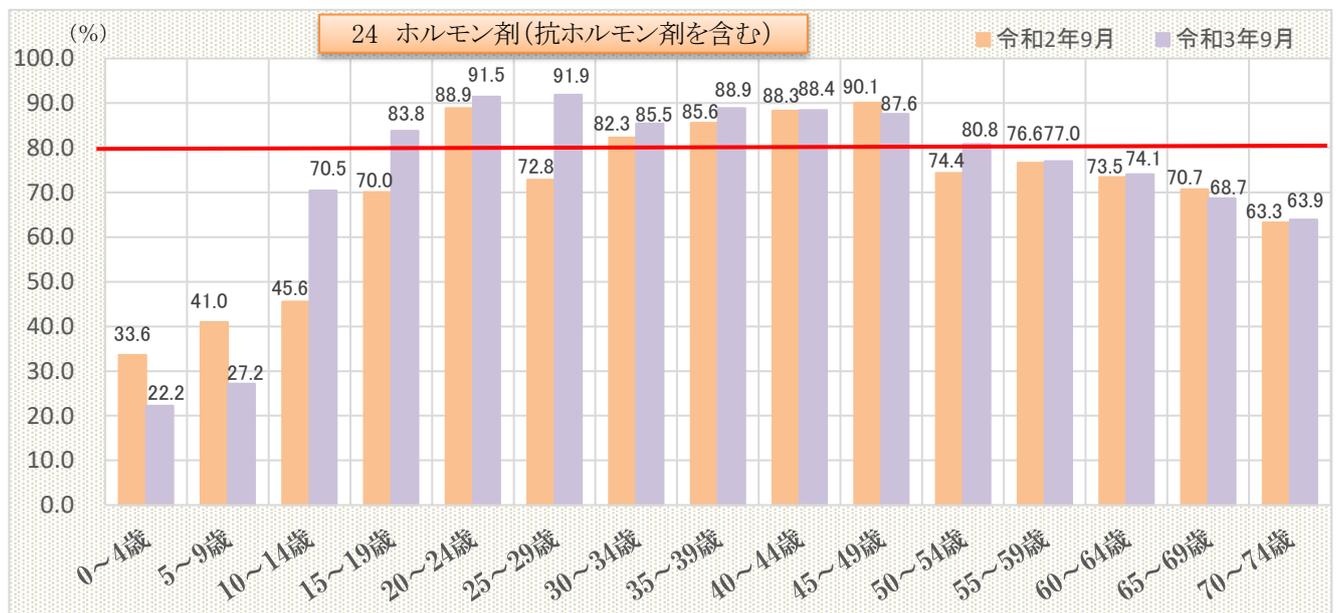
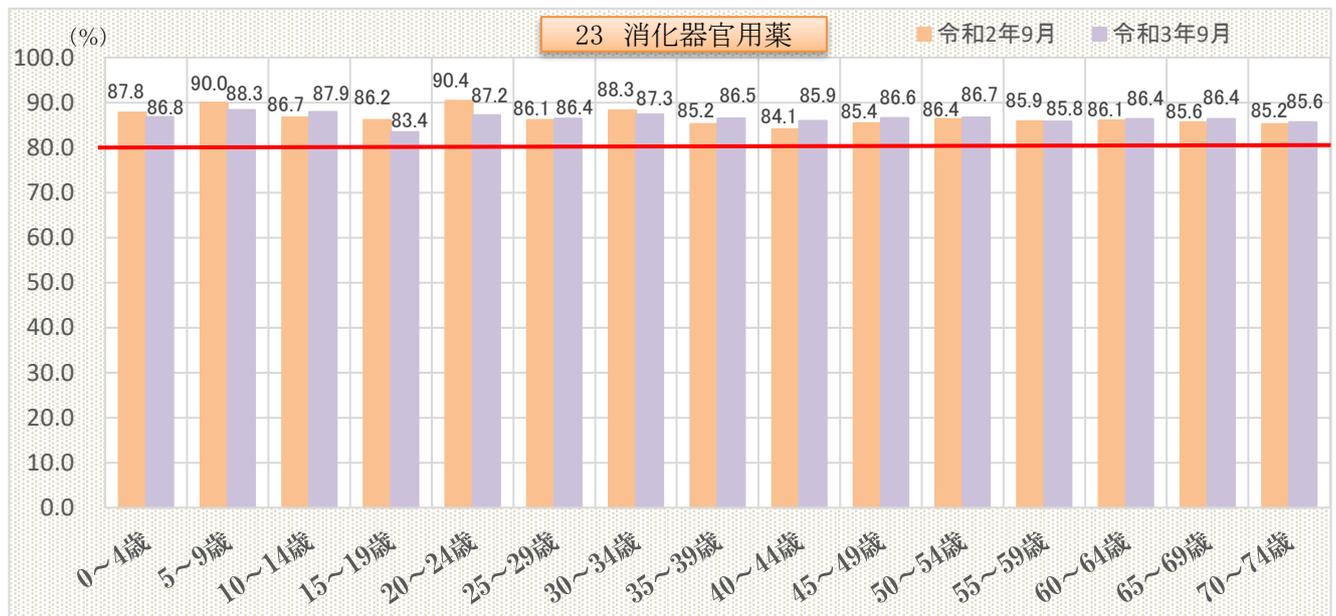
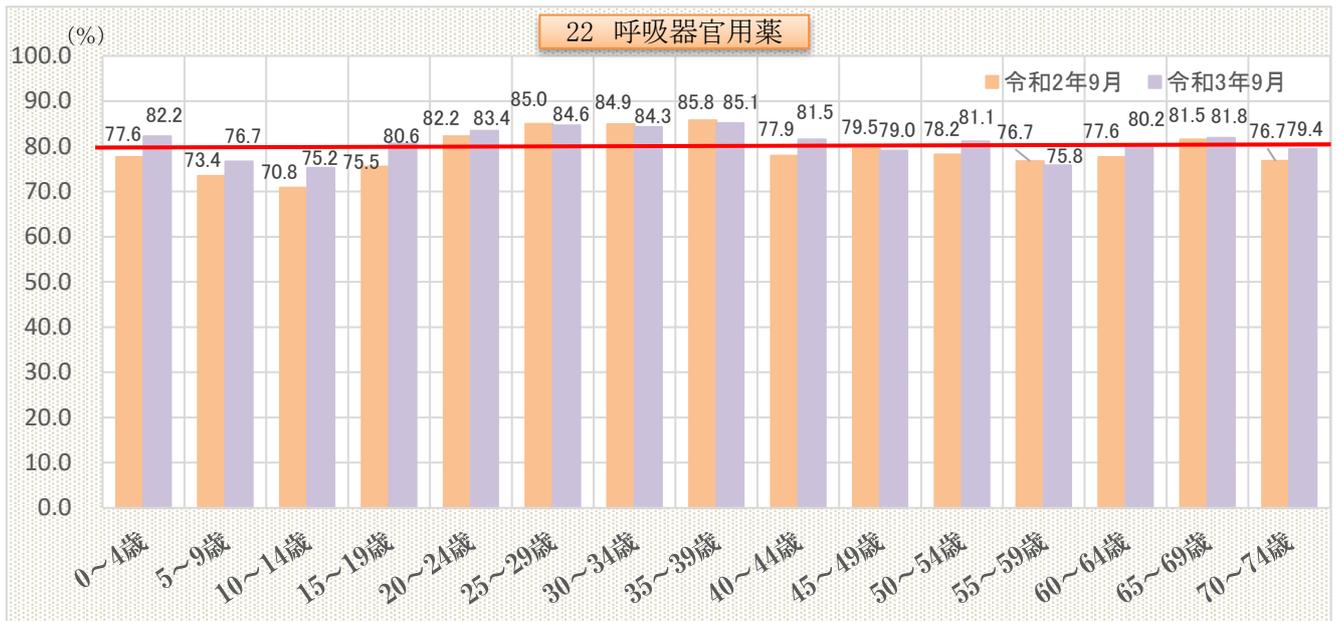
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



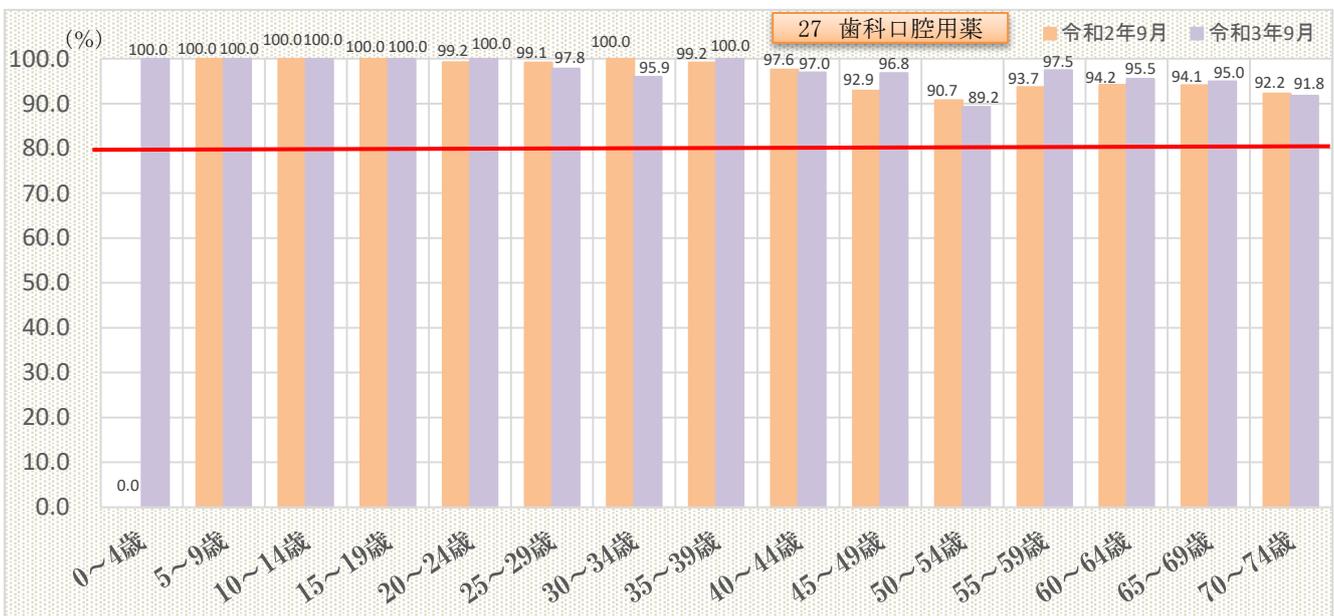
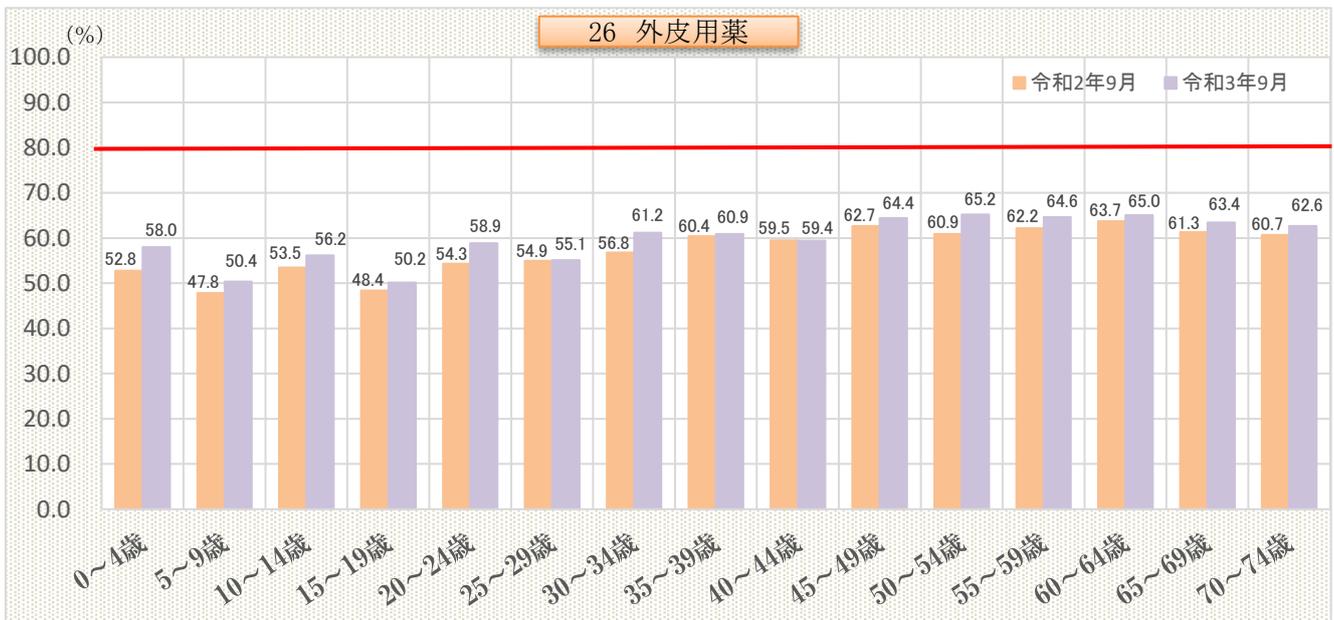
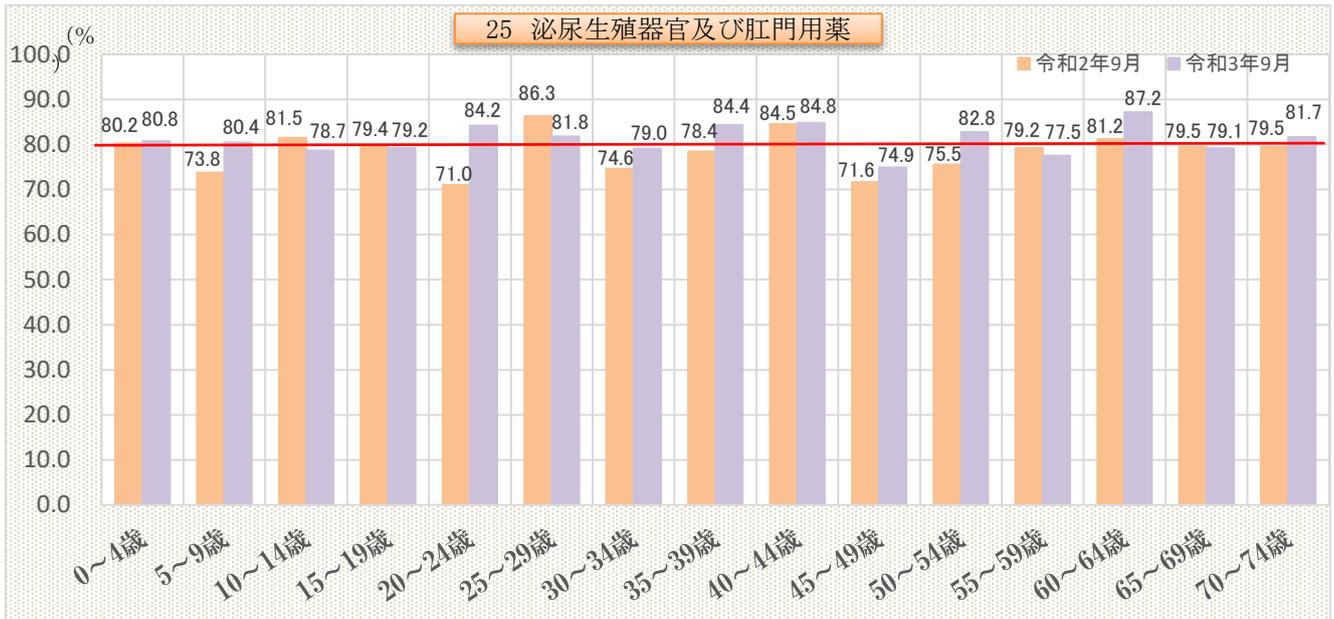
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



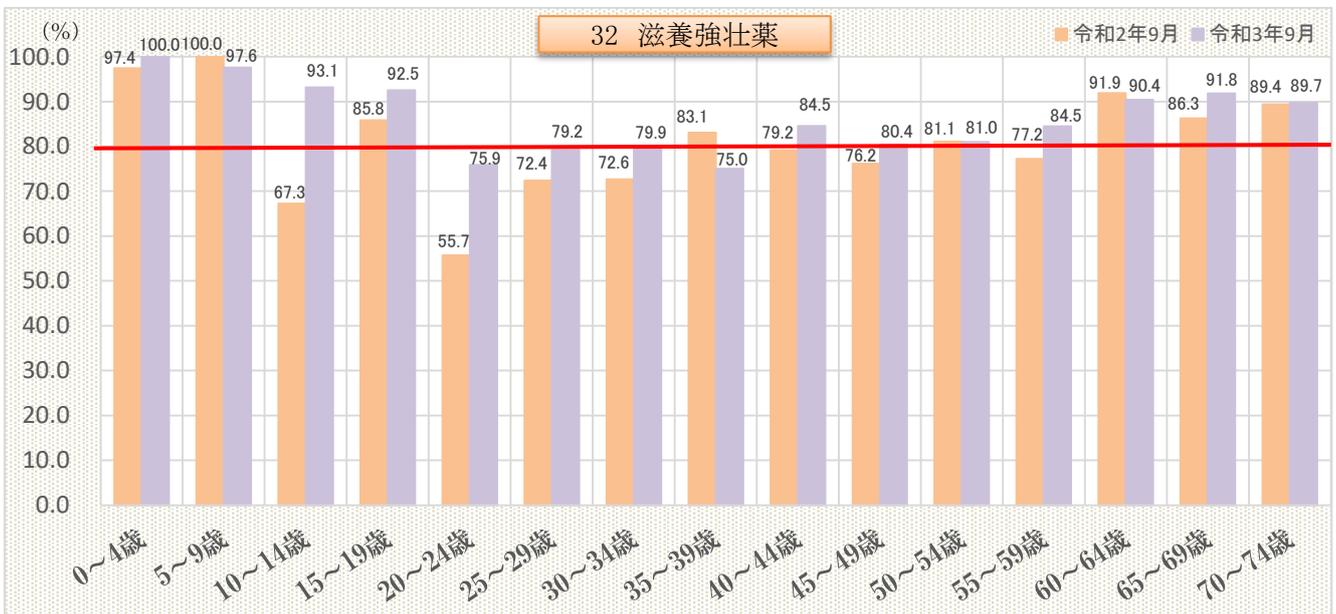
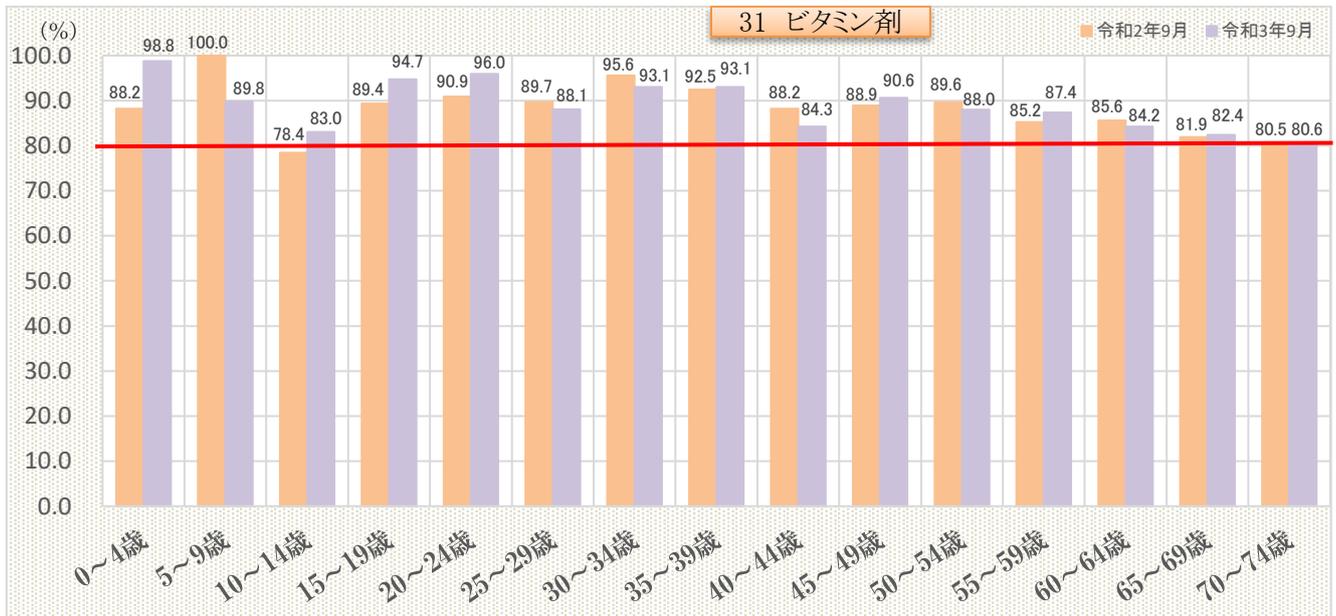
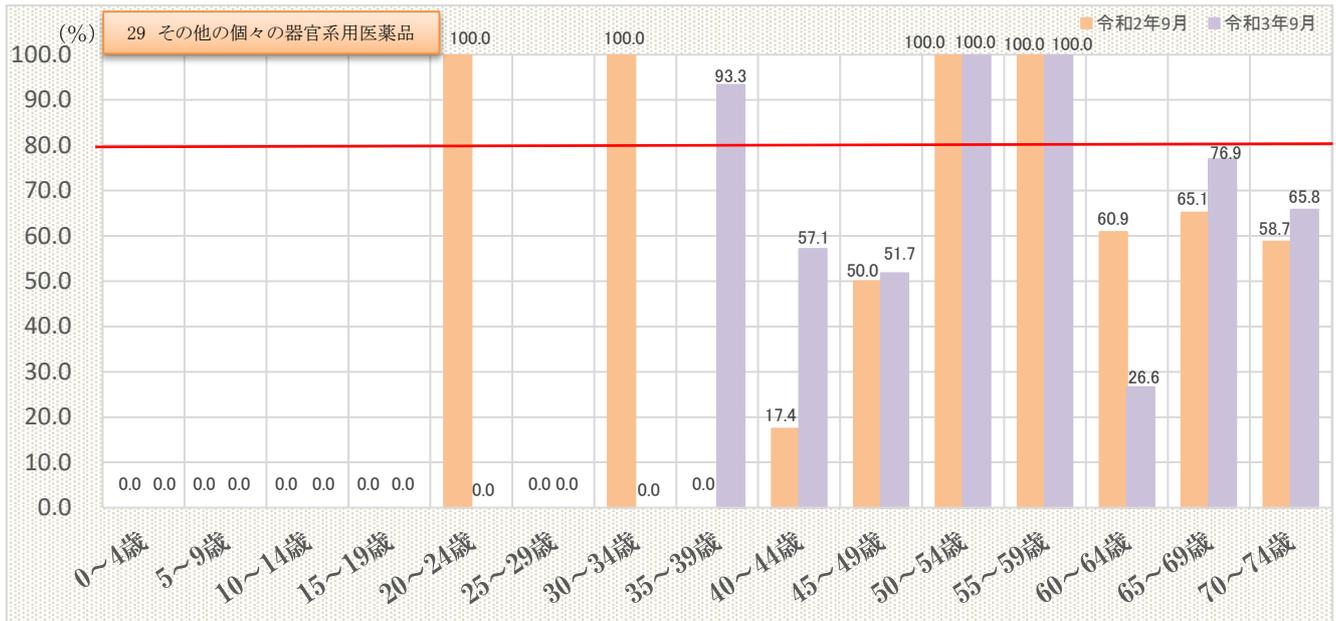
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



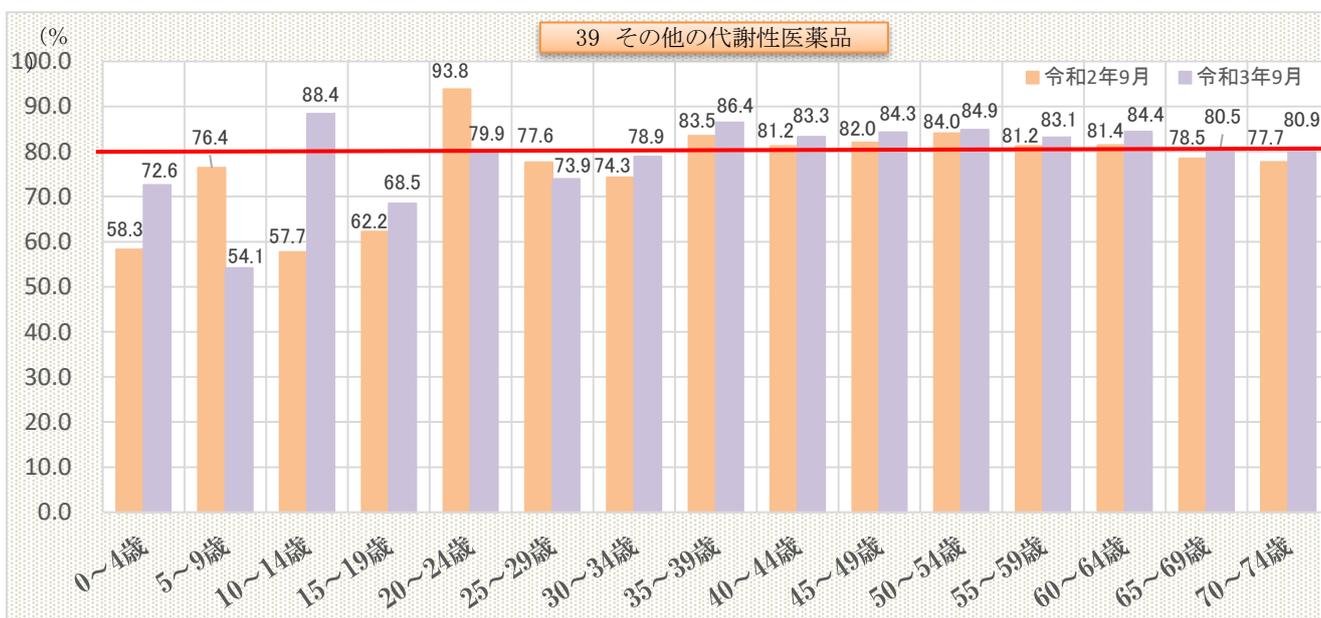
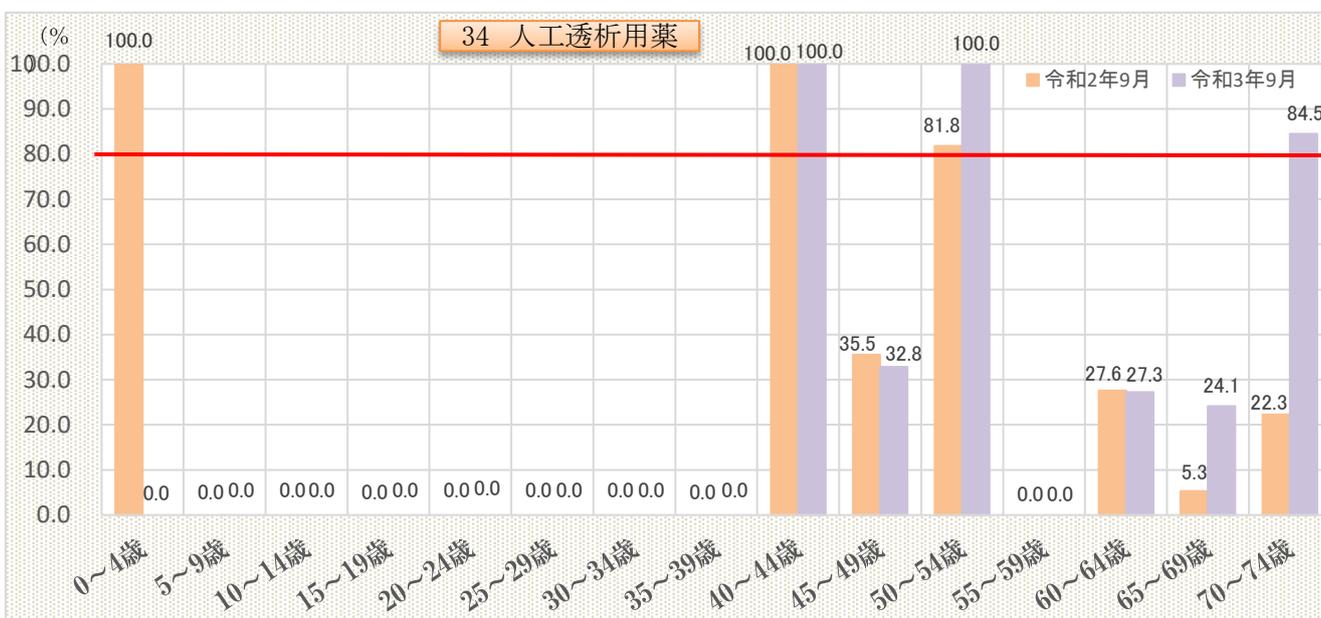
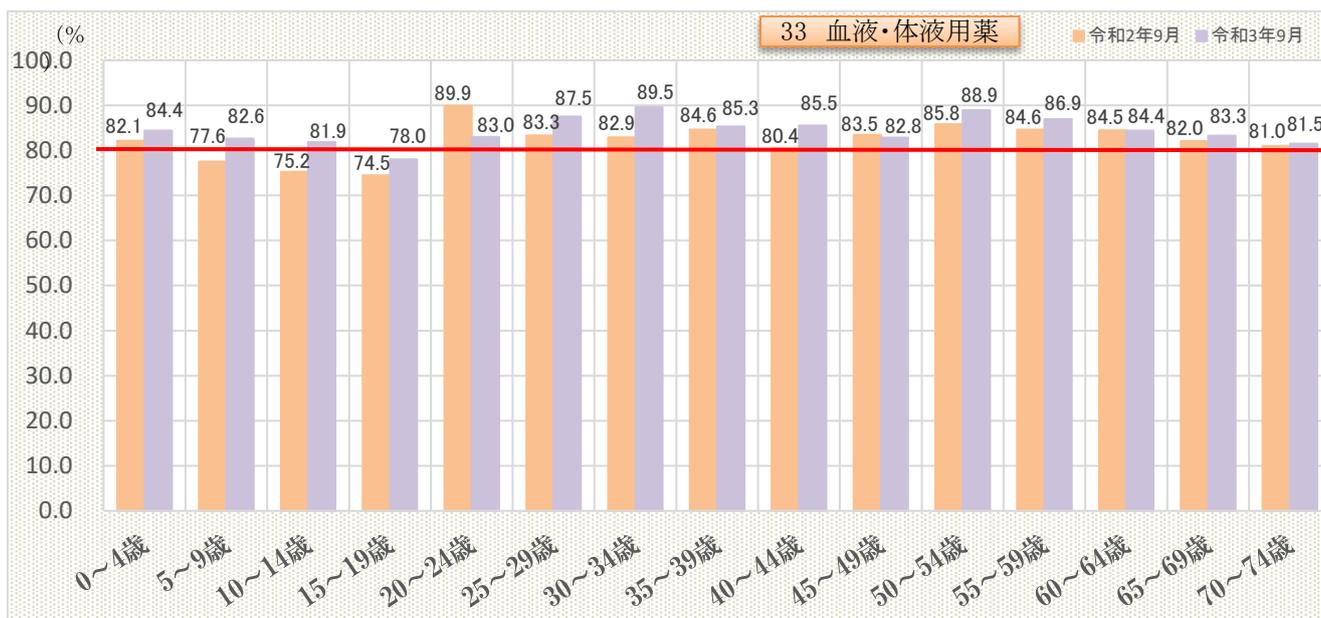
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



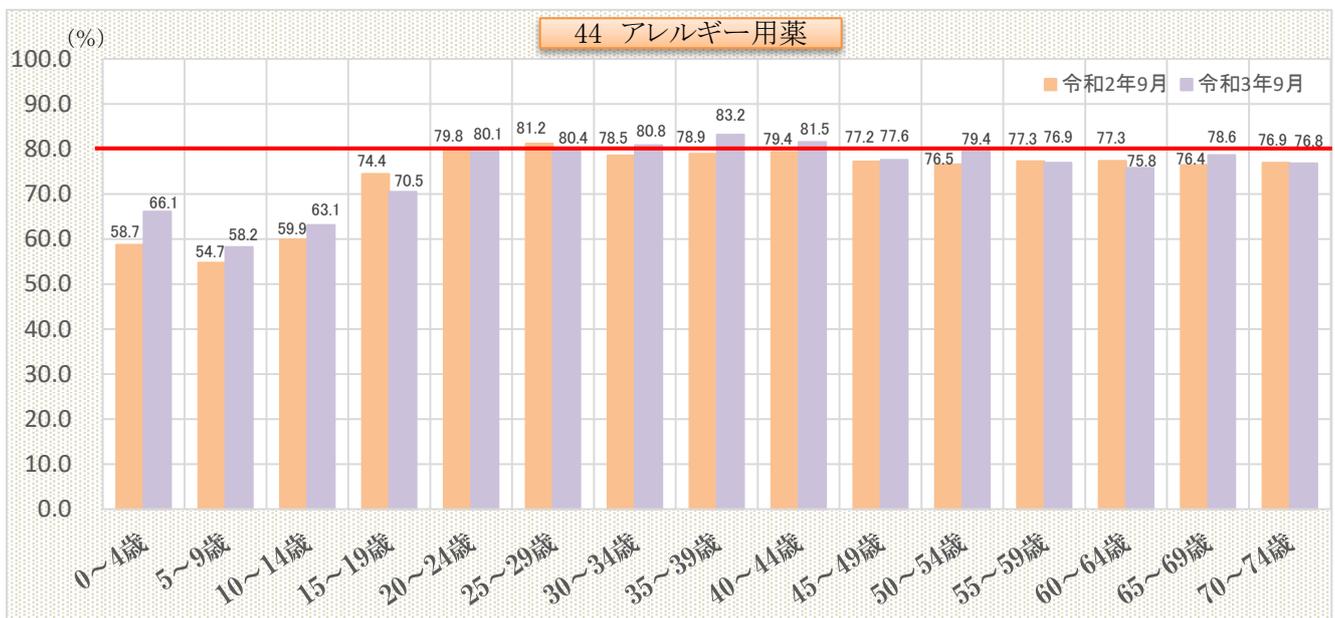
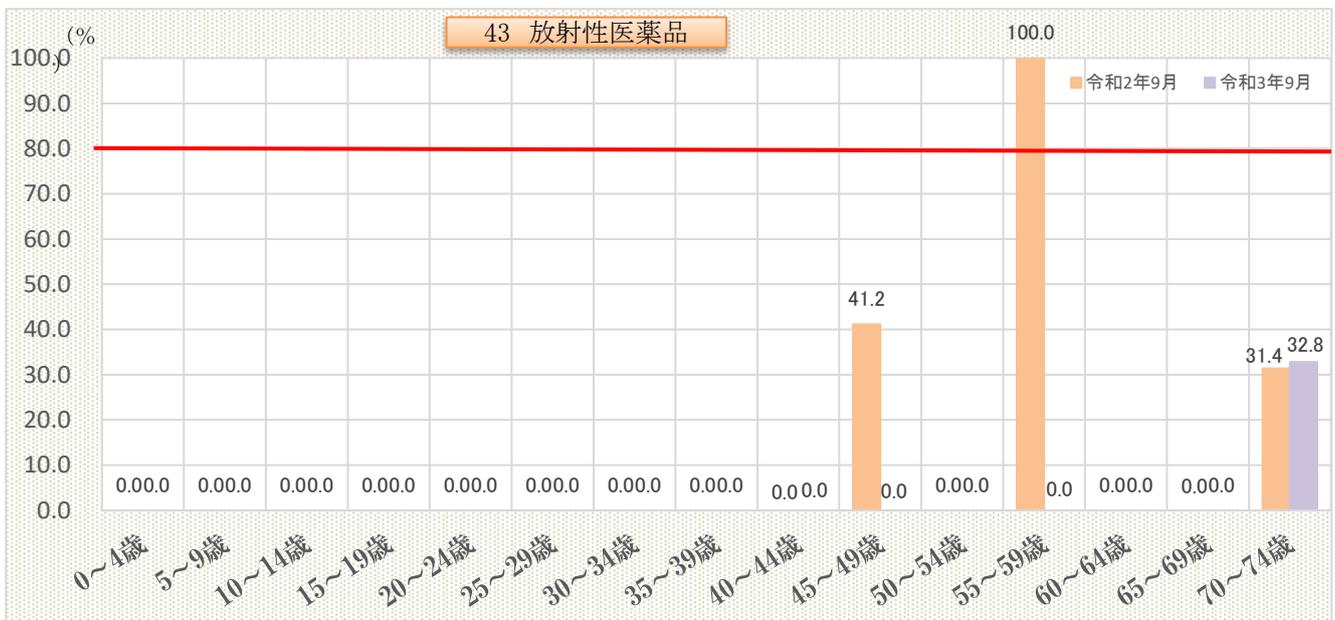
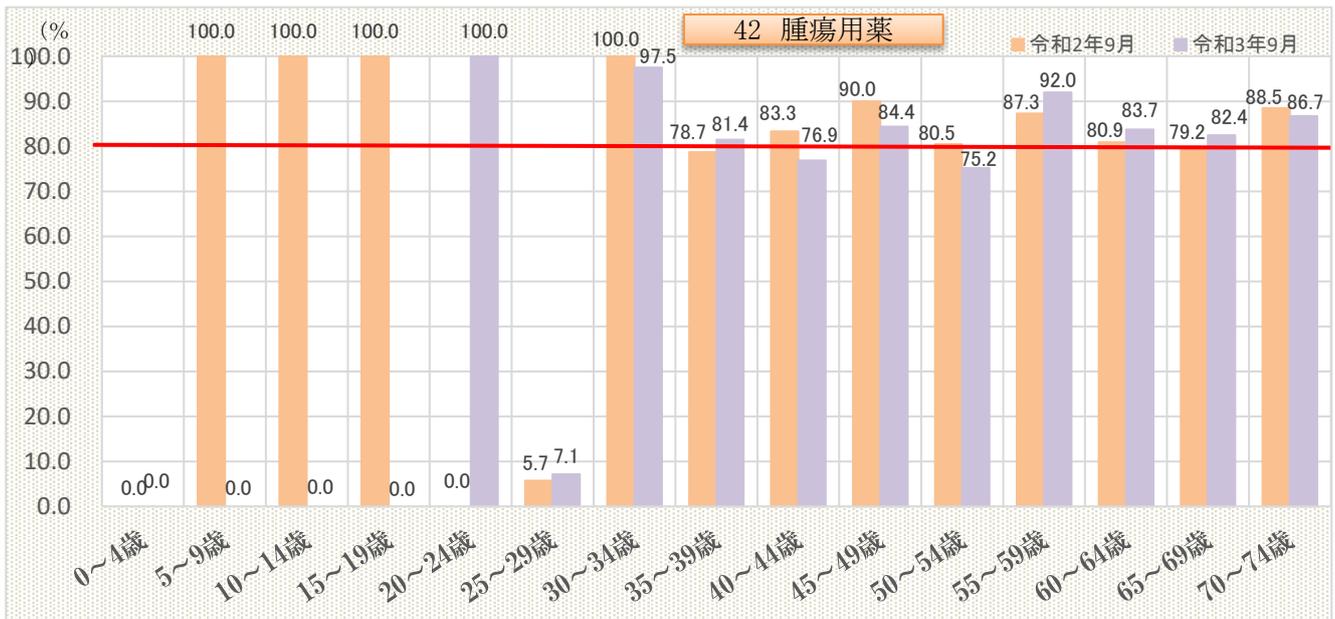
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



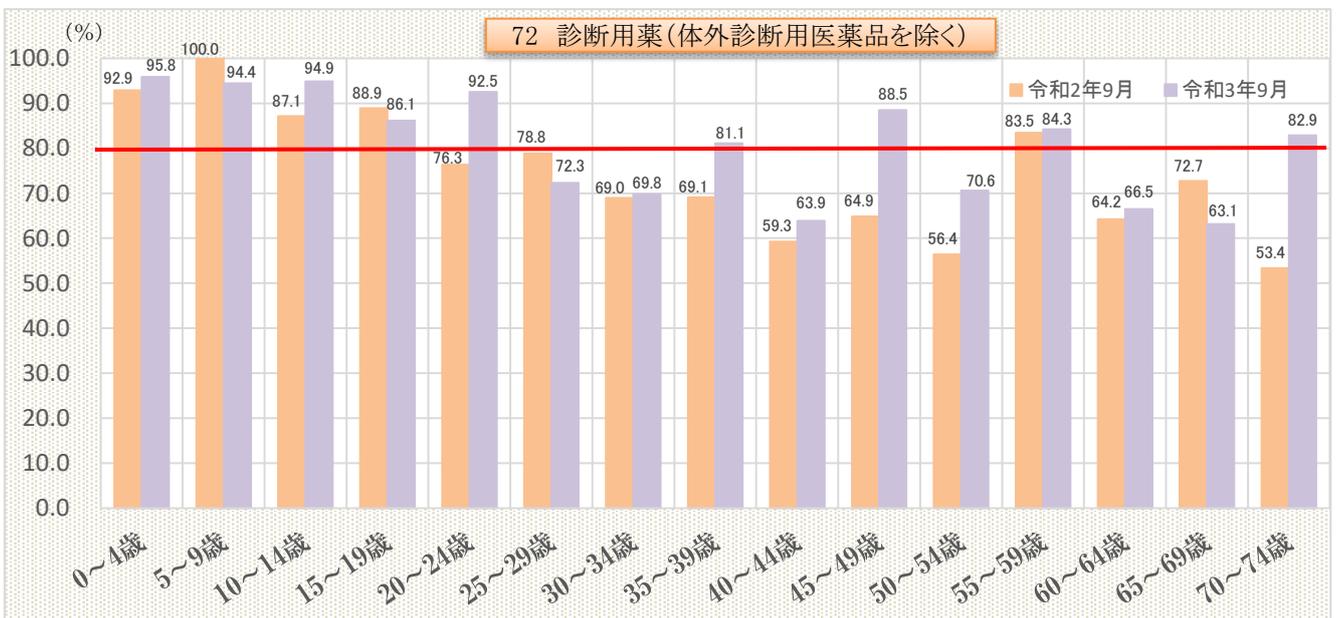
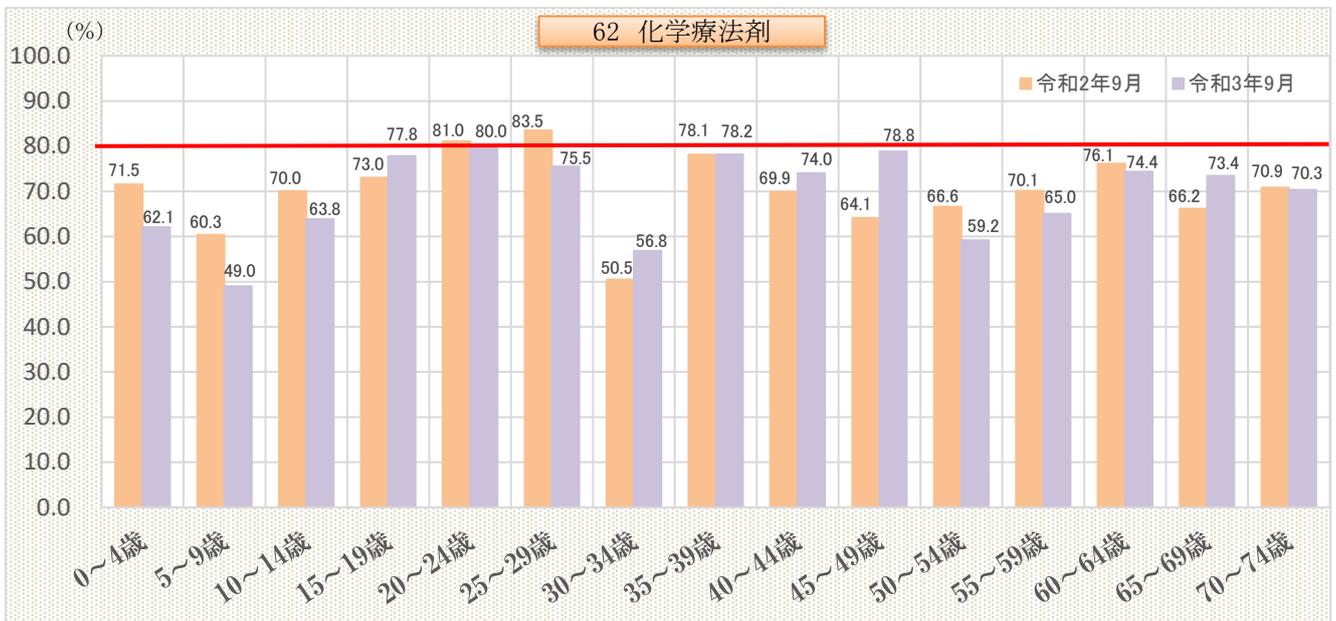
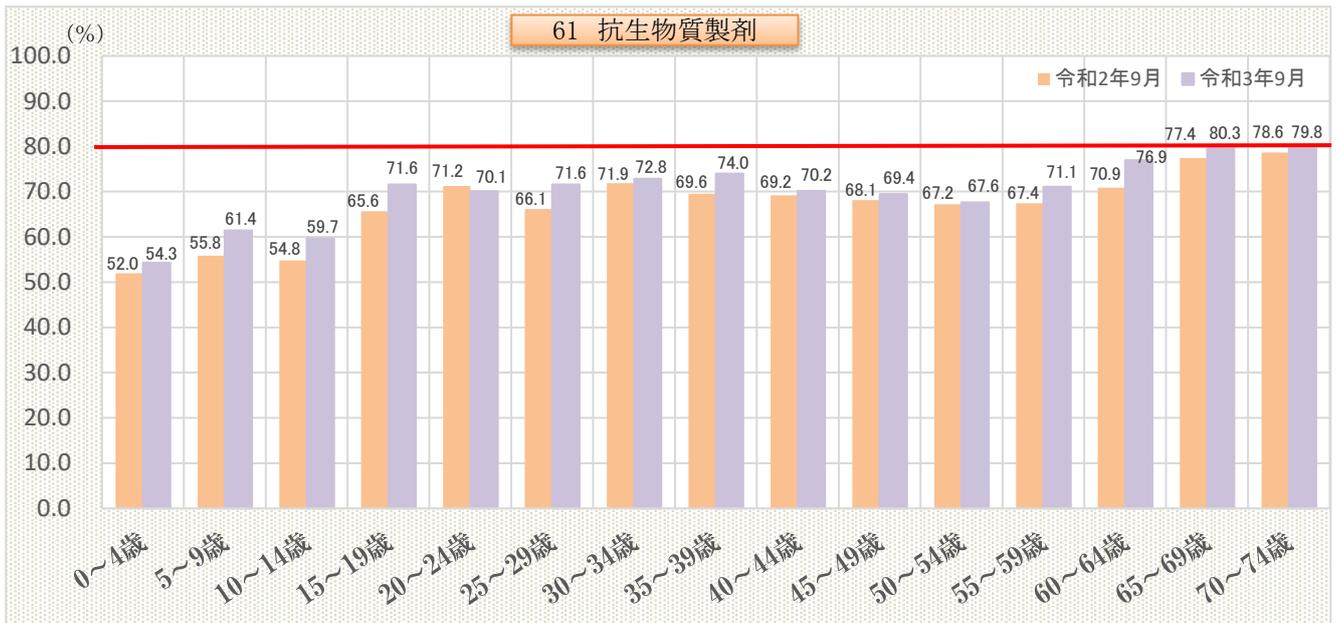
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



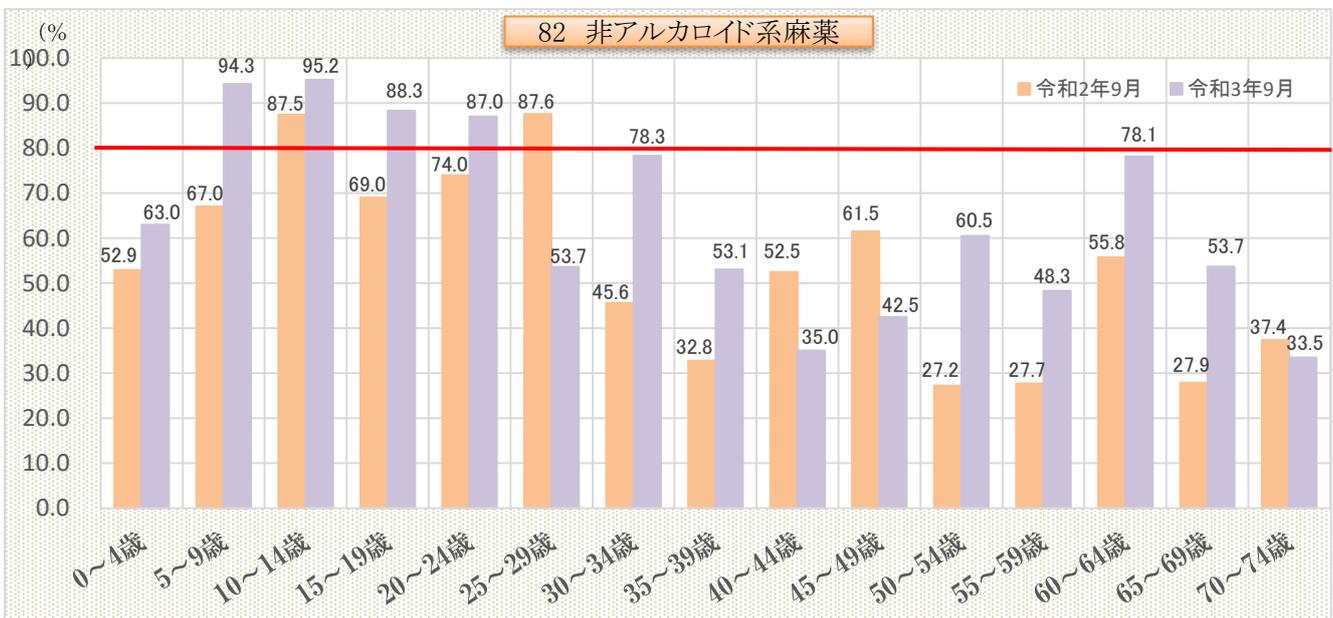
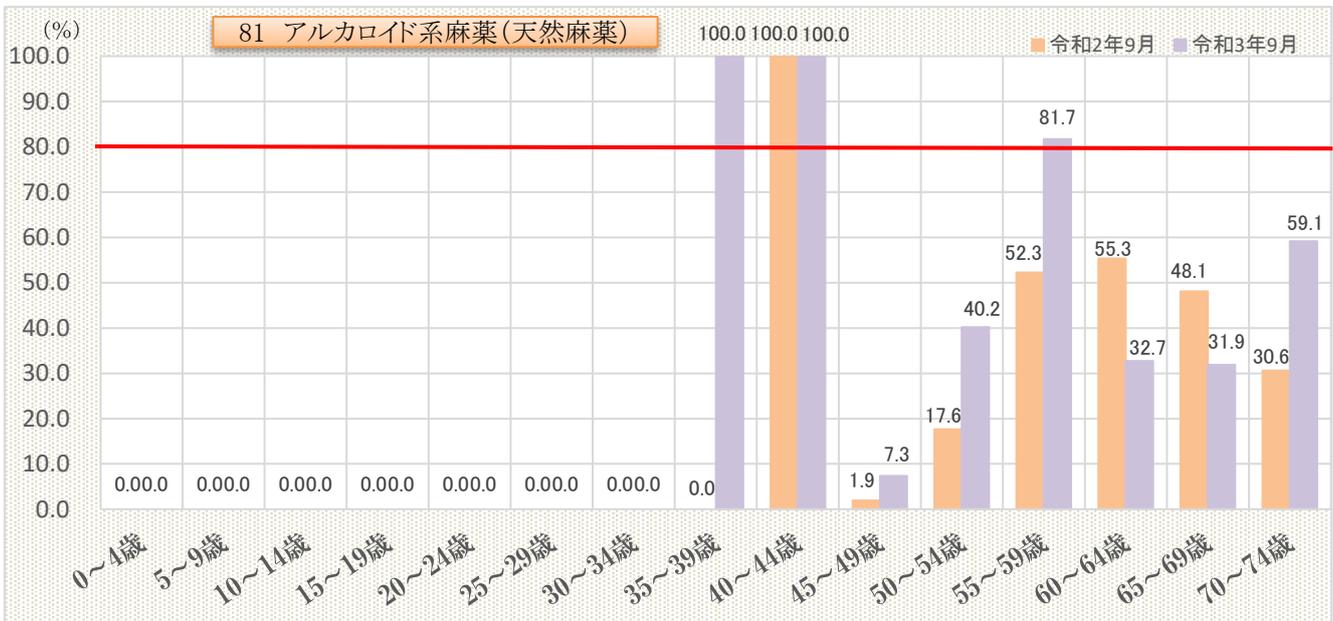
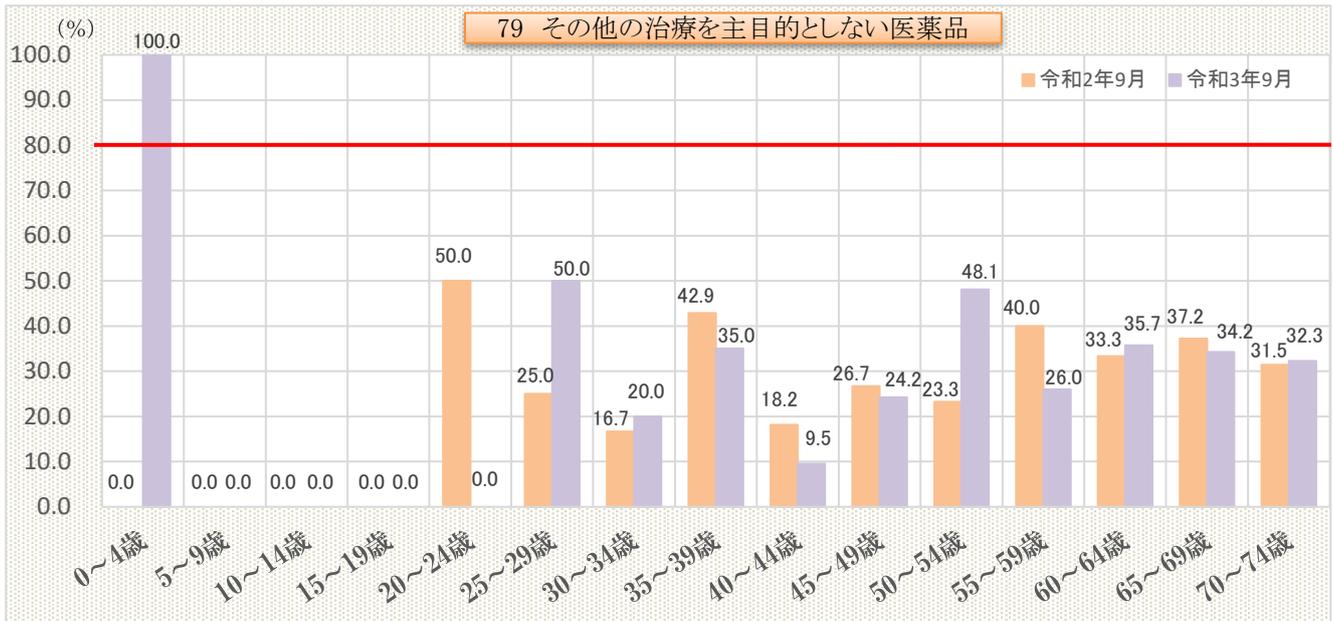
年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.2-3



年齢階級別の使用割合(対前年度比)

資料№2-4

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)
総数	令和2年9月	70.4	64.3	64.6	69.8	78.0	76.6	74.5	76.6	75.7	76.6	77.9	77.8	79.2	78.4	77.3
	令和3年9月	76.3	67.0	68.7	71.2	76.6	76.1	78.5	77.3	77.3	77.8	80.1	79.1	80.0	80.0	78.6
	差	5.8	2.7	4.1	1.4	△ 1.4	△ 0.4	3.9	0.8	1.6	1.2	2.2	1.3	0.8	1.6	1.3
11 中枢神経系用薬	令和2年9月	78.2	60.5	65.0	71.8	73.7	73.0	67.0	68.7	66.6	65.4	67.5	65.3	67.7	66.6	67.0
	令和3年9月	91.8	59.6	69.5	70.2	71.1	71.4	73.8	68.6	69.2	67.3	71.6	69.3	69.6	71.2	69.4
	差	13.6	△ 0.9	4.4	△ 1.6	△ 2.6	△ 1.6	6.8	△ 0.0	2.7	1.9	4.1	4.0	2.0	4.7	2.3
12 末梢神経系用薬	令和2年9月	43.4	81.4	66.8	74.4	71.3	64.3	70.6	73.3	67.2	72.3	68.4	68.3	68.8	69.1	66.6
	令和3年9月	47.0	62.1	70.2	65.5	74.3	62.8	67.8	74.4	66.9	67.2	73.7	70.1	65.6	64.6	64.5
	差	3.7	△ 19.3	3.4	△ 8.9	3.0	△ 1.5	△ 2.7	1.1	△ 0.3	△ 5.1	5.4	1.8	△ 3.3	△ 4.6	△ 2.1
13 感覚器用薬	令和2年9月	69.4	71.6	67.0	74.5	75.6	76.4	50.5	65.5	66.9	69.6	58.8	60.9	62.3	59.8	56.1
	令和3年9月	47.3	43.5	46.6	62.3	73.5	72.2	56.5	68.1	61.8	65.6	66.1	63.0	60.1	61.4	59.7
	差	△ 22.2	△ 28.1	△ 20.3	△ 12.2	△ 2.1	△ 4.2	6.0	2.7	△ 5.1	△ 4.0	7.3	2.1	△ 2.2	1.6	3.6
19 その他の神経系及び 感覚器用医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器用薬	令和2年9月	54.9	50.2	45.0	60.4	91.6	89.2	80.0	88.8	88.0	85.4	85.4	84.5	84.0	83.4	81.6
	令和3年9月	82.8	30.6	44.0	76.3	87.9	86.4	87.7	85.6	88.4	87.7	86.5	84.5	84.9	84.7	82.7
	差	27.9	△ 19.6	△ 1.0	15.9	△ 3.7	△ 2.8	7.7	△ 3.3	0.4	2.2	1.1	△ 0.0	1.0	1.3	1.1
22 呼吸器用薬	令和2年9月	77.6	73.4	70.8	75.5	82.2	85.0	84.9	85.8	77.9	79.5	78.2	76.7	77.6	81.5	76.7
	令和3年9月	82.2	76.7	75.2	80.6	83.4	84.6	84.3	85.1	81.5	79.0	81.1	75.8	80.2	81.8	79.4
	差	4.6	3.2	4.4	5.1	1.2	△ 0.4	△ 0.6	△ 0.6	3.6	△ 0.5	2.9	△ 0.9	2.5	0.3	2.6
23 消化器用薬	令和2年9月	87.8	90.0	86.7	86.2	90.4	86.1	88.3	85.2	84.1	85.4	86.4	85.9	86.1	85.6	85.2
	令和3年9月	86.8	88.3	87.9	83.4	87.2	86.4	87.3	86.5	85.9	86.6	86.7	85.8	86.4	86.4	85.6
	差	△ 1.0	△ 1.7	1.2	△ 2.7	△ 3.1	△ 0.3	△ 0.9	1.3	1.9	1.2	0.4	△ 0.1	0.3	0.7	0.4
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	令和2年9月	33.6	41.0	45.6	70.0	88.9	72.8	82.3	85.6	88.3	90.1	74.4	76.6	73.5	70.7	63.3
	令和3年9月	22.2	27.2	70.5	83.8	91.5	91.9	85.5	88.9	88.4	87.6	80.8	77.0	74.1	68.7	63.9
	差	△ 11.4	△ 13.8	24.9	13.7	2.6	19.0	3.2	3.3	0.1	△ 2.5	6.5	0.4	0.6	△ 2.0	0.6
25 泌尿生殖器用及び肛門用薬	令和2年9月	80.2	73.8	81.5	79.4	71.0	86.3	74.6	78.4	84.5	71.6	75.5	79.2	81.2	79.5	79.5
	令和3年9月	80.8	80.4	78.7	79.2	84.2	81.8	79.0	84.4	84.8	74.9	82.8	77.5	87.2	79.1	81.7
	差	0.6	6.7	△ 2.8	△ 0.2	13.2	△ 4.5	4.5	5.9	0.3	3.3	7.3	△ 1.7	6.0	△ 0.3	2.2
26 外皮用薬	令和2年9月	52.8	47.8	53.5	48.4	54.3	54.9	56.8	60.4	59.5	62.7	60.9	62.2	63.7	61.3	60.7
	令和3年9月	58.0	50.4	56.2	50.2	58.9	55.1	61.2	60.9	59.4	64.4	65.2	64.6	65.0	63.4	62.6
	差	5.2	2.6	2.7	1.8	4.5	0.2	4.4	0.5	△ 0.1	1.8	4.3	2.4	1.4	2.1	2.0
27 歯科口腔用薬	令和2年9月	—	100.0	100.0	100.0	99.2	99.1	100.0	99.2	97.6	92.9	90.7	93.7	94.2	94.1	92.2
	令和3年9月	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	97.8	95.9	100.0	97.0	96.8	89.2	97.5	95.5	95.0	91.8
	差	—	0.0	0.0	0.0	0.8	△ 1.3	△ 4.1	0.8	△ 0.6	3.9	△ 1.5	3.8	1.4	0.9	△ 0.5
29 その他の個々の器管系用医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	100.0	—	100.0	—	17.4	50.0	100.0	100.0	60.9	65.1	58.7
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	93.3	57.1	51.7	100.0	100.0	26.6	76.9	65.8
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	39.7	1.7	0.0	0.0	△ 34.3	11.8	7.1
31 ビタミン剤	令和2年9月	88.2	100.0	78.4	89.4	90.9	89.7	95.6	92.5	88.2	88.9	89.6	85.2	85.6	81.9	80.5
	令和3年9月	98.8	89.8	83.0	94.7	96.0	88.1	93.1	93.1	84.3	90.6	88.0	87.4	84.2	82.4	80.6
	差	10.5	△ 10.2	4.6	5.4	5.1	△ 1.6	△ 2.6	0.6	△ 4.0	1.7	△ 1.6	2.1	△ 1.4	△ 0.5	0.2

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

資料No.2-4

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)
32 滋養強壯薬	令和2年9月	97.4	100.0	67.3	85.8	72.4	72.6	72.6	83.1	79.2	76.2	81.1	77.2	91.9	86.3	89.4
	令和3年9月	100.0	97.6	93.1	92.5	79.2	75.9	79.9	75.0	84.5	80.4	81.0	84.5	90.4	91.8	89.7
	差	2.6	△ 2.4	25.9	6.7	6.9	20.1	7.3	△ 8.0	5.4	4.2	△ 0.1	7.3	△ 1.5	5.5	0.3
33 血液・体液用薬	令和2年9月	82.1	77.6	75.2	74.5	89.9	83.3	82.9	84.6	80.4	83.5	85.8	84.6	84.5	82.0	81.0
	令和3年9月	84.4	82.6	81.9	78.0	83.0	87.5	89.5	85.3	85.5	82.8	88.9	86.9	84.4	83.3	81.5
	差	2.2	5.1	6.6	3.5	△ 6.9	4.2	6.7	0.8	5.1	△ 0.6	3.1	2.3	△ 0.1	1.2	0.5
34 人工透析用薬	令和2年9月	100.0	—	—	—	—	—	—	—	100.0	35.5	81.8	0.0	27.6	5.3	22.3
	令和3年9月	0.0	—	—	—	—	—	—	—	100.0	32.8	100.0	0.0	27.3	24.1	84.5
	差	△ 100.0	—	—	—	—	—	—	—	0.0	△ 2.7	18.2	0.0	△ 0.3	18.8	62.3
39 その他の代謝性医薬品	令和2年9月	58.3	76.4	57.7	62.2	93.8	77.6	74.3	83.5	81.2	82.0	84.0	81.2	81.4	78.5	77.7
	令和3年9月	72.6	54.1	88.4	68.5	79.9	73.9	78.9	86.4	83.3	84.3	84.9	83.1	84.4	80.5	80.9
	差	14.3	△ 22.2	30.7	6.3	△ 13.9	△ 3.7	4.6	2.9	2.1	2.3	0.8	1.9	2.9	2.0	3.2
41 細胞賦活用薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42 腫瘍用薬	令和2年9月	—	100.0	100.0	100.0	—	5.7	100.0	78.7	83.3	90.0	80.5	87.3	80.9	79.2	88.5
	令和3年9月	—	—	—	—	100.0	7.1	97.5	81.4	76.9	84.4	75.2	92.0	83.7	82.4	86.7
	差	—	—	—	—	—	1.4	△ 2.5	2.7	△ 6.4	△ 5.6	△ 5.3	4.7	2.8	3.2	△ 1.8
43 放射性医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	0.0	—	—	—	41.2	—	100.0	—	0.0	31.4
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.8
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	△ 41.2	—	△ 100.0	—	0.0	1.4
44 アレルギー用薬	令和2年9月	58.7	54.7	59.9	74.4	79.8	81.2	78.5	78.9	79.4	77.2	76.5	77.3	77.3	76.4	76.9
	令和3年9月	66.1	58.2	63.1	70.5	80.1	80.4	80.8	83.2	81.5	77.6	79.4	76.9	75.8	78.6	76.8
	差	7.4	3.4	3.2	△ 4.0	0.3	△ 0.8	2.3	4.3	2.2	0.4	2.9	△ 0.3	△ 1.6	2.2	△ 0.1
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び 漢方処方に基づく医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	令和2年9月	52.0	55.8	54.8	65.6	71.2	66.1	71.9	69.6	69.2	68.1	67.2	67.4	70.9	77.4	78.6
	令和3年9月	54.3	61.4	59.7	71.6	70.1	71.6	72.8	74.0	70.2	69.4	67.6	71.1	76.9	80.3	79.8
	差	2.3	5.6	4.8	5.9	△ 1.1	5.5	0.9	4.4	1.0	1.3	0.4	3.7	6.1	2.9	1.2
62 化学療法剤	令和2年9月	71.5	60.3	70.0	73.0	81.0	83.5	50.5	78.1	69.9	64.1	66.6	70.1	76.1	66.2	70.9
	令和3年9月	62.1	49.0	63.8	77.8	80.0	75.5	56.8	78.2	74.0	78.8	59.2	65.0	74.4	73.4	70.3
	差	△ 9.5	△ 11.3	△ 6.2	4.8	△ 1.0	△ 8.0	6.4	0.1	4.1	14.7	△ 7.4	△ 5.1	△ 1.8	7.3	△ 0.6

年齢階級別の使用割合(対前年度比)

資料No.2-4

薬効分類別	診療月	0歳から4歳 使用割合(%)	5歳から9歳 使用割合(%)	10歳から14歳 使用割合(%)	15歳から19歳 使用割合(%)	20歳から24歳 使用割合(%)	25歳から29歳 使用割合(%)	30歳から34歳 使用割合(%)	35歳から39歳 使用割合(%)	40歳から44歳 使用割合(%)	45歳から49歳 使用割合(%)	50歳から54歳 使用割合(%)	55歳から59歳 使用割合(%)	60歳から64歳 使用割合(%)	65歳から69歳 使用割合(%)	70歳から74歳 使用割合(%)	
63 生物学的製剤	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する 医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	令和2年9月	92.9	100.0	87.1	88.9	76.3	78.8	69.0	69.1	59.3	64.9	56.4	83.5	64.2	72.7	53.4	
	令和3年9月	95.8	94.4	94.9	86.1	92.5	72.3	69.8	81.1	63.9	88.5	70.6	84.3	66.5	63.1	82.9	
	差	3.0	△ 5.6	7.8	△ 2.8	16.2	△ 6.5	0.8	12.0	4.6	23.6	14.2	0.8	2.3	△ 9.6	29.5	
73 公衆衛生用薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない 医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	50.0	25.0	16.7	42.9	18.2	26.7	23.3	40.0	33.3	37.2	31.5	
	令和3年9月	100.0	—	—	—	—	50.0	20.0	35.0	9.5	24.2	48.1	26.0	35.7	34.2	32.3	
	差	—	—	—	—	—	25.0	3.3	△ 7.9	△ 8.7	△ 2.4	24.8	△ 14.0	2.4	△ 3.0	0.8	
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	0.0	—	100.0	1.9	17.6	52.3	55.3	48.1	30.6	
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—	100.0	100.0	7.3	40.2	81.7	32.7	31.9	59.1	
	差	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0	5.4	22.5	29.4	△ 22.6	△ 16.2	28.5	
82 非アルカロイド系麻薬	令和2年9月	52.9	67.0	87.5	69.0	74.0	87.6	45.6	32.8	52.5	61.5	27.2	27.7	55.8	27.9	37.4	
	令和3年9月	63.0	94.3	95.2	88.3	87.0	53.7	78.3	53.1	35.0	42.5	60.5	48.3	78.1	53.7	33.5	
	差	10.1	27.3	7.7	19.3	13.0	△ 34.0	32.7	20.3	△ 17.4	△ 19.0	33.3	20.6	22.4	25.8	△ 3.9	

4. 統計分析 (3)若年層における薬効分類別の使用割合

(資料No.3-1、3-2、3-3、3-4)

《若年層(0歳から19歳)における使用割合の薬剤の状況》

- 若年層での使用割合が高い薬剤については、歯科口腔用薬、滋養強壯剤、診断用薬【体外診断医薬品を除く】、ビタミン剤という状況である。
- 若年層での使用割合が低い薬剤については、感覚器官用薬、外皮用薬、抗生物質製剤、アレルギー用薬という状況である。

《年齢階級別の使用割合の高い薬剤の状況》

- 0歳から19歳の年齢階級において使用割合が高い薬剤は、0歳から4歳は歯科口腔用薬100%、滋養強壯薬100%、その他の治療を主目的としない医薬品100%でした。
- 5歳から9歳は歯科口腔用薬100%、滋養強壯薬97.6%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)94.4%である。
- 10歳から14歳は歯科口腔用薬100%、非アルカロイド系麻薬95.2%、診断用薬(体外診断用医薬品を除く)94.9%である。
- 15歳から19歳は歯科口腔用薬100%、ビタミン剤94.7%、滋養強壯薬92.5%である。
- 歯科口腔用薬は、全ての年齢階級において使用割合が100%である。

《年齢階級別の使用割合の低い薬剤の状況》

- 0歳から19歳の年齢階級において、使用割合が低い薬剤は、0歳から4歳はホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)22.2%、末梢神経系用薬47.0%、感覚器官用薬47.3%である。
- 5歳から9歳はホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)27.2%、循環器官用薬30.6%、感覚器官用薬43.5%である。
- 10歳から14歳は循環器官用薬44.0%、感覚器官用薬46.6%、外皮用薬56.2%である。
- 15歳から19歳は外皮用薬50.2%、感覚器官用薬62.3%、末梢神経系用薬65.5%である。

【0歳から4歳薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (2÷2)	100%	ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む) (164÷735)	22.2%
滋養強壯薬 (1,437÷1,437)	100%	末梢神経系用薬 (96÷203)	47.0%
その他の治療を主目的としない 医薬品 (1÷1)	100%	感覚器官用薬 (845÷1,788)	47.3%

【5歳から9歳薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (145÷145)	100%	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む) (75÷277)	27.2%
滋養強壯薬 (1,117÷1,145)	97.6%	循環器官用薬 (176÷574)	30.6%
診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (34÷36)	94.4%	感覚器官用薬 (2,296÷5,283)	43.5%

【10歳から14歳薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (131÷131)	100%	循環器官用薬 (1,775÷4,035)	44.0%
非アルカロイド系麻薬 (79÷83)	95.2%	感覚器官用薬 (2,065÷4,429)	46.6%
診断用薬(体外診断用医薬品を除く) (37÷39)	94.9%	外用薬 (25,122÷44,735)	56.2%

【15歳から19歳薬効分類別の使用割合状況】

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
歯科口腔用薬 (53÷53)	100%	外用薬 (24,412÷48,647)	50.2%
ビタミン剤 (11,462÷12,102)	94.7%	感覚器官用薬 (2,137÷3,429)	62.3%
滋養強壯薬 (1,671÷1,807)	92.5%	末梢神経系用薬 (2,442÷3,731)	65.5%

- ※非アルカロイド系麻薬 合成麻薬等
- ※滋養強壯薬 カルシウム剤、無機質製剤、臓器製剤等
- ※診断用薬 X線造影剤、機能検査用試薬
- (体外診断用医薬品を除く) その他の診断用薬(体外診断用医薬品を除く)
- ※その他の代謝性医薬品 肝臓疾患用剤、痛風治療剤、糖尿病用剤等
- ※ホルモン剤【抗ホルモン剤を含む】 脳下垂体ホルモン剤、
- 甲状腺、副甲状腺ホルモン剤等
- ※循環器官用薬 強心剤、不整脈用剤、利尿剤、血圧降下剤等
- ※感覚器官用薬 眼科用剤、耳鼻科用剤等
- ※外用薬 化膿性疾患用剤、鎮痛、鎮痒等

《昨年度との比較》

○最も高い伸びとなっている、0歳から4歳までの薬効分類別の使用割合において、特に循環器官用薬やその他の代謝性医薬品の伸びが高くなっている。

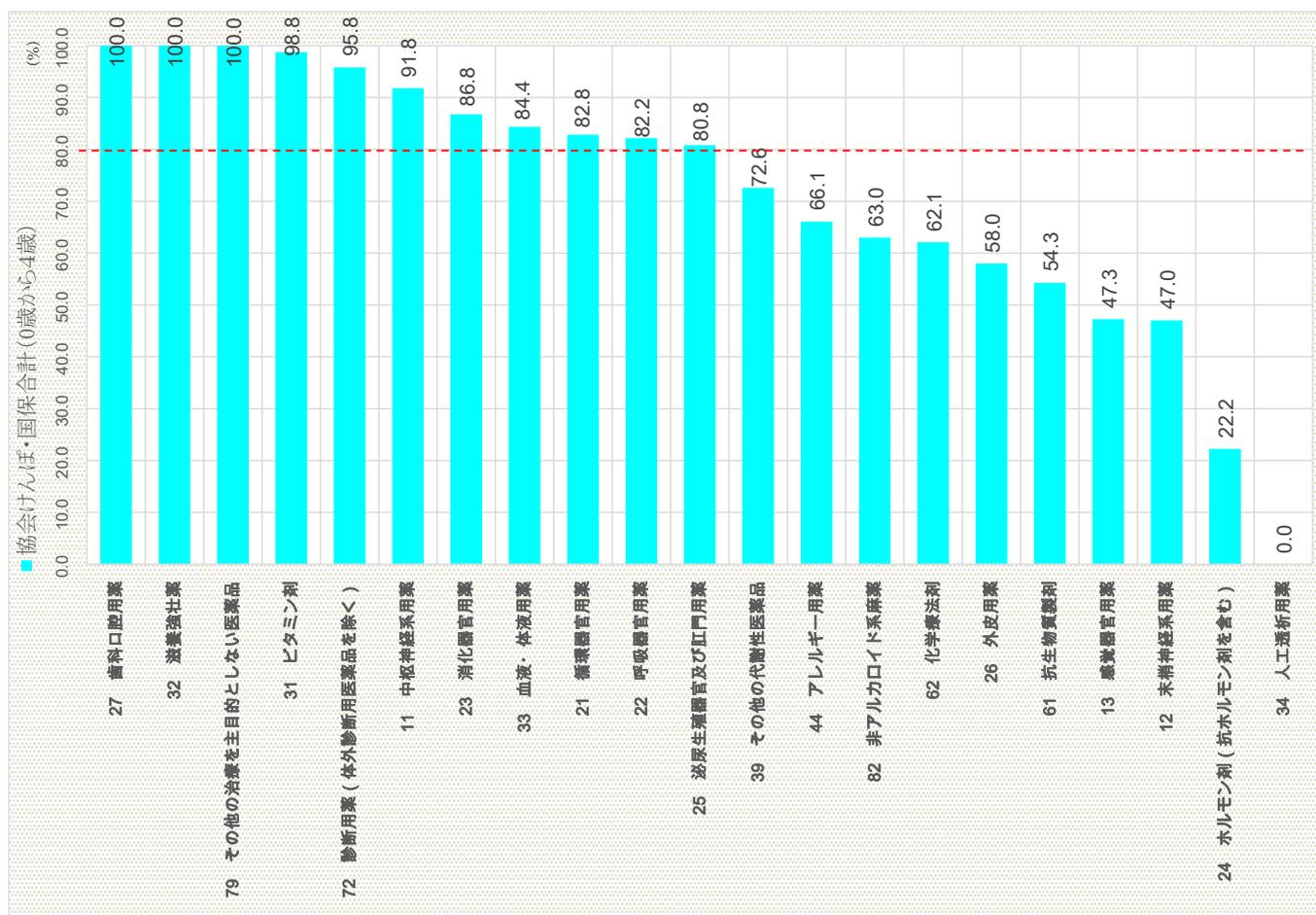
【0歳から4歳までの薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.3-2より

薬効分類別	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
21 循環器官用薬	54.9%	82.8%	27.9%
39 その他の代謝性医薬品	58.3%	72.6%	14.3%
11 中枢神経系用薬	78.2%	91.8%	13.6%

若年層における薬効分類別の使用割合

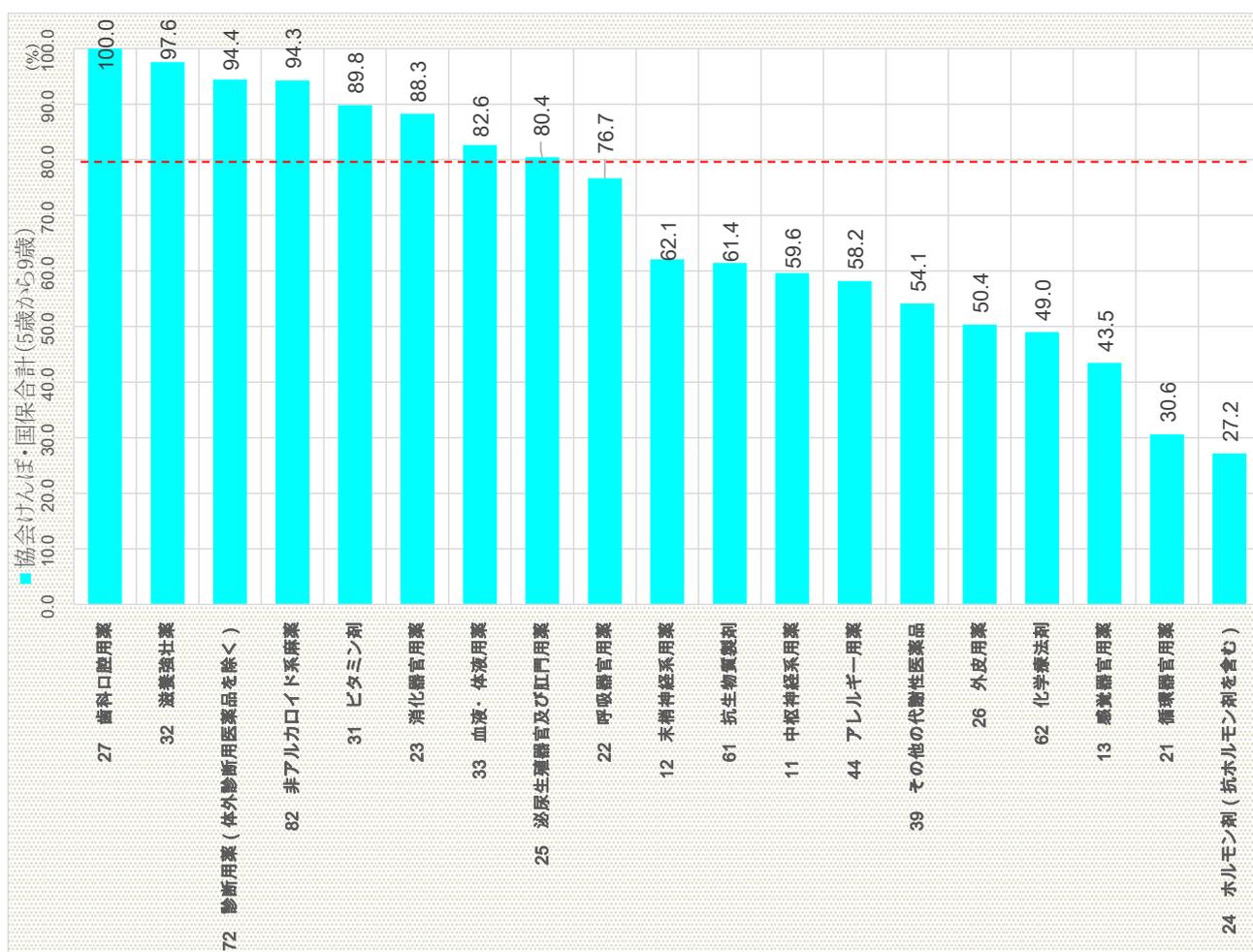
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計 (0歳から4歳)	
	使用割合 (%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	2
32 滋養強壮薬	100.0	1,437
79 その他の治療を主目的としない医薬品	100.0	1
31 ビタミン剤	98.8	81
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	95.8	24
11 中枢神経系用薬	91.8	13,685
23 消化器官用薬	86.8	5,336
33 血液・体液用薬	84.4	108,901
21 循環器官用薬	82.8	480
22 呼吸器官用薬	82.2	179,967
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.8	198
39 その他の代謝性医薬品	72.6	18,348
44 アレルギー用薬	66.1	120,223
82 非アルカロイド系麻薬	63.0	54
62 化学療法剤	62.1	878
26 外皮用薬	58.0	31,905
61 抗生物質製剤	54.3	11,980
13 感覚器官用薬	47.3	1,788
12 末梢神経系用薬	47.0	203
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	22.2	735
34 人工透析用薬	0.0	90

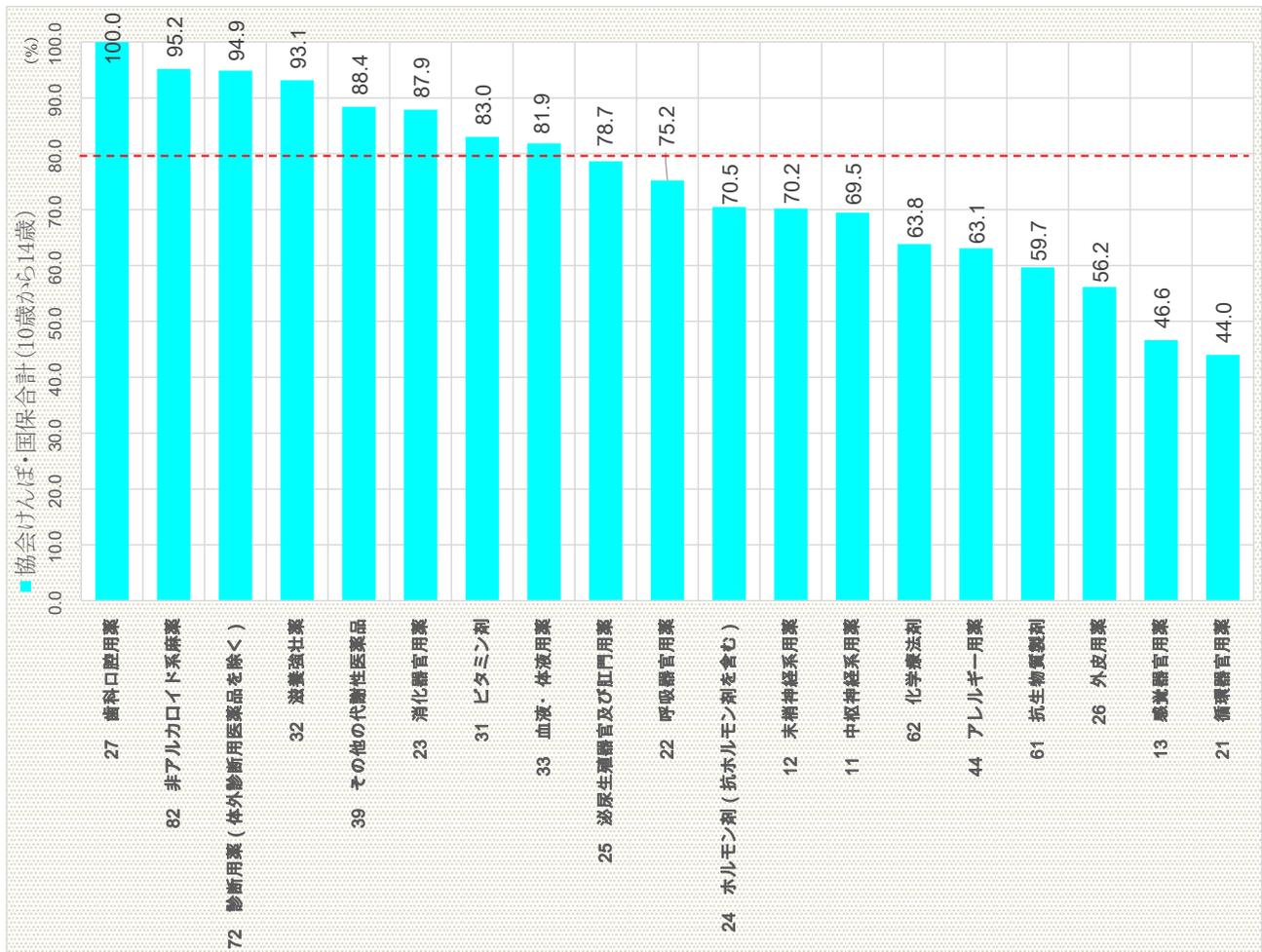
若年層における薬効分類別の使用割合

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(5歳から9歳)	
	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	145
32 滋養強壮薬	97.6	1,117
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	94.4	36
82 非アロカロイド系麻薬	94.3	35
31 ビタミン剤	89.8	423
23 消化器官用薬	88.3	7,366
33 血液・体液用薬	82.6	74,802
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.4	1,074
22 呼吸器官用薬	76.7	65,958
12 末梢神経系用薬	62.1	204
61 抗生物質製剤	61.4	10,333
11 中枢神経系用薬	59.6	16,072
44 アレルギー用薬	58.2	133,409
39 その他の代謝性医薬品	54.1	3,846
26 外皮用薬	50.4	28,698
62 化学療法剤	49.0	472
13 感覚器官用薬	43.5	5,283
21 循環器官用薬	30.6	574
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	27.2	277



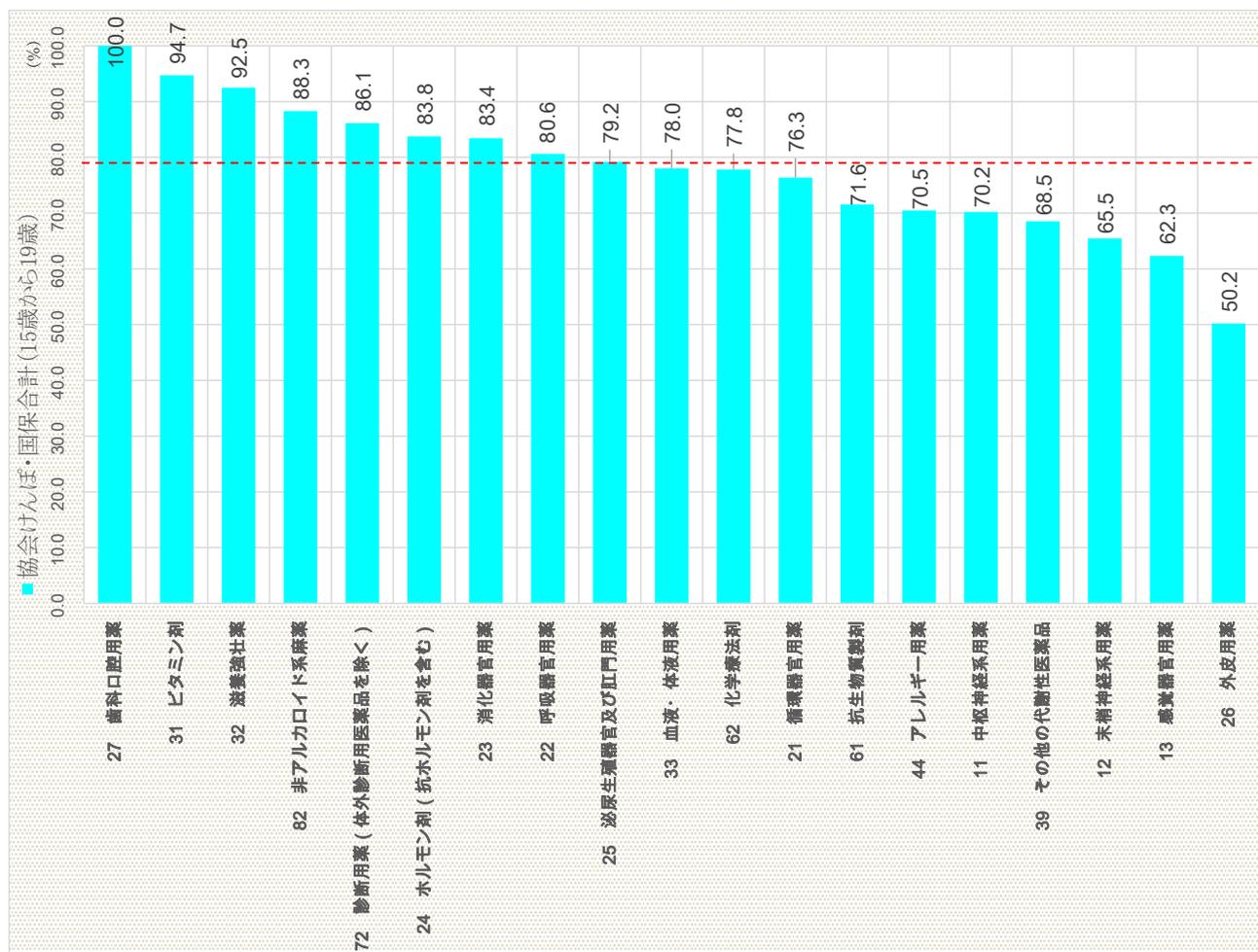
若年層における薬効分類別の使用割合

薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(10歳から14歳)	
	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	131
82 非アロカロイド系麻薬	95.2	83
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	94.9	39
32 滋養強壮薬	93.1	1,547
39 その他の代謝性医薬品	88.4	3,931
23 消化器官用薬	87.9	15,432
31 ビタミン剤	83.0	4,748
33 血液・体液用薬	81.9	51,102
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	78.7	708
22 呼吸器官用薬	75.2	24,195
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	70.5	878
12 末梢神経系用薬	70.2	1,577
11 中枢神経系用薬	69.5	34,870
62 化学療法剤	63.8	815
44 アレルギー用薬	63.1	90,288
61 抗生物質製剤	59.7	9,289
26 外用薬	56.2	44,735
13 感覚器官用薬	46.6	4,429
21 循環器官用薬	44.0	4,035



若年層における薬効分類別の使用割合

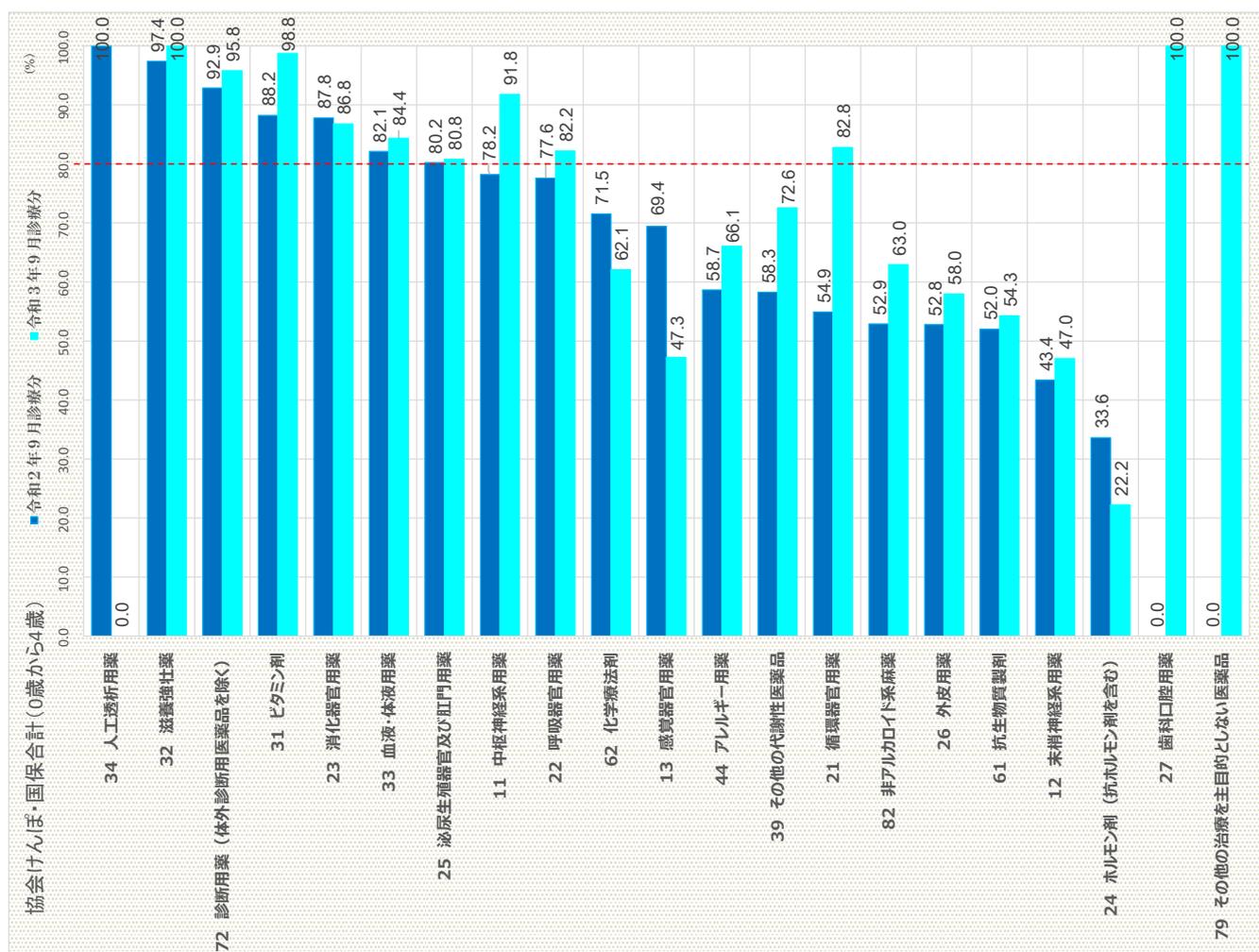
資料No.3-1



薬効分類別	協会けんぽ・国保合計(15歳から19歳)	
	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	53
31 ビタミン剤	94.7	12,102
32 滋養強壮薬	92.5	1,807
82 非アロカロイド系麻薬	88.3	171
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	86.1	36
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	83.8	3,068
23 消化器官用薬	83.4	30,182
22 呼吸器官用薬	80.6	10,910
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	79.2	202
33 血液・体液用薬	78.0	42,829
62 化学療法剤	77.8	1,160
21 循環器官用薬	76.3	8,380
61 抗生物質製剤	71.6	12,695
44 アレルギー用薬	70.5	49,477
11 中枢神経系用薬	70.2	55,222
39 その他の代謝性医薬品	68.5	8,325
12 末梢神経系用薬	65.5	3,731
13 感覚器官用薬	62.3	3,429
26 外皮用薬	50.2	48,647

若年層における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

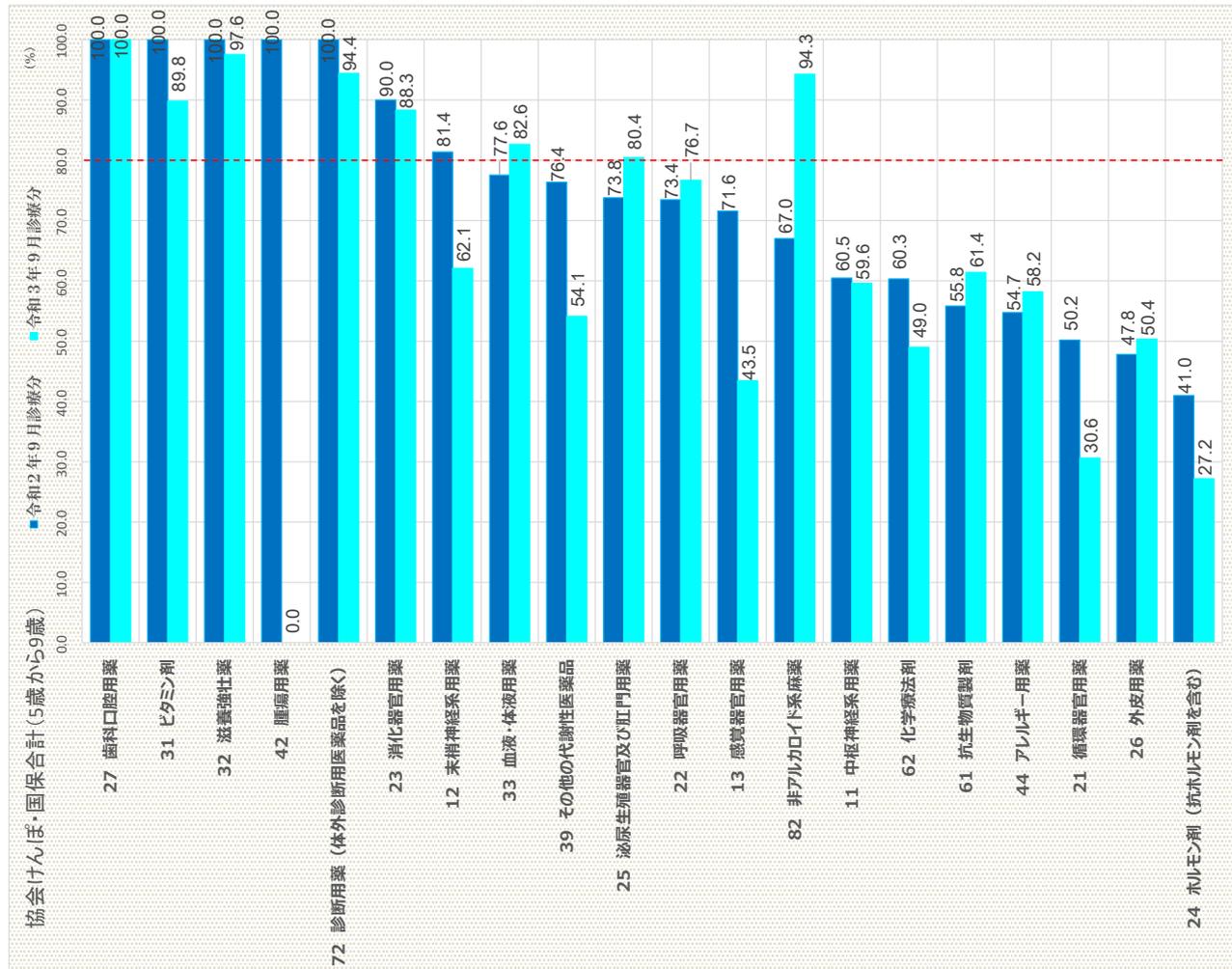
資料№.3-2



薬効分類	令和2年9月診療分			令和3年9月診療分		
	使用割合 (%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合 (%)	対象薬剤数	切替薬剤数
34 人工透析用薬	100.0	6	6	0.0	90	0
32 滋養強壮薬	97.4	1,760	1,714	100.0	1,437	1,437
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	92.9	14	13	95.8	24	23
31 ビタミン剤	88.2	17	15	98.8	81	80
23 消化器官用薬	87.8	4,291	3,768	86.8	5,336	4,631
33 血液・体液用薬	82.1	88,195	72,433	84.4	108,901	91,881
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	80.2	172	138	80.8	198	160
11 中枢神経系用薬	78.2	9,116	7,130	91.8	13,685	12,560
22 呼吸器官用薬	77.6	128,034	99,361	82.2	179,967	147,914
62 化学療法剤	71.5	495	354	62.1	878	545
13 感覚器官用薬	69.4	1,507	1,046	47.3	1,788	845
44 アレルギ-用薬	58.7	106,368	62,409	66.1	120,223	79,413
39 その他の代謝性医薬品	58.3	16,262	9,476	72.6	18,348	13,314
21 循環器官用薬	54.9	307	169	82.8	480	397
82 非アロカイド系麻薬	52.9	40	21	63.0	54	34
26 外皮用薬	52.8	28,424	15,003	58.0	31,905	18,499
61 抗生物質製剤	52.0	9,136	4,750	54.3	11,980	6,501
12 末梢神経系用薬	43.4	148	64	47.0	203	96
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	33.6	496	167	22.2	735	164
27 歯科口腔用薬	—	—	—	100.0	2	2
79 その他の治療を主目的としない医薬品	—	—	—	100.0	1.0	1.0

若年層における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

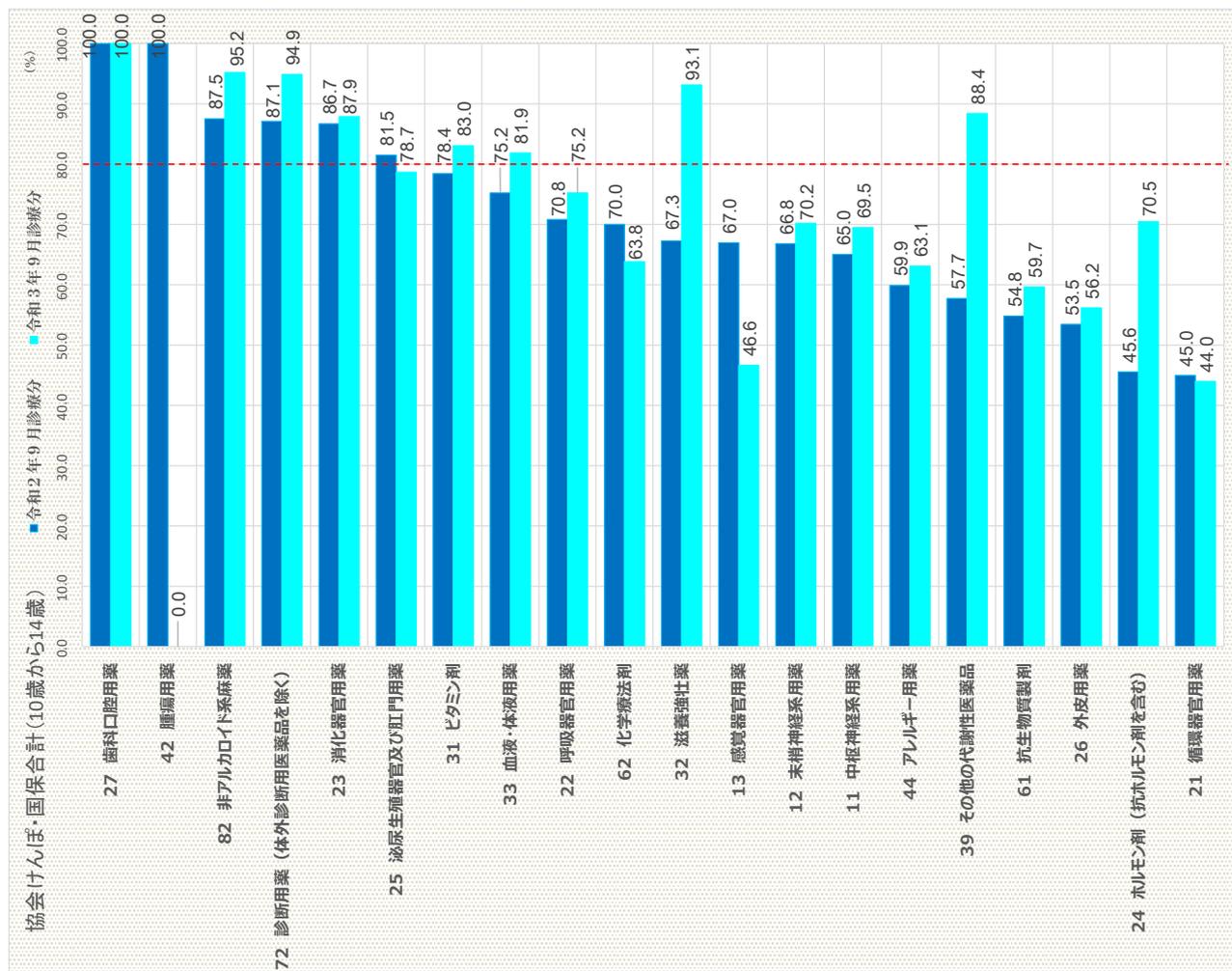
資料№3-2



薬効分類	令和2年9月診療分		令和3年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	151	100.0	145
31 ビタミン剤	100.0	144	89.8	423
32 滋養強壮薬	100.0	571	97.6	1,145
42 腫瘍用薬	100.0	28	—	—
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	100.0	25	94.4	36
23 消化器官用薬	90.0	8,168	88.3	7,366
12 末梢神経系用薬	81.4	317	62.1	204
33 血液・体液用薬	77.6	69,828	82.6	74,802
39 その他の代謝性医薬品	76.4	3,411	54.1	3,846
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	73.8	629	80.4	1,074
22 呼吸器官用薬	73.4	63,568	76.7	65,958
13 感覚器官用薬	71.6	3,124	43.5	5,283
82 非アルカロイド系麻薬	67.0	36	94.3	35
11 中枢神経系用薬	60.5	14,373	59.6	16,072
62 化学療法剤	60.3	558	49.0	472
61 抗生物質製剤	55.8	12,353	61.4	10,333
44 アレルギ―用薬	54.7	124,985	58.2	133,409
21 循環器官用薬	50.2	194	30.6	574
26 外用用薬	47.8	28,606	50.4	28,698
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	41.0	237	27.2	277

若年層における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

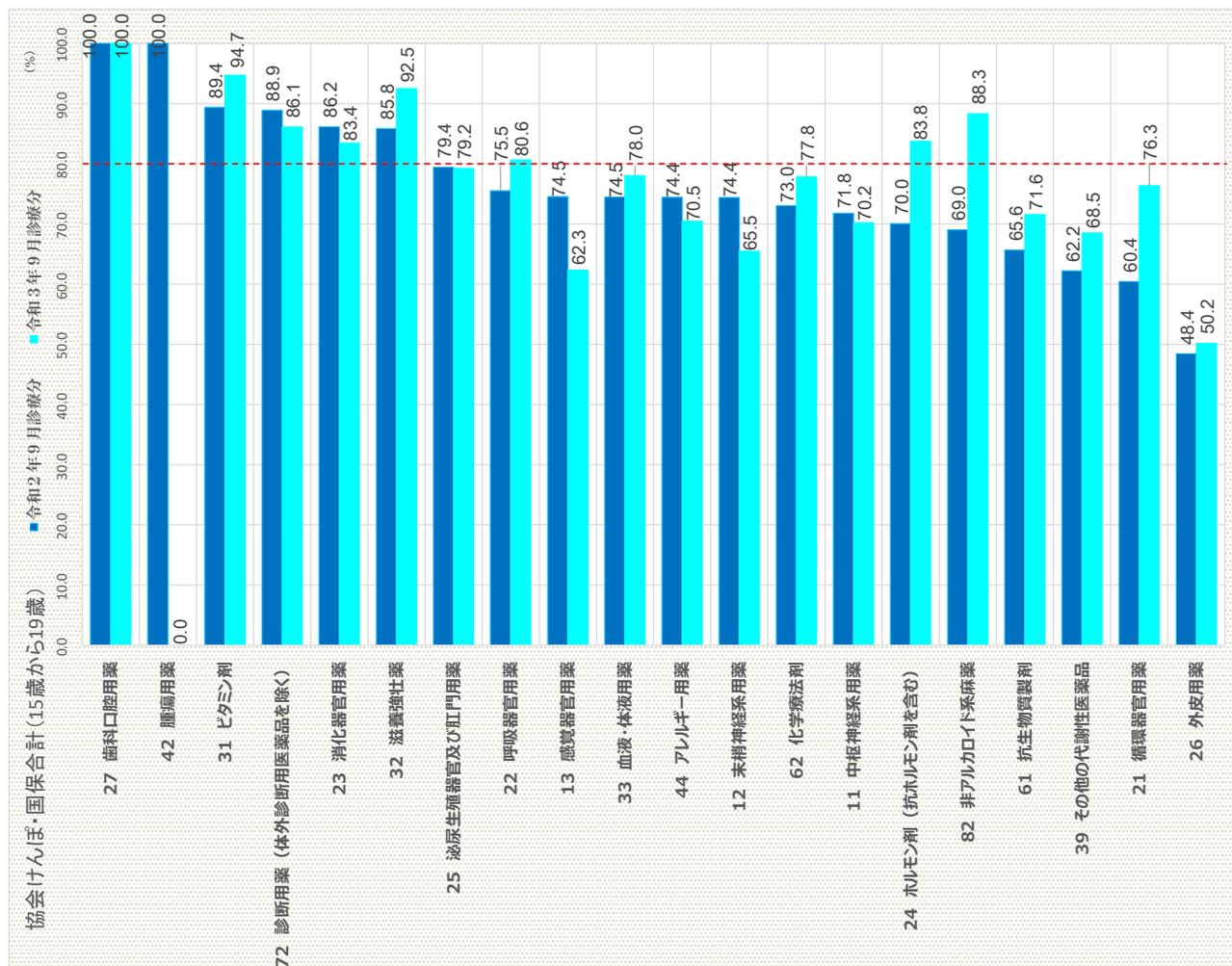
資料№3-2



薬効分類	令和2年9月診療分		令和3年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	114	100.0	131
42 腫瘍用薬	100.0	8	—	—
82 非アルカロイド系麻薬	87.5	24	95.2	83
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	87.1	31	94.9	39
23 消化器官用薬	86.7	20,616	87.9	15,432
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	81.5	784	78.7	708
31 ビタミン剤	78.4	5,571	83.0	4,748
33 血液・体液用薬	75.2	45,387	81.9	51,102
22 呼吸器官用薬	70.8	25,115	75.2	24,195
62 化学療法剤	70.0	1,211	63.8	815
32 滋養強壮薬	67.3	1,711	93.1	1,547
13 感覚器官用薬	67.0	3,002	46.6	4,429
12 末梢神経系用薬	66.8	1,880	70.2	1,577
11 中枢神経系用薬	65.0	36,925	69.5	34,870
44 アレルギ―用薬	59.9	87,546	63.1	90,288
39 その他の代謝性医薬品	57.7	7,612	88.4	3,931
61 抗生物質製剤	54.8	9,953	59.7	9,289
26 外皮用薬	53.5	49,688	56.2	44,735
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	45.6	841	70.5	878
21 循環器官用薬	45.0	5,359	44.0	4,035

若年層における薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料№3-2



薬効分類	協会けんぽ・国保合計(15歳から19歳)			
	令和2年9月診療分		令和3年9月診療分	
	使用割合(%)	対象薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数
27 歯科口腔用薬	100.0	38	100.0	53
42 腫瘍用薬	100.0	14	—	—
31 ビタミン剤	89.4	12,424	94.7	12,102
72 診断用薬 (体外診断用医薬品を除く)	88.9	45	86.1	36
23 消化器官用薬	86.2	31,275	83.4	30,182
32 滋養強壮薬	85.8	2,190	92.5	1,807
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	79.4	413	79.2	202
22 呼吸器官用薬	75.5	11,367	80.6	10,910
13 感覚器官用薬	74.5	2,239	62.3	3,429
33 血液・体液用薬	74.5	36,609	78.0	42,829
44 アレルギ-用薬	74.4	42,148	70.5	49,477
12 末梢神経系用薬	74.4	4,143	65.5	3,731
62 化学療法剤	73.0	1,424	77.8	1,160
11 中枢神経系用薬	71.8	53,495	70.2	55,222
24 ホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む)	70.0	2,558	83.8	3,068
82 非アルカロイド系麻薬	69.0	113	88.3	171
61 抗生物質製剤	65.6	13,060	71.6	12,695
39 その他の代謝性医薬品	62.2	6,820	68.5	8,325
21 循環器官用薬	60.4	6,549	76.3	8,380
26 外皮用薬	48.4	56,662	50.2	48,647

4. 統計分析 (4)後期高齢者医療における薬効分類別の使用割合

(資料No.4-1、4-2、4-3)

《使用割合の状況(総数)》

- 75歳以上の使用割合の総数は、77.2%であり、昨年度より1.6%伸びているが、国で掲げた目標値80%には、まだ届いていない状況である。

※資料No.4-2より

	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
使用割合(総数)	75.6%	77.2%	1.6%

《使用割合の状況(薬効分類別)》

- 75歳以上の使用割合が高い薬剤については、滋養強壮薬 85.9%、消化器官用薬 85.8%、腫瘍用薬 82.8%という状況である。

- 75歳以上の使用割合が低い薬剤については、非アルカロイド系麻薬 23.3%、放射性医薬品 24.4%、その他の治療を主目的としない医薬品 30.4%という状況である。

【75歳以上において使用割合が高い・低い薬剤名及び使用割合】

※資料No.4-2より

使用割合が高い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合	使用割合が低い薬剤名 (切替薬剤÷対象薬剤)	使用割合
滋養強壮薬 (169,440÷197,148)	85.9%	非アルカロイド系麻薬 (806÷3,456)	23.3%
消化器官用薬 (4,252,342÷4,954,434)	85.8%	放射性医薬品 (2,449÷10,054)	24.4%
腫瘍用薬 (64,729÷78,184)	82.8%	その他の治療を主目的としない 医薬品(107÷352)	30.4%

※滋養強壮薬 (カルシウム剤、タンパクアミノ酸製剤、臓器製剤 等)

《昨年度との比較》

- 昨年度から最も伸びたのは、アルカロイド系麻薬(天然麻薬)であり、30.0%伸びている。

【薬効分類別の使用割合(前年度比較)】

※資料No.4-3より

薬効分類別	令和2年9月診療分	令和3年9月診療分	差
81 アルカロイド系麻薬 (天然麻薬)	22.8%	52.8%	30.0%
72 診断用薬(体外診断 用医薬品を除く)	55.8%	80.9%	25.1%
34 人工透析用薬	53.3%	78.3%	25.0%

《使用割合が高い年齢階級の状況及び昨年度との比較》

- 年齢階級別に見ると100歳以上において使用割合が最も高く、83.4%である。

また昨年度と比較すると、85歳から89歳の年齢階級は昨年度から1.9%と伸びており、75歳以上で最も高い伸びとなっている。

※資料No.4-3より

年齢階級	75歳から 79歳	80歳から 84歳	85歳から 89歳	90歳から 94歳	95歳から 99歳	100歳以上
令和2年9月	75.1%	74.9%	75.5%	77.0%	78.9%	84.2%
令和3年9月	76.6%	76.5%	77.4%	78.4%	80.1%	83.4%
差	1.5%	1.6%	1.9%	1.4%	1.2%	△0.8%

75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

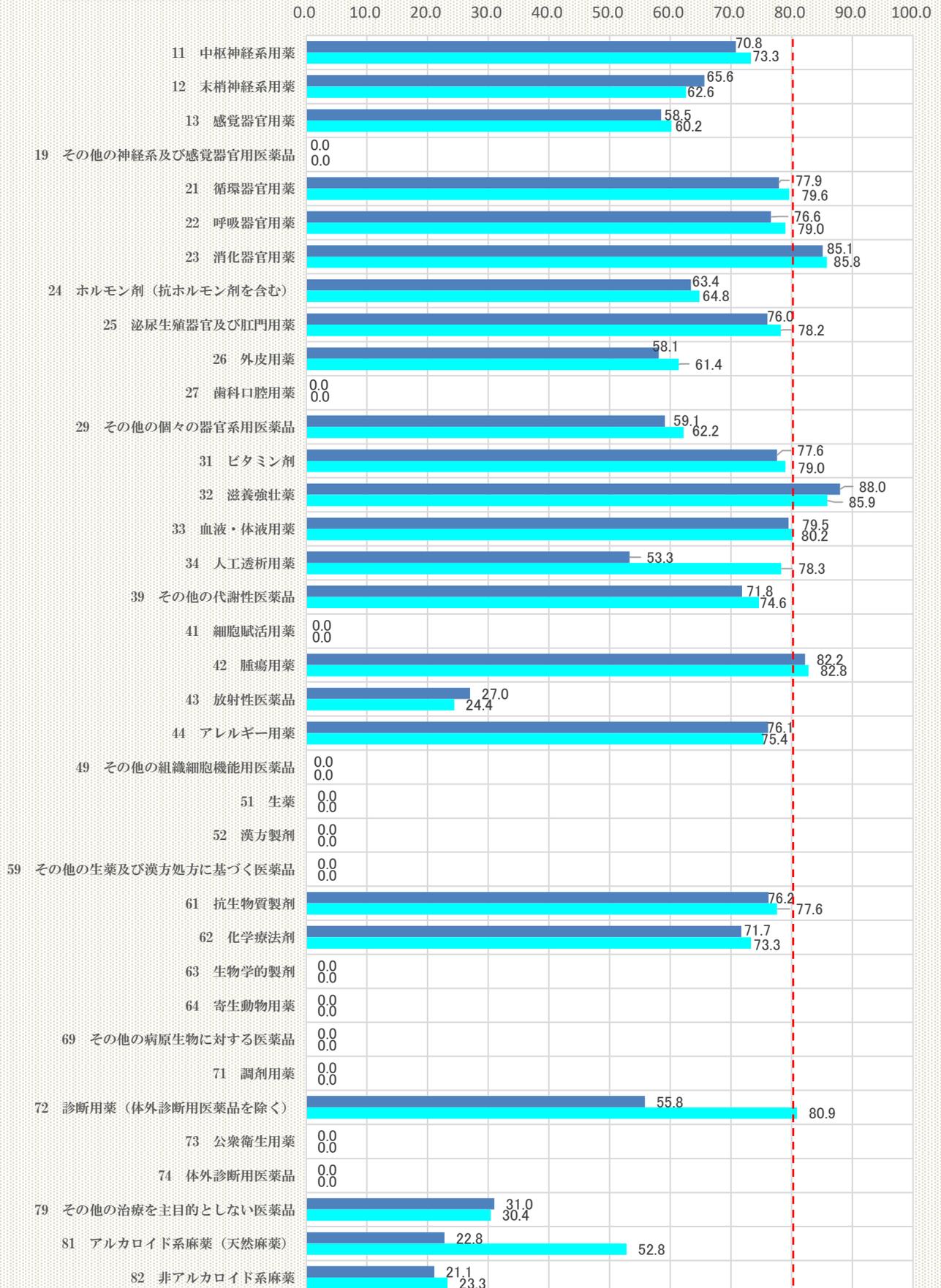
資料No.4-1

総数

■ 令和2年9月

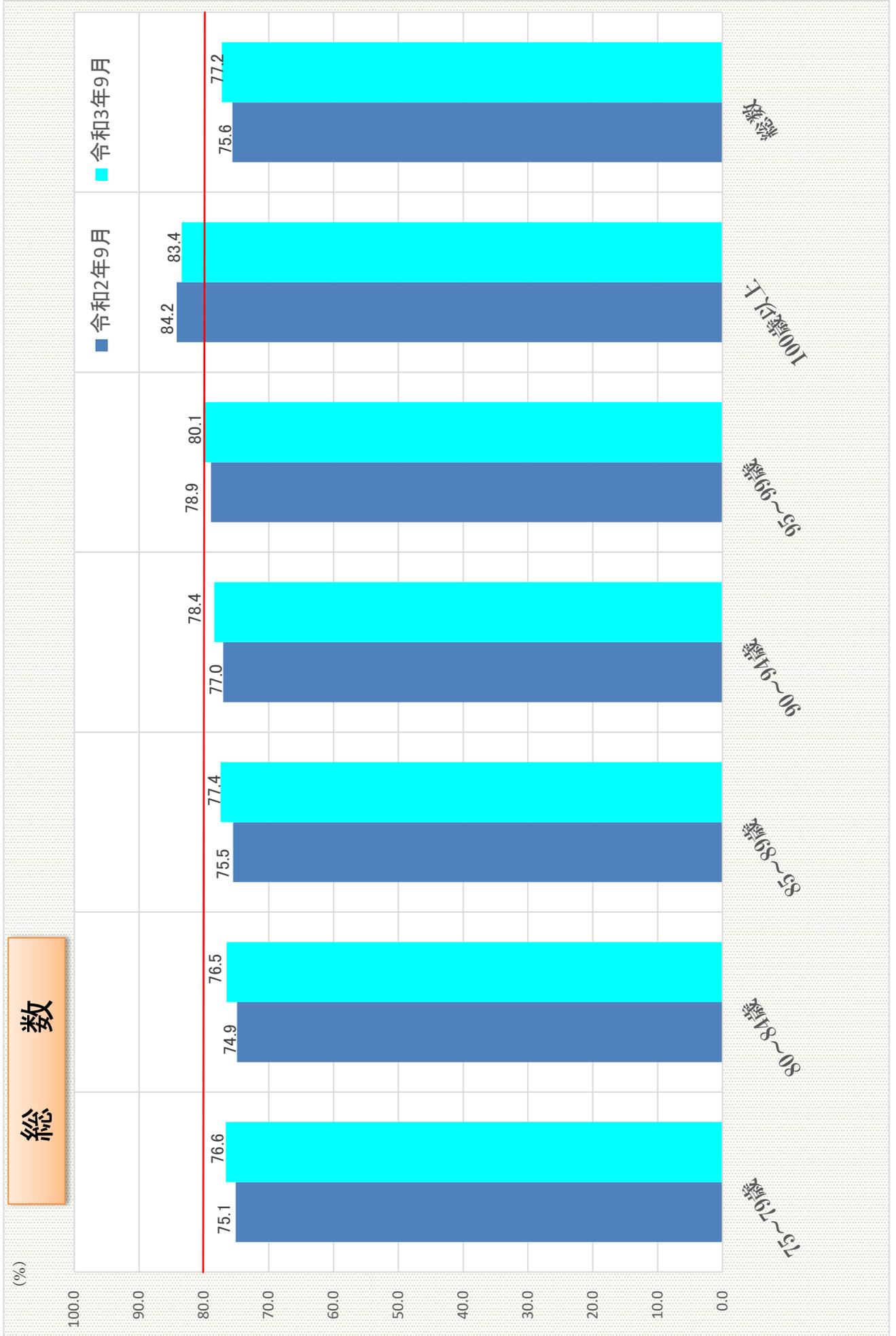
■ 令和3年9月

(%)



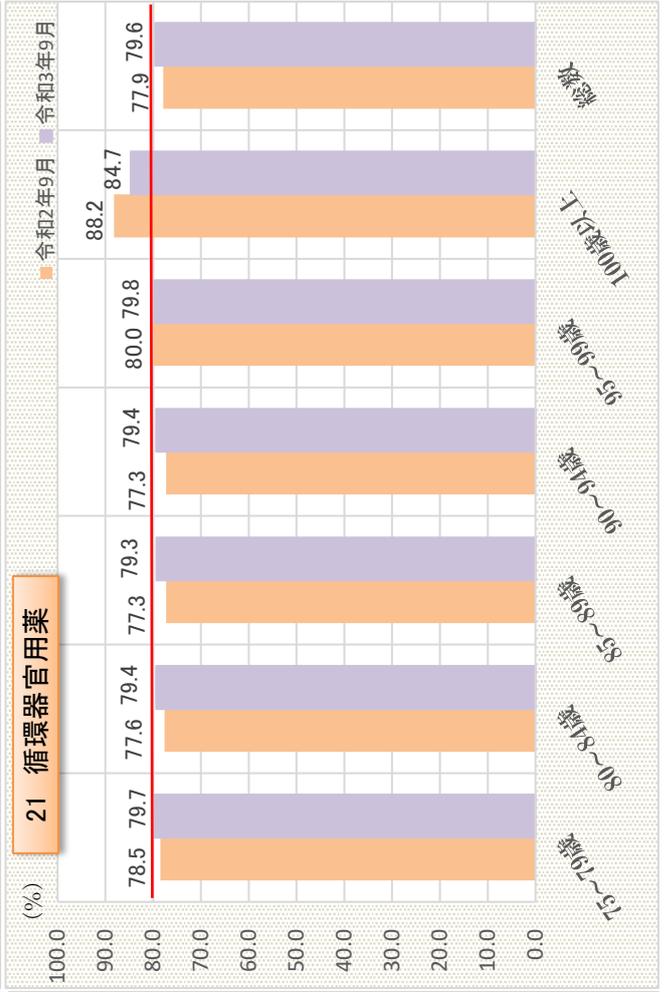
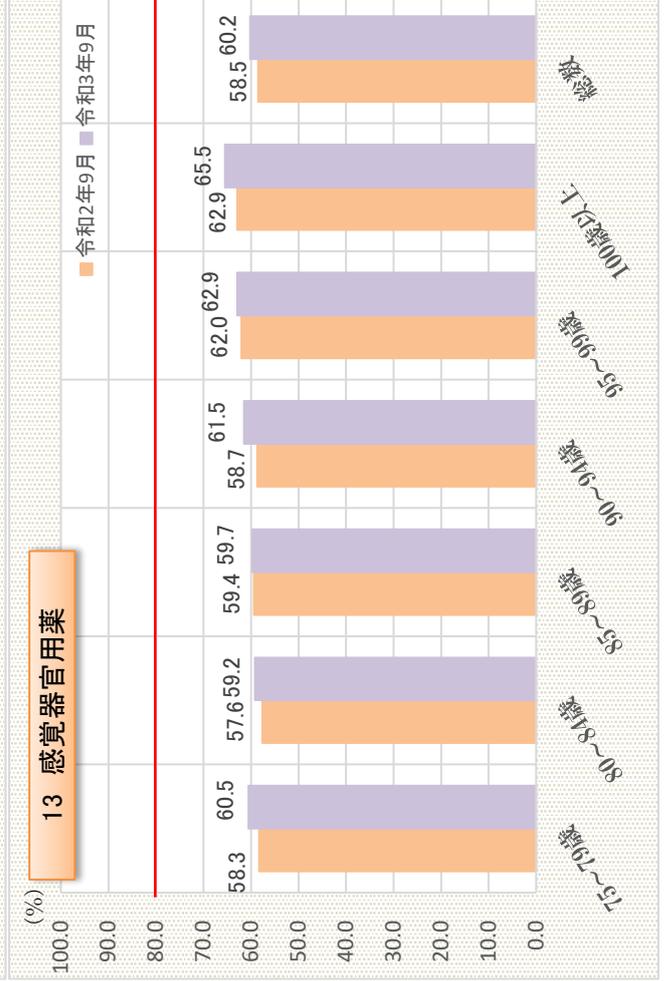
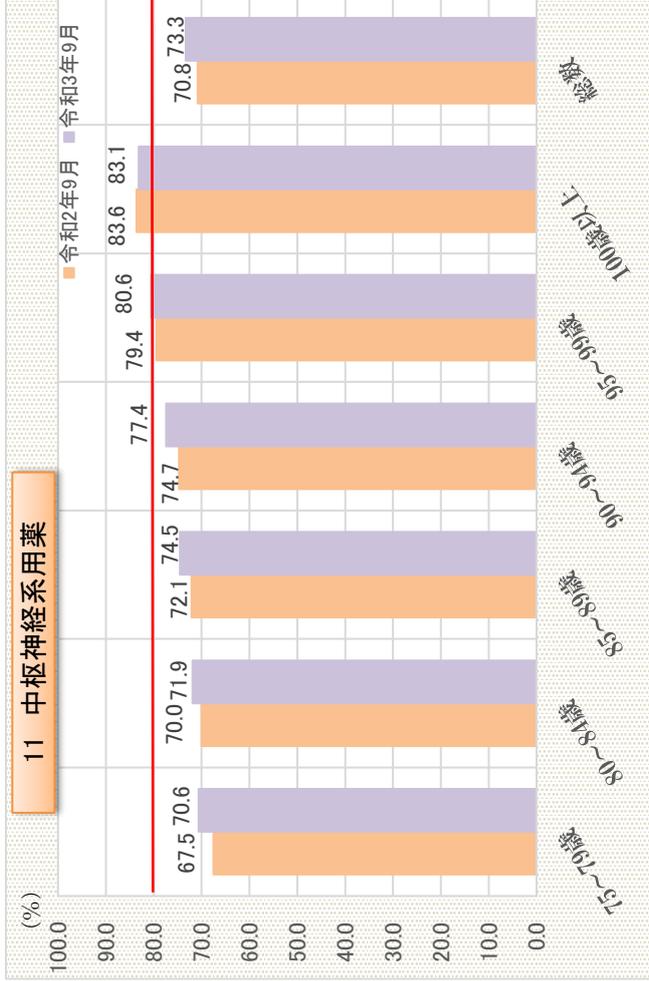
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



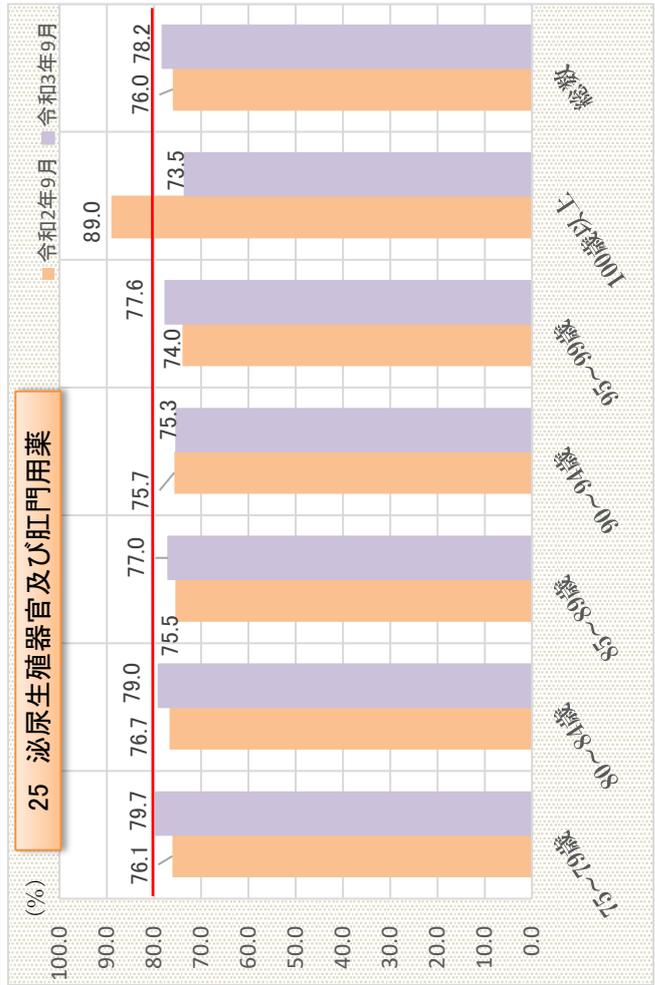
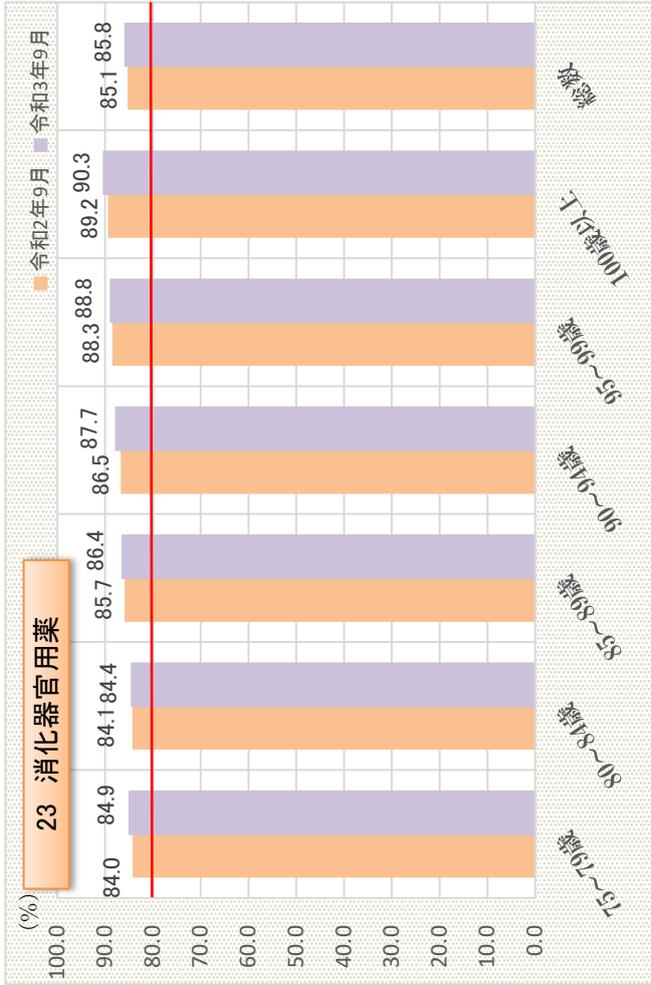
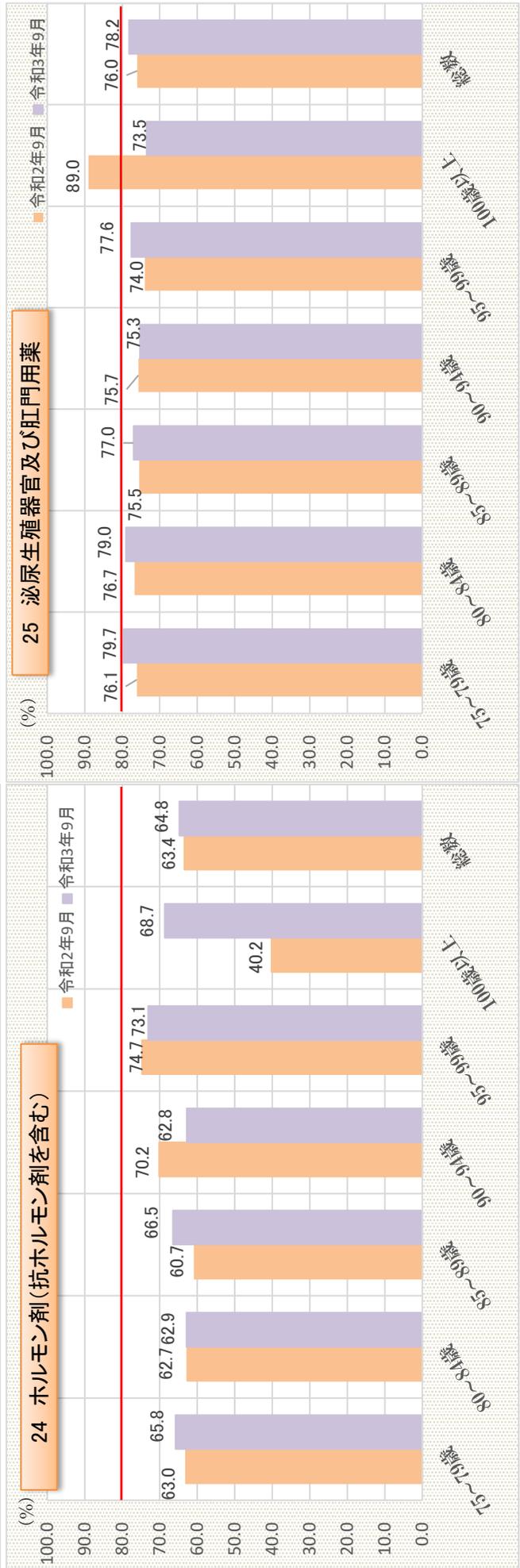
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



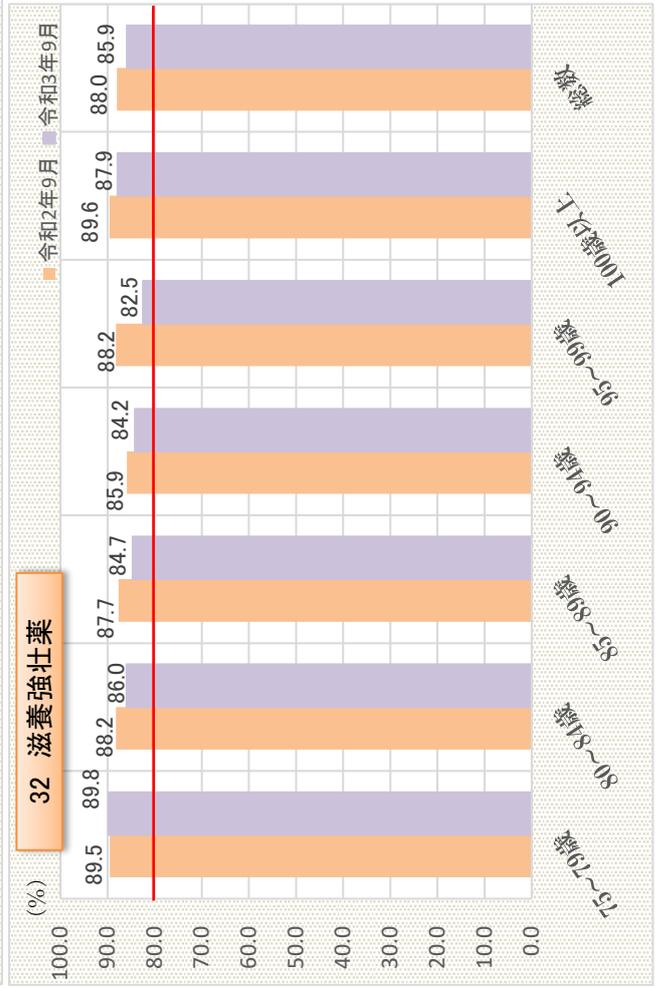
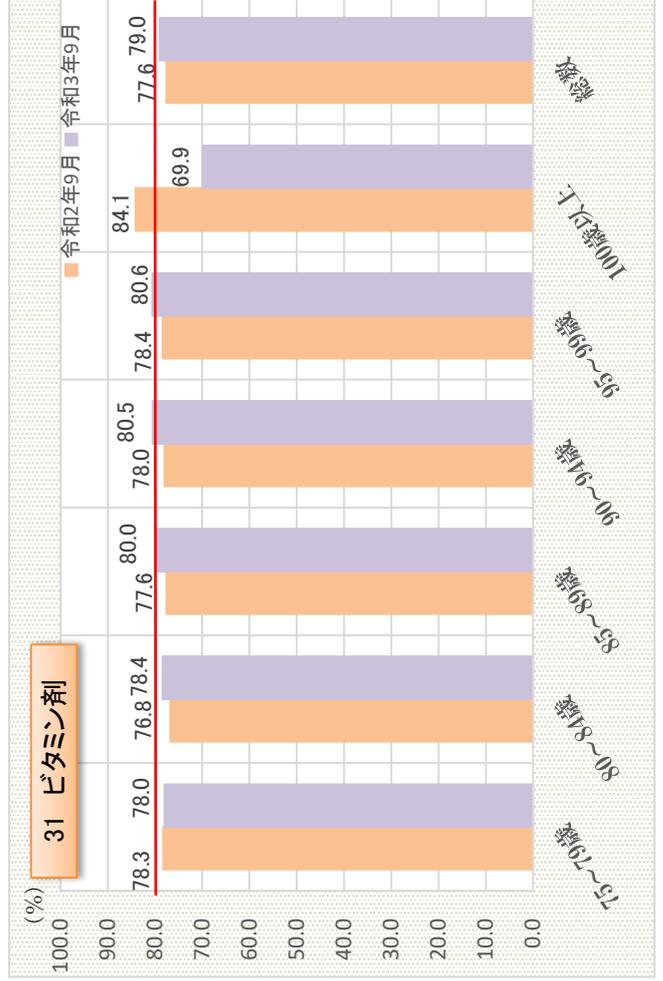
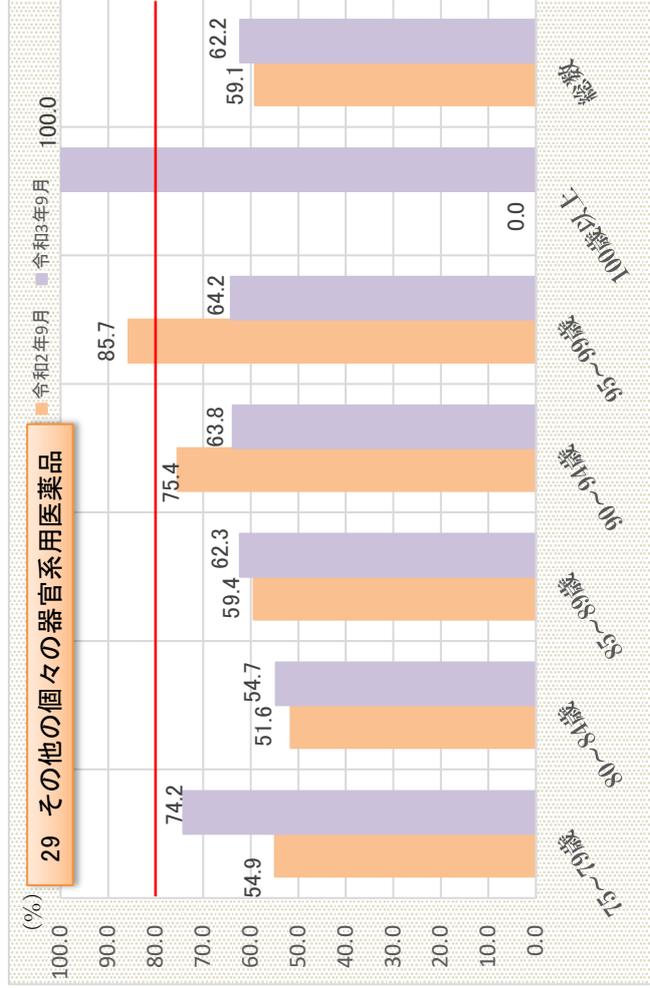
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



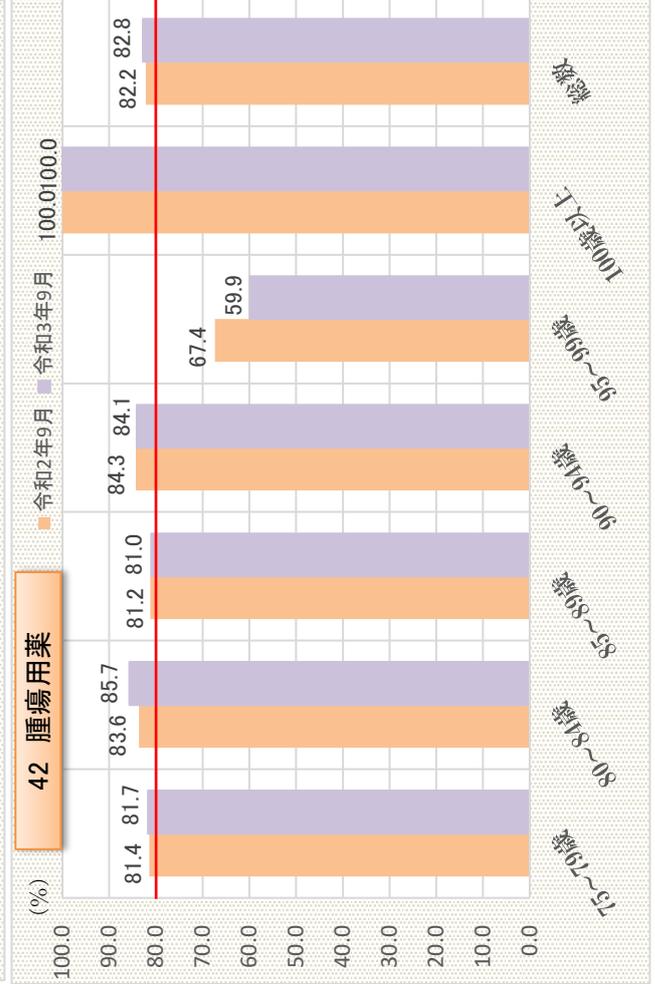
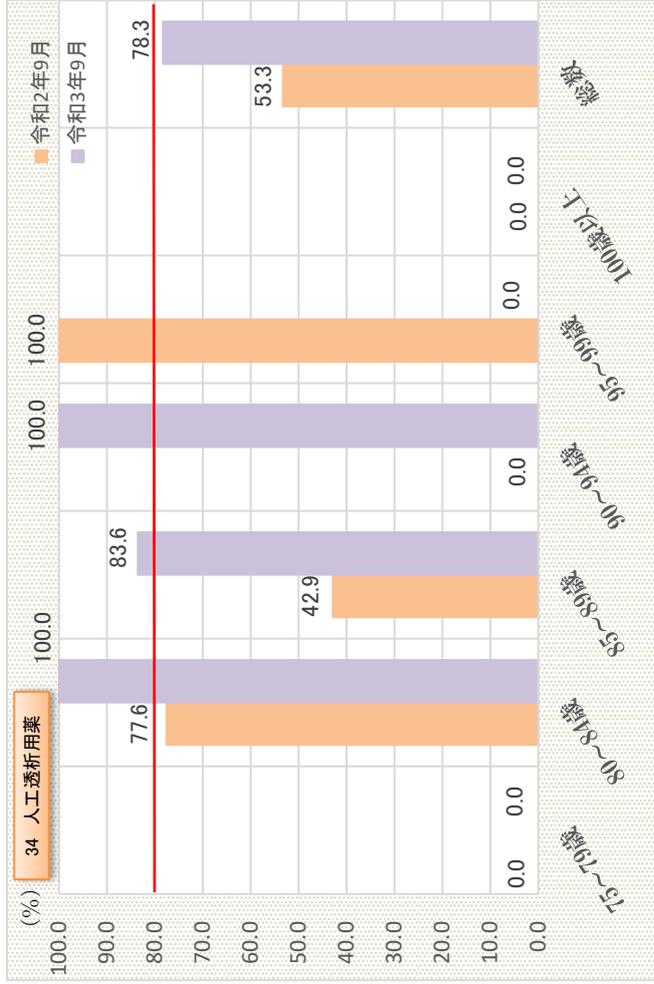
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



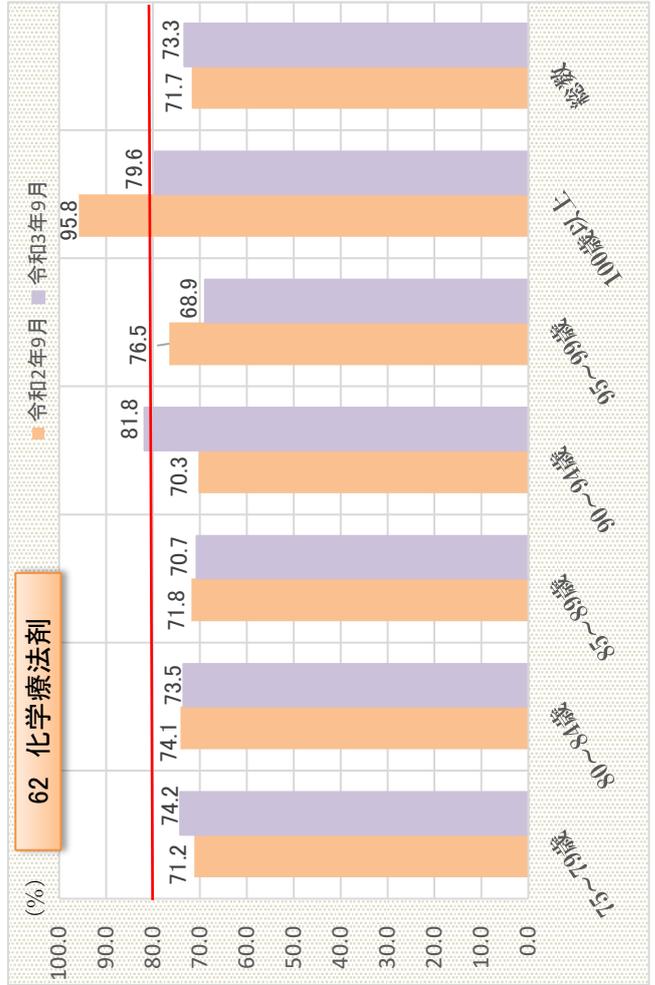
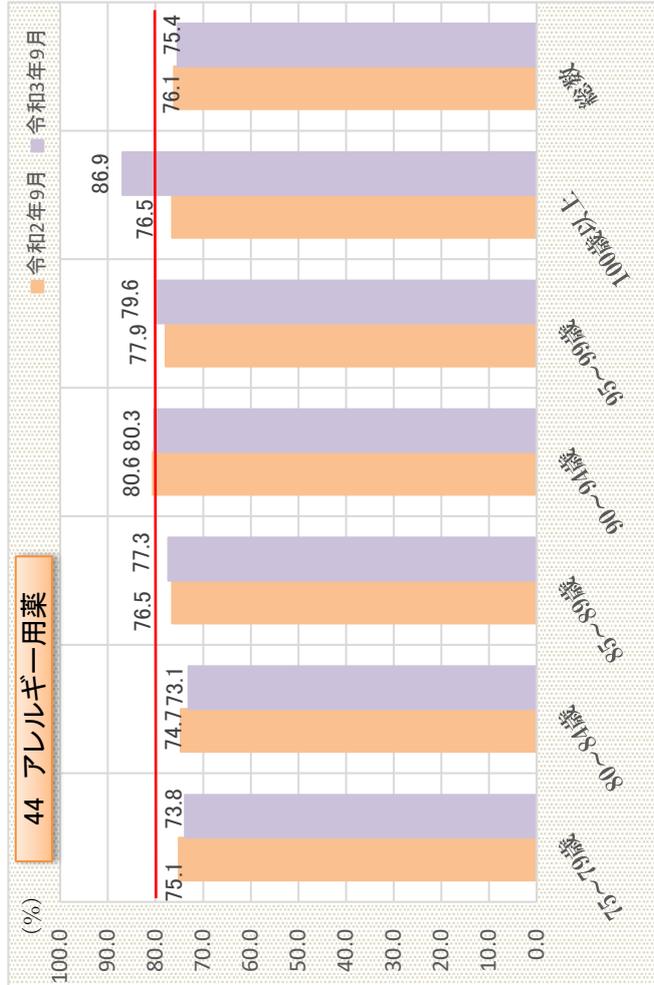
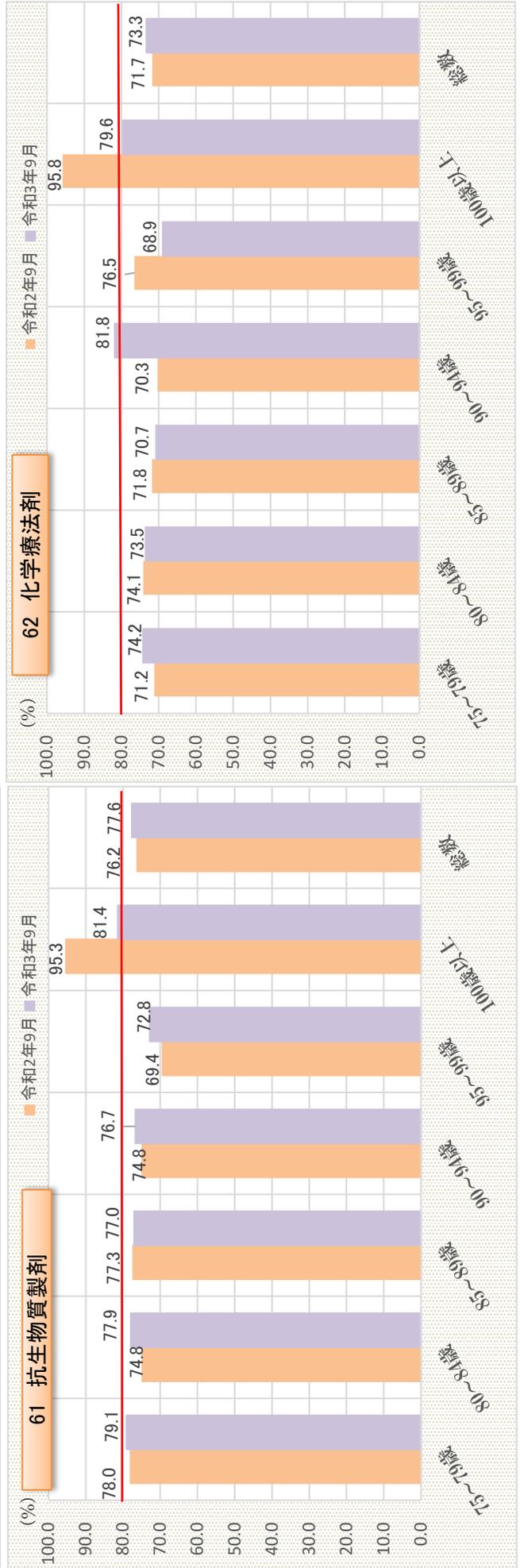
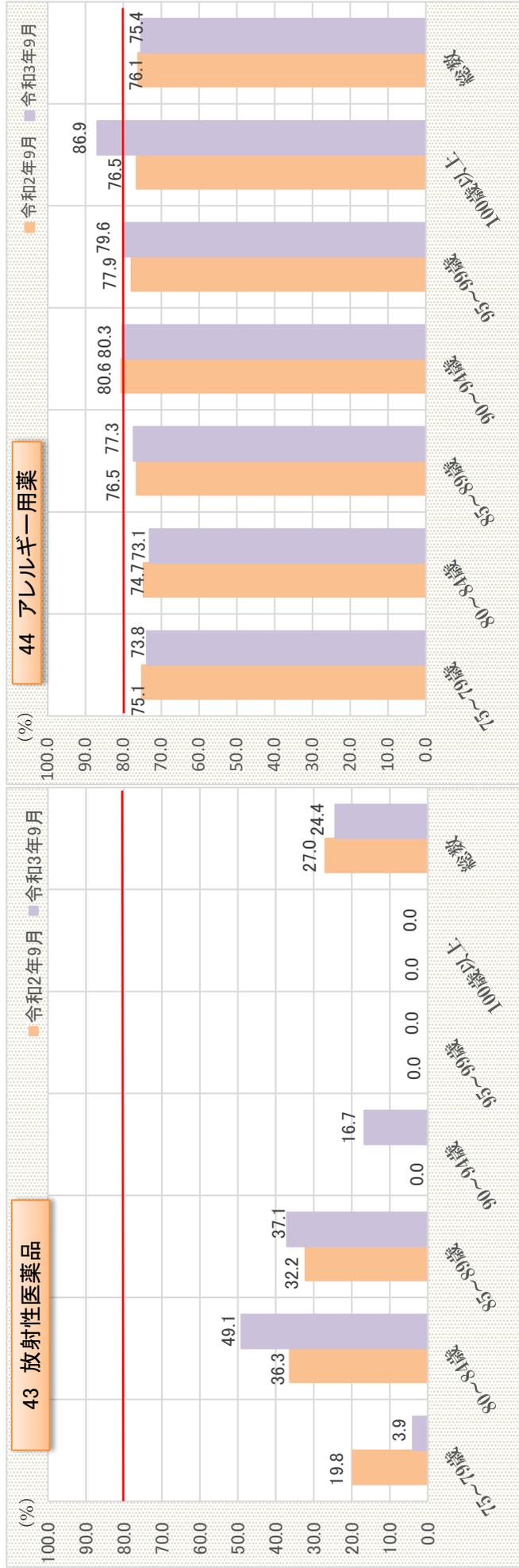
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



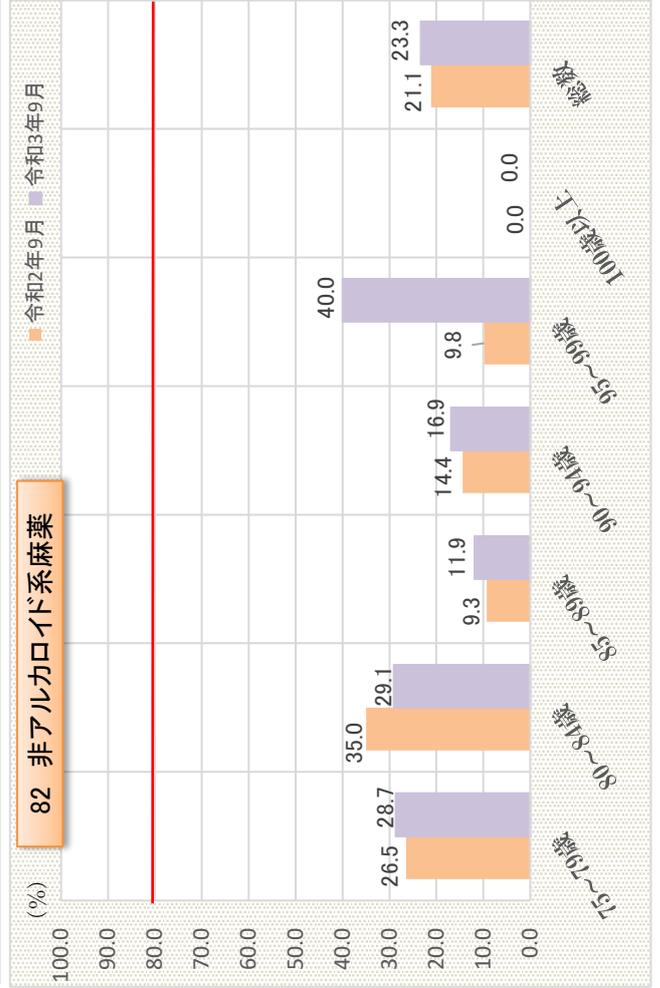
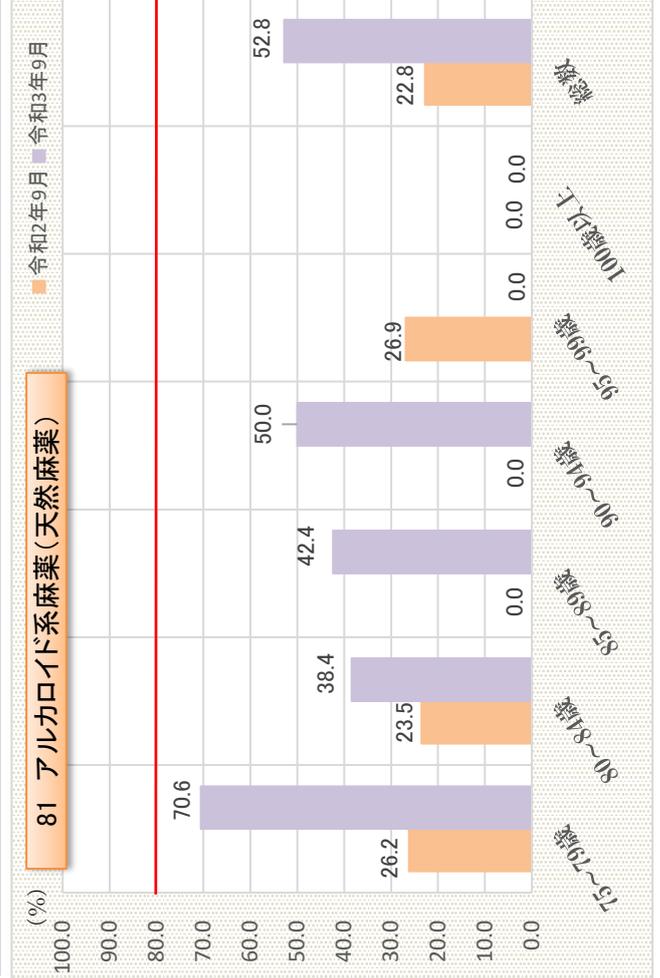
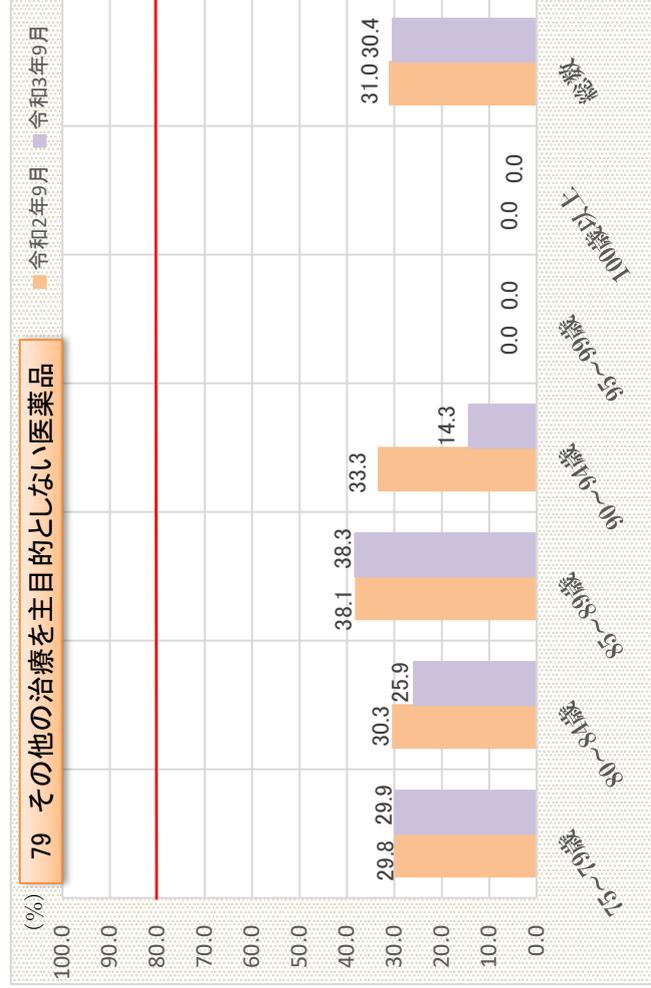
75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1



75歳以上年齢階級別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-1-1



75歳以上薬効分類別の使用割合(前年度比較)

資料No.4-2

薬効分類別	令和2年9月診療分			令和3年9月診療分		
	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数	使用割合(%)	対象薬剤数	切替薬剤数
総数	75.6	24,209,279	18,294,649	77.2	24,665,404	19,039,304
11 中枢神経系用薬	70.8	2,801,536	1,984,706	73.3	3,219,837	2,358,871
12 末梢神経系用薬	65.6	209,525	137,415	62.6	208,213	130,299
13 感覚器官用薬	58.5	360,295	210,707	60.2	365,713	220,324
19 その他の神経系及び感覚器官用医薬品	—	0	0	—	0	0
21 循環器官用薬	77.9	6,389,379	4,978,411	79.6	6,596,957	5,248,899
22 呼吸器官用薬	76.6	651,966	499,251	79.0	643,113	508,213
23 消化器官用薬	85.1	5,031,048	4,279,087	85.8	4,954,434	4,252,342
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	63.4	163,590	103,679	64.8	162,557	105,405
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	76.0	596,487	453,160	78.2	648,382	507,191
26 外用用薬	58.1	2,725,316	1,584,681	61.4	2,629,792	1,613,469
27 歯科口腔用薬	—	0	0	—	0	0
29 その他の個々の器官系用医薬品	59.1	8,171	4,828	62.2	7,784	4,842
31 ビタミン剤	77.6	1,265,674	982,225	79.0	1,190,514	940,124
32 滋養強壯薬	88.0	177,838	156,454	85.9	197,148	169,440
33 血液・体液用薬	79.5	1,943,510	1,545,469	80.2	1,963,890	1,575,819
34 人工透析用薬	53.3	351	187	78.3	258	202
39 その他の代謝性医薬品	71.8	1,232,794	884,983	74.6	1,225,895	914,190
41 細胞賦活用薬	—	0	0	—	0	0
42 腫瘍用薬	82.2	76,857	63,170	82.8	78,184	64,729
43 放射性医薬品	27.0	9,904	2,672	24.4	10,054	2,449
44 アレルギー用薬	76.1	398,283	302,956	75.4	397,749	299,877
49 その他の組織細胞機能用医薬品	—	0	0	—	0	0
51 生薬	—	0	0	—	0	0
52 漢方製剤	—	0	0	—	0	0
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	—	0	0	—	0	0
61 抗生物質製剤	76.2	93,377	71,187	77.6	92,802	72,012
62 化学療法剤	71.7	65,614	47,067	73.3	63,258	46,387
63 生物学的製剤	—	0	0	—	0	0
64 寄生動物用薬	—	0	0	—	0	0
69 その他の病原生物に対する医薬品	—	0	0	—	0	0
71 調剤用薬	—	0	0	—	0	0
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	55.8	1,852	1,033	80.9	2,256	1,826
73 公衆衛生用薬	—	0	0	—	0	0
74 体外診断用医薬品	—	0	0	—	0	0
79 その他の治療を主目的としない医薬品	31.0	346	107	30.4	352	107
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	22.8	2,197	501	52.8	2,806	1,482
82 非アルカロイド系麻薬	21.1	3,369	712	23.3	3,456	806

75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
総 数	令和2年9月	75.1	74.9	75.5	77.0	78.9	84.2	75.6
	令和3年9月	76.6	76.5	77.4	78.4	80.1	83.4	77.2
	差	1.5	1.6	1.9	1.4	1.2	△ 0.8	1.6
11 中枢神経系用薬	令和2年9月	67.5	70.0	72.1	74.7	79.4	83.6	70.8
	令和3年9月	70.6	71.9	74.5	77.4	80.6	83.1	73.3
	差	3.1	1.9	2.4	2.7	1.2	△ 0.5	2.5
12 末梢神経系用薬	令和2年9月	63.2	65.4	68.6	67.0	66.6	57.8	65.6
	令和3年9月	62.4	62.5	64.0	59.7	55.5	65.5	62.6
	差	△ 0.8	△ 2.9	△ 4.6	△ 7.3	△ 11.1	7.7	△ 3.0
13 感覚器官用薬	令和2年9月	58.3	57.6	59.4	58.7	62.0	62.9	58.5
	令和3年9月	60.5	59.2	59.7	61.5	62.9	65.5	60.2
	差	2.2	1.6	0.3	2.8	0.9	2.6	1.7
19 その他の神経系及び感覚器官 用医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
21 循環器官用薬	令和2年9月	78.5	77.6	77.3	77.3	80.0	88.2	77.9
	令和3年9月	79.7	79.4	79.3	79.4	79.8	84.7	79.6
	差	1.2	1.8	2.0	2.1	△ 0.2	△ 3.5	1.7
22 呼吸器官用薬	令和2年9月	76.4	75.0	75.7	78.8	83.2	89.2	76.6
	令和3年9月	80.3	78.2	76.5	79.0	86.4	88.9	79.0
	差	3.9	3.2	0.8	0.2	3.2	△ 0.3	2.4
23 消化器官用薬	令和2年9月	84.0	84.1	85.7	86.5	88.3	89.2	85.1
	令和3年9月	84.9	84.4	86.4	87.7	88.8	90.3	85.8
	差	0.9	0.3	0.7	1.2	0.5	1.1	0.7
24 ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	令和2年9月	63.0	62.7	60.7	70.2	74.7	40.2	63.4
	令和3年9月	65.8	62.9	66.5	62.8	73.1	68.7	64.8
	差	2.8	0.2	5.8	△ 7.4	△ 1.6	28.5	1.4
25 泌尿生殖器官及び肛門用薬	令和2年9月	76.1	76.7	75.5	75.7	74.0	89.0	76.0
	令和3年9月	79.7	79.0	77.0	75.3	77.6	73.5	78.2
	差	3.6	2.3	1.5	△ 0.4	3.6	△ 15.5	2.2
26 外皮用薬	令和2年9月	59.8	57.6	57.2	56.8	57.7	59.7	58.1
	令和3年9月	62.2	61.2	61.7	59.0	59.8	65.2	61.4
	差	2.4	3.6	4.5	2.2	2.1	5.5	3.3
27 歯科口腔用薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
29 その他の個々の器官系用医薬品	令和2年9月	54.9	51.6	59.4	75.4	85.7	—	59.1
	令和3年9月	74.2	54.7	62.3	63.8	64.2	100.0	62.2
	差	19.3	3.1	2.9	△ 11.6	△ 21.5	—	3.1
31 ビタミン剤	令和2年9月	78.3	76.8	77.6	78.0	78.4	84.1	77.6
	令和3年9月	78.0	78.4	80.0	80.5	80.6	69.9	79.0
	差	△ 0.3	1.6	2.4	2.5	2.2	△ 14.2	1.4
32 滋養強壯薬	令和2年9月	89.5	88.2	87.7	85.9	88.2	89.6	88.0
	令和3年9月	89.8	86.0	84.7	84.2	82.5	87.9	85.9
	差	0.3	△ 2.2	△ 3.0	△ 1.7	△ 5.7	△ 1.7	△ 2.1
33 血液・体液用薬	令和2年9月	78.6	80.0	79.0	80.5	82.3	80.2	79.5
	令和3年9月	79.4	80.1	80.6	81.0	80.5	83.0	80.2
	差	0.8	0.1	1.6	0.5	△ 1.8	2.8	0.7
34 人工透析用薬	令和2年9月	0.0	77.6	42.9	—	100.0	—	53.3
	令和3年9月	0.0	100.0	83.6	100.0	—	—	78.3
	差	0.0	22.4	40.7	—	—	—	25.0
39 その他の代謝性医薬品	令和2年9月	73.1	71.0	70.8	74.0	58.0	66.7	71.8
	令和3年9月	74.9	75.5	72.8	72.6	73.6	65.5	74.6
	差	1.8	4.5	2.0	△ 1.4	15.6	△ 1.2	2.8
41 細胞賦活用薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—

75歳以上年齢階級別の使用割合(対前年度比較)

資料No.4-3

薬効分類別	診療月	75歳から79歳 使用割合(%)	80歳から84歳 使用割合(%)	85歳から89歳 使用割合(%)	90歳から94歳 使用割合(%)	95歳から99歳 使用割合(%)	100歳以上 使用割合(%)	総数 使用割合(%)
42 腫瘍用薬	令和2年9月	81.4	83.6	81.2	84.3	67.4	100.0	82.2
	令和3年9月	81.7	85.7	81.0	84.1	59.9	100.0	82.8
	差	0.3	2.1	△ 0.2	△ 0.2	△ 7.5	0.0	0.6
43 放射性医薬品	令和2年9月	19.8	36.3	32.2	0.0	—	—	27.0
	令和3年9月	3.9	49.1	37.1	16.7	—	—	24.4
	差	△ 15.9	12.8	4.9	16.7	—	—	△ 2.6
44 アレルギー用薬	令和2年9月	75.1	74.7	76.5	80.6	77.9	76.5	76.1
	令和3年9月	73.8	73.1	77.3	80.3	79.6	86.9	75.4
	差	△ 1.3	△ 1.6	0.8	△ 0.3	1.7	10.4	△ 0.7
49 その他の組織細胞機能用医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
51 生薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
52 漢方製剤	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
61 抗生物質製剤	令和2年9月	78.0	74.8	77.3	74.8	69.4	95.3	76.2
	令和3年9月	79.1	77.9	77.0	76.7	72.8	81.4	77.6
	差	1.1	3.1	△ 0.3	1.9	3.4	△ 13.9	1.4
62 化学療法剤	令和2年9月	71.2	74.1	71.8	70.3	76.5	95.8	71.7
	令和3年9月	74.2	73.5	70.7	81.8	68.9	79.6	73.3
	差	3.0	△ 0.6	△ 1.1	11.5	△ 7.6	△ 16.2	1.6
63 生物学的製剤	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
64 寄生動物用薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
69 その他の病原生物に対する医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
71 調剤用薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)	令和2年9月	54.9	52.7	62.0	62.1	50.0	100.0	55.8
	令和3年9月	87.3	64.7	75.3	82.1	70.6	100.0	80.9
	差	32.4	12.0	13.3	20.0	20.6	0.0	25.1
73 公衆衛生用薬	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
74 体外診断用医薬品	令和2年9月	—	—	—	—	—	—	—
	令和3年9月	—	—	—	—	—	—	—
	差	—	—	—	—	—	—	—
79 その他の治療を主目的としない医薬品	令和2年9月	29.8	30.3	38.1	33.3	—	—	31.0
	令和3年9月	29.9	25.9	38.3	14.3	—	—	30.4
	差	0.1	△ 4.4	0.2	△ 19.0	—	—	△ 0.6
81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)	令和2年9月	26.2	23.5	0.0	0.0	26.9	—	22.8
	令和3年9月	70.6	38.4	42.4	50.0	—	—	52.8
	差	44.4	14.9	42.4	50.0	—	—	30.0
82 非アルカロイド系麻薬	令和2年9月	26.5	35.0	9.3	14.4	9.8	—	21.1
	令和3年9月	28.7	29.1	11.9	16.9	40.0	0.0	23.3
	差	2.2	△ 5.9	2.6	2.5	30.2	—	2.2

5. まとめ

《後発医薬品の使用促進について》

今般の統計結果より、本県では、令和3年9月時点のジェネリック医薬品使用割合において、0歳から74歳までの使用割合は78.6%、75歳以上の使用割合が77.2%であり、国で掲げた目標値80%に近付いていることが分かった。

また、昨年度と同様に、若年層の使用割合が低いことが分かった。

一方昨年度と比較すると、0歳から74歳までの伸びは1.5%、75歳以上の伸びは1.6%であり、着実に伸びていることも分かった。

このことより、保険者協議会は、県、医師会、歯科医師会、薬剤師会などの関係機関と連携し、保護者の方々にジェネリック医薬品が安心・安全な薬剤であることや医療費の抑制につながることを、引き続きイベント等の場や広報により周知していく。